209
277
11

準貴

KEIOGIJUKU UNIVERSITY

参

竹本集

三

ひしあぶらちやう 鶴屋喜右衛門板

ぢいぢいつまおかやとものまとり

[illegible]

かよりひめたり

作者目録

菖蒲前操弦

小野道風青柳硯

庭京操座琲

小袖組貫練門平

愛護稚名歌勝鬨

[illegible]

伊達錦五十四郎

名筆傾城鑑

役行者大峯桜

双蝶蝶曲輪日記

[illegible]

軍法富士見西行

夏祭浪花鑑

仮名手本忠臣蔵

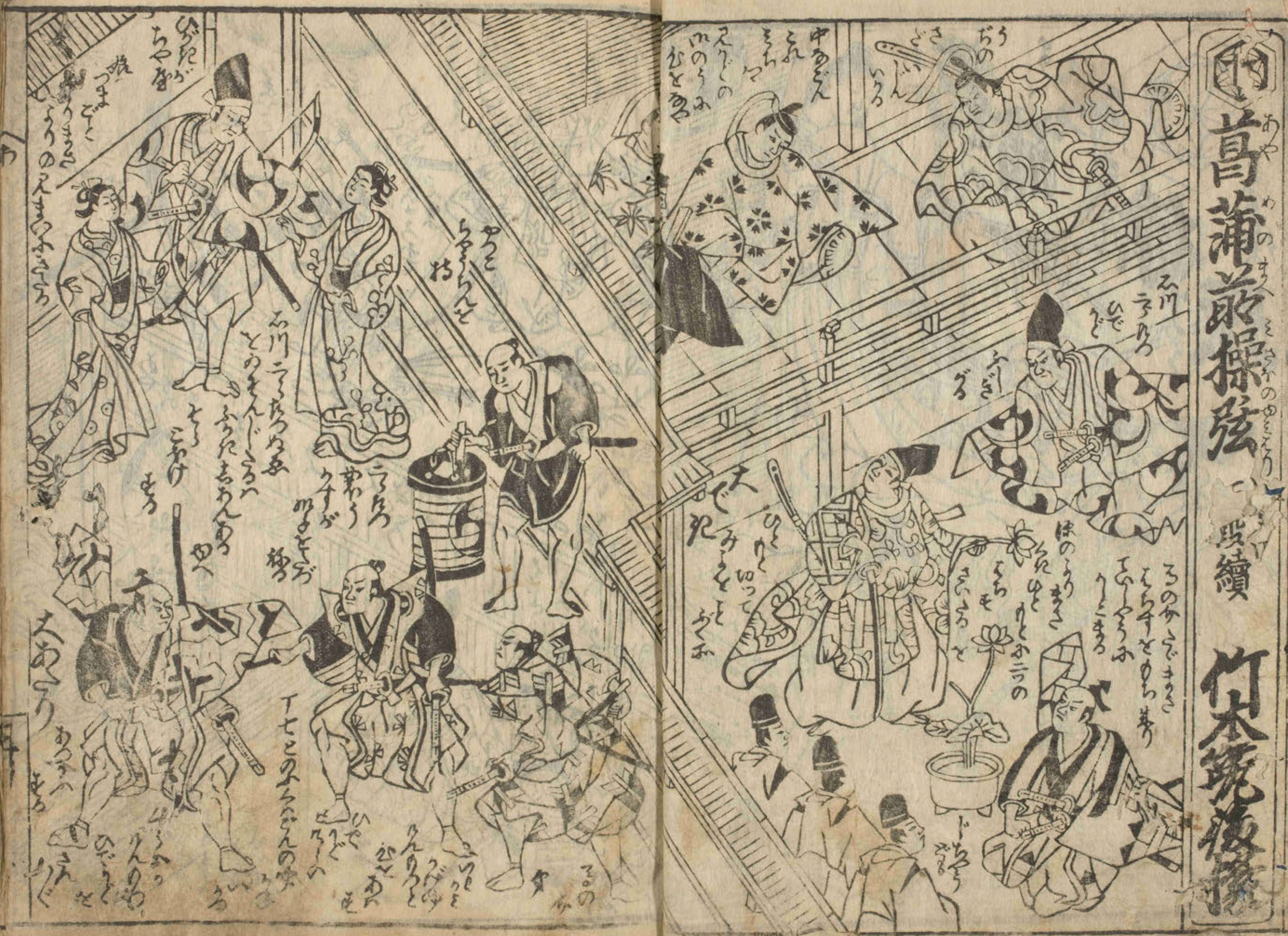
源平布引瀧

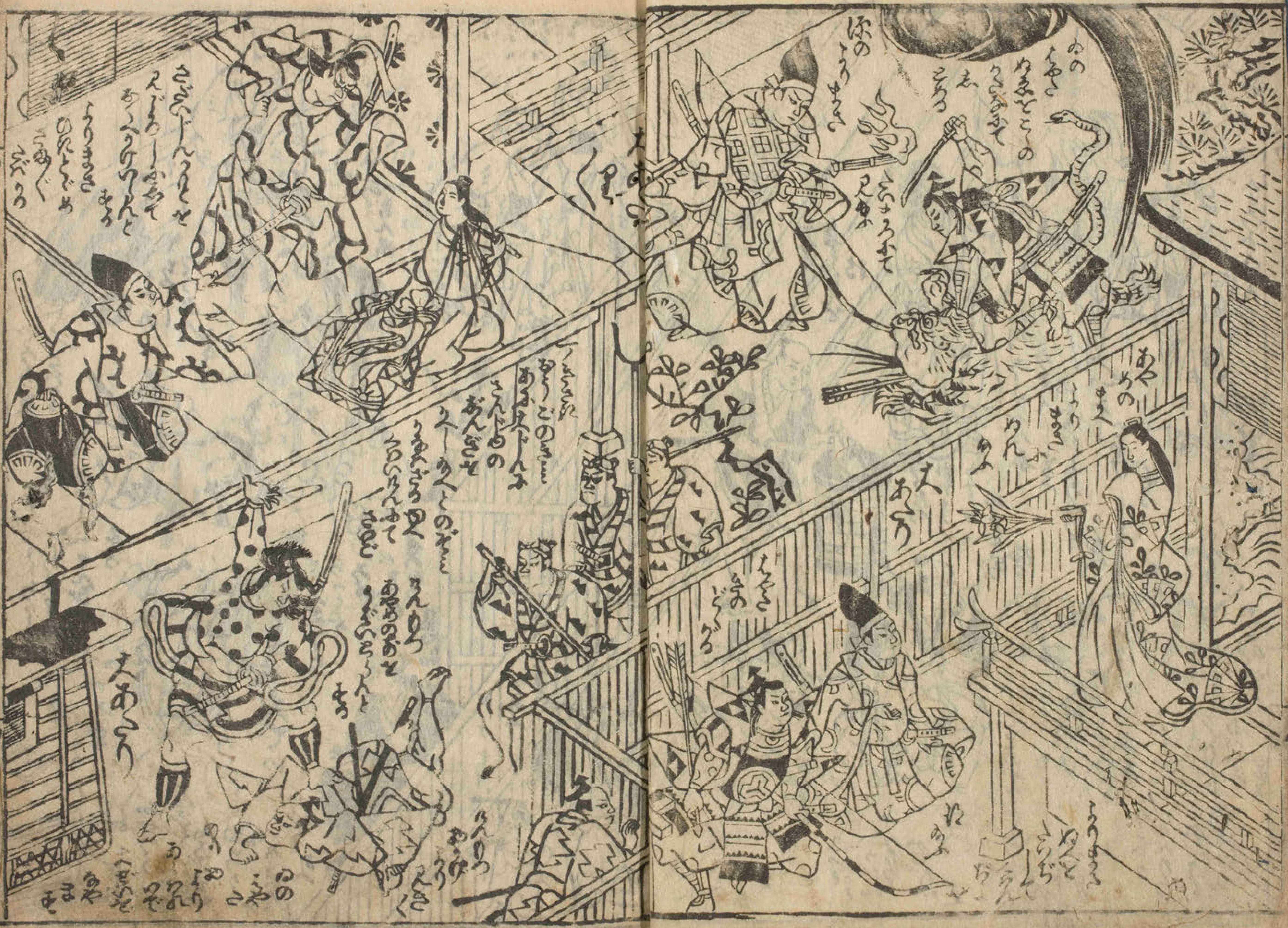
延享二年

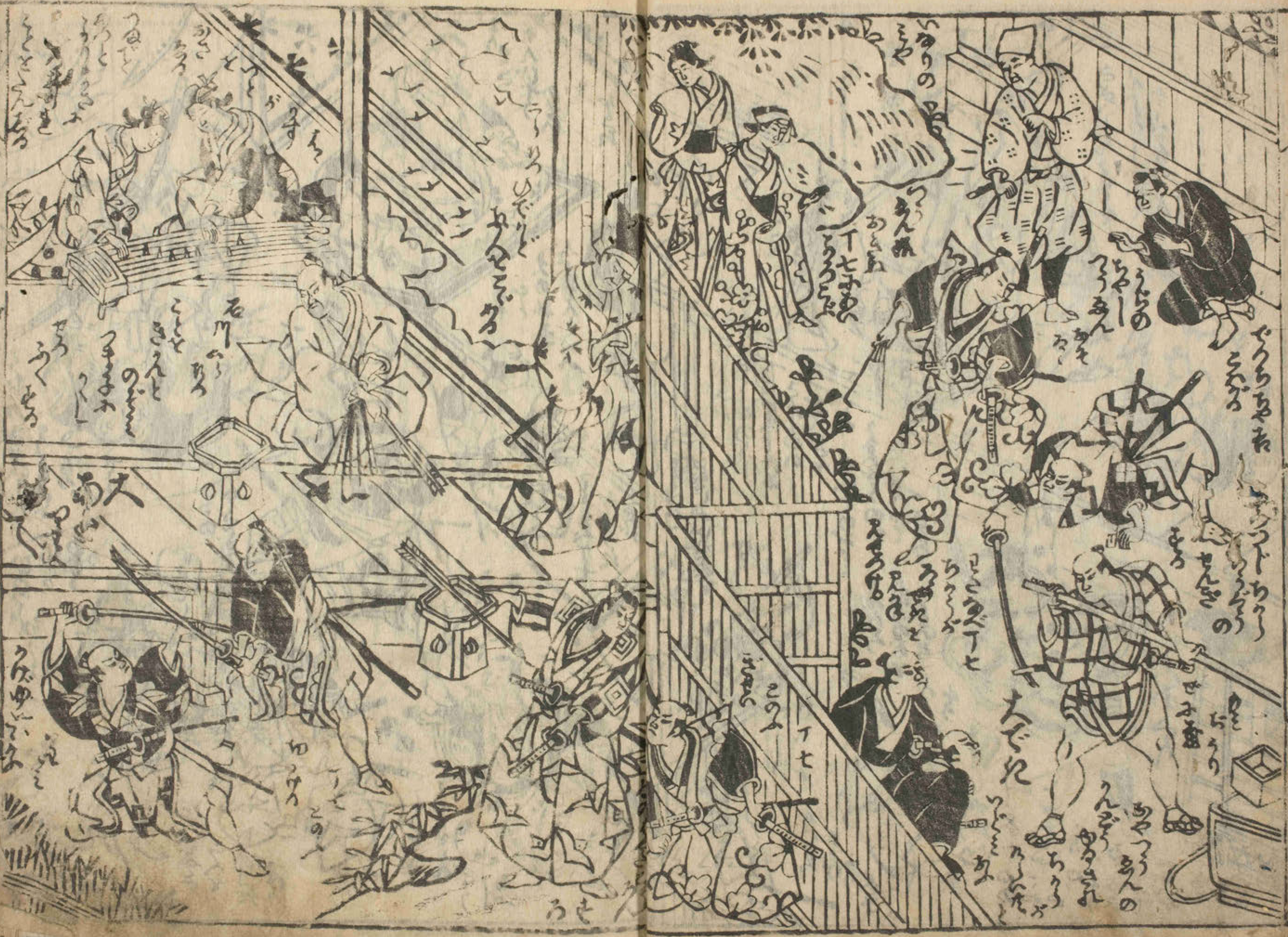
乙丑二月

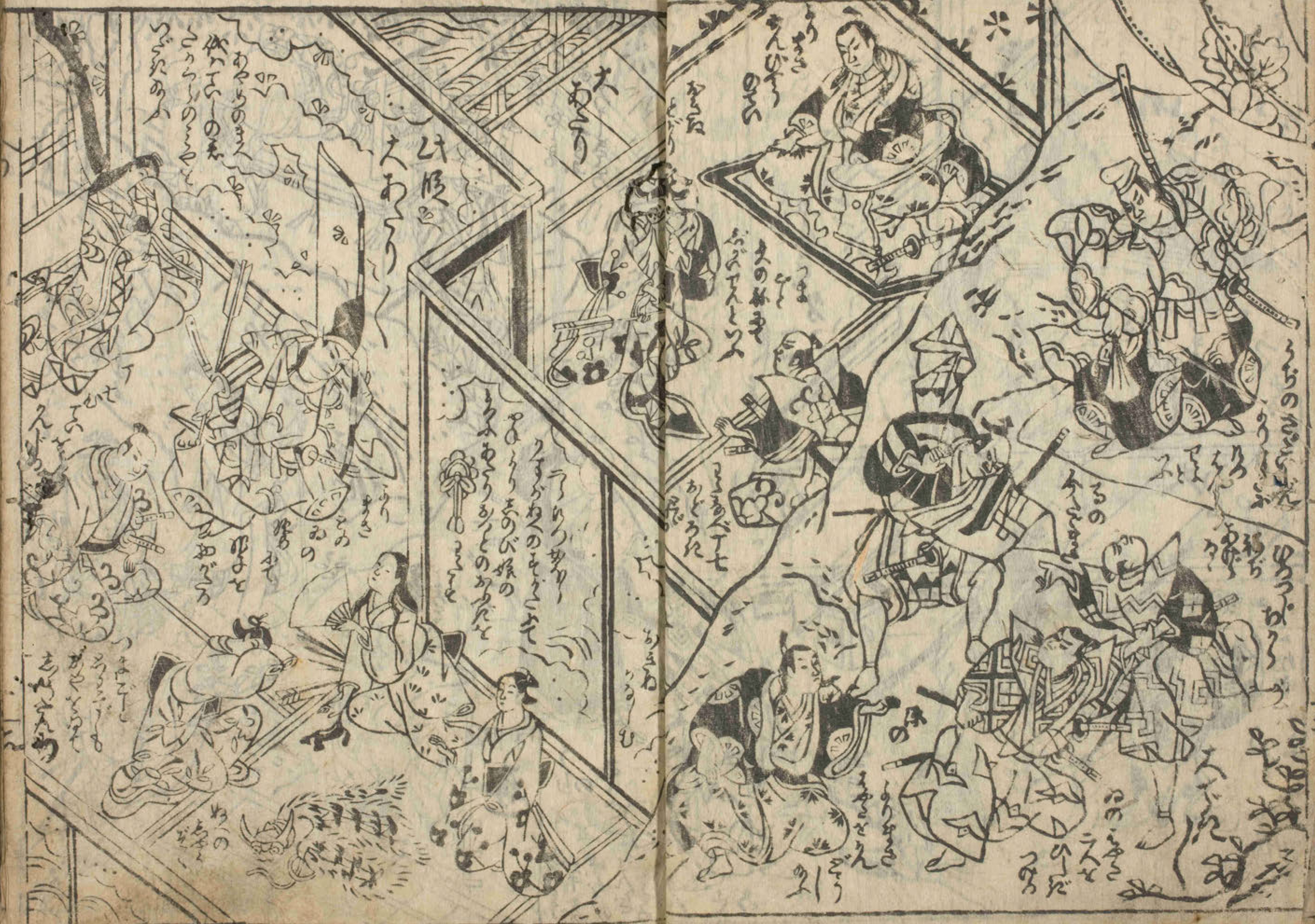
版

四拾八四


菖蒲前操弦
二段續
竹本筑後掾



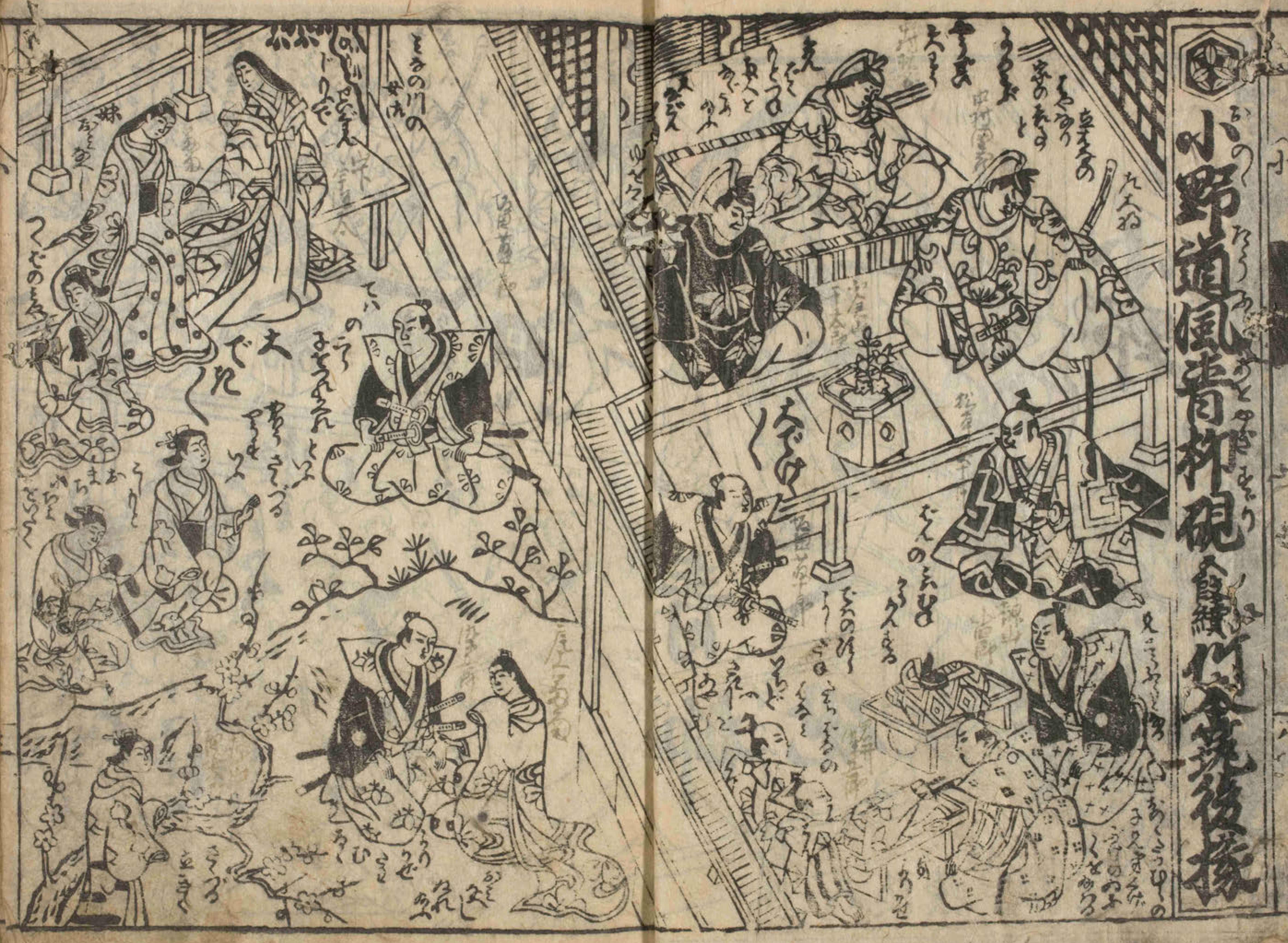




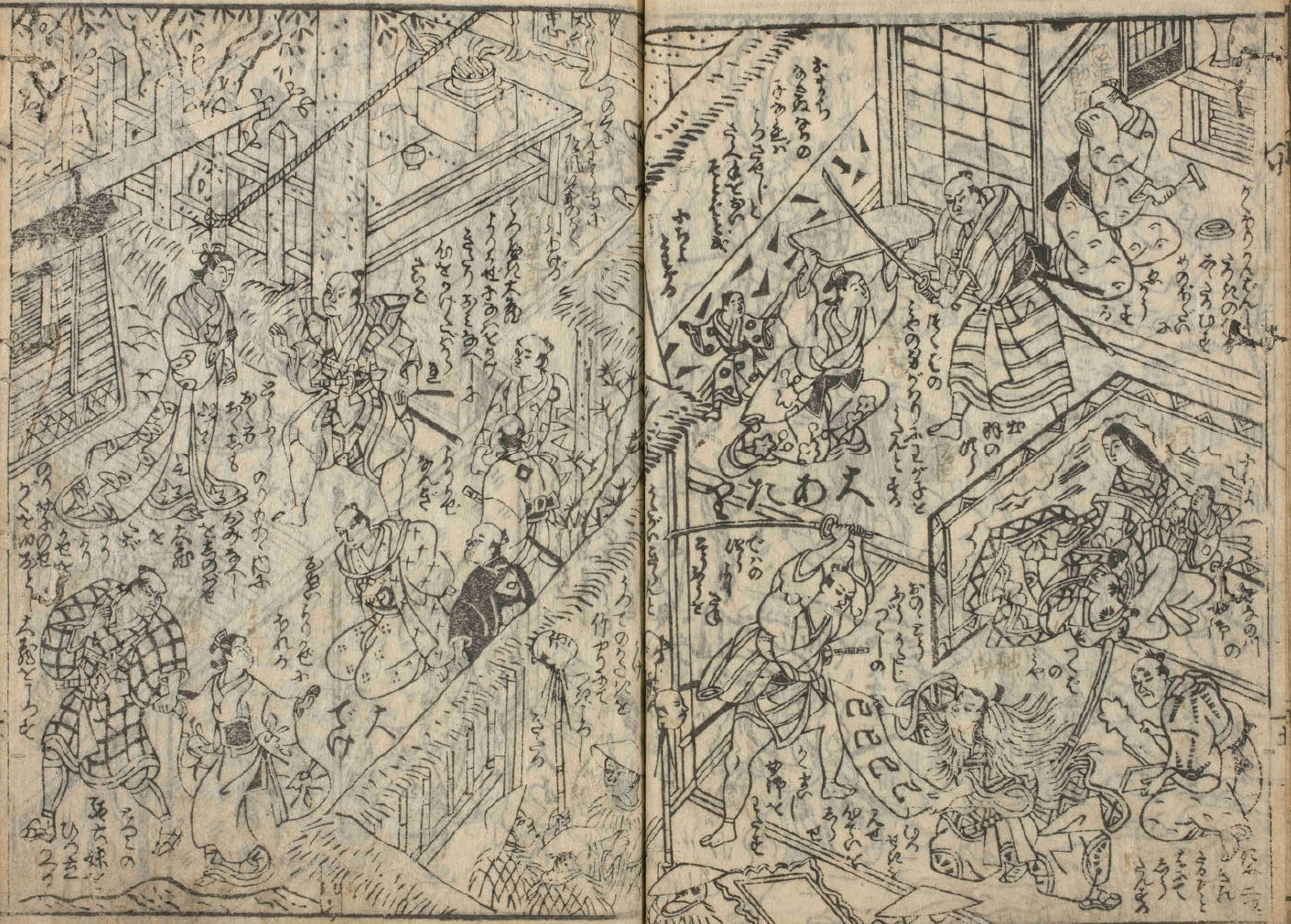
大あたり

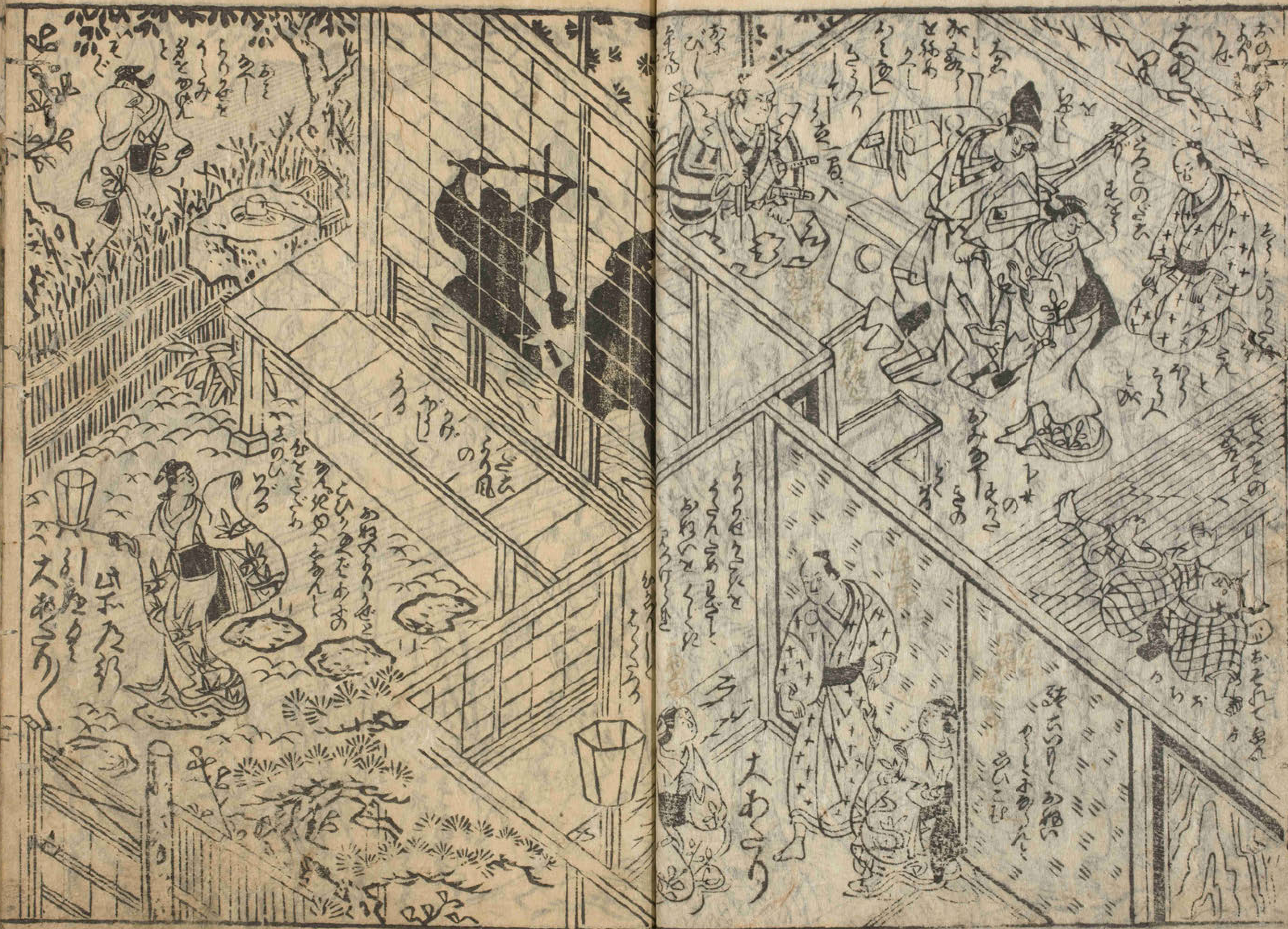
大あたり

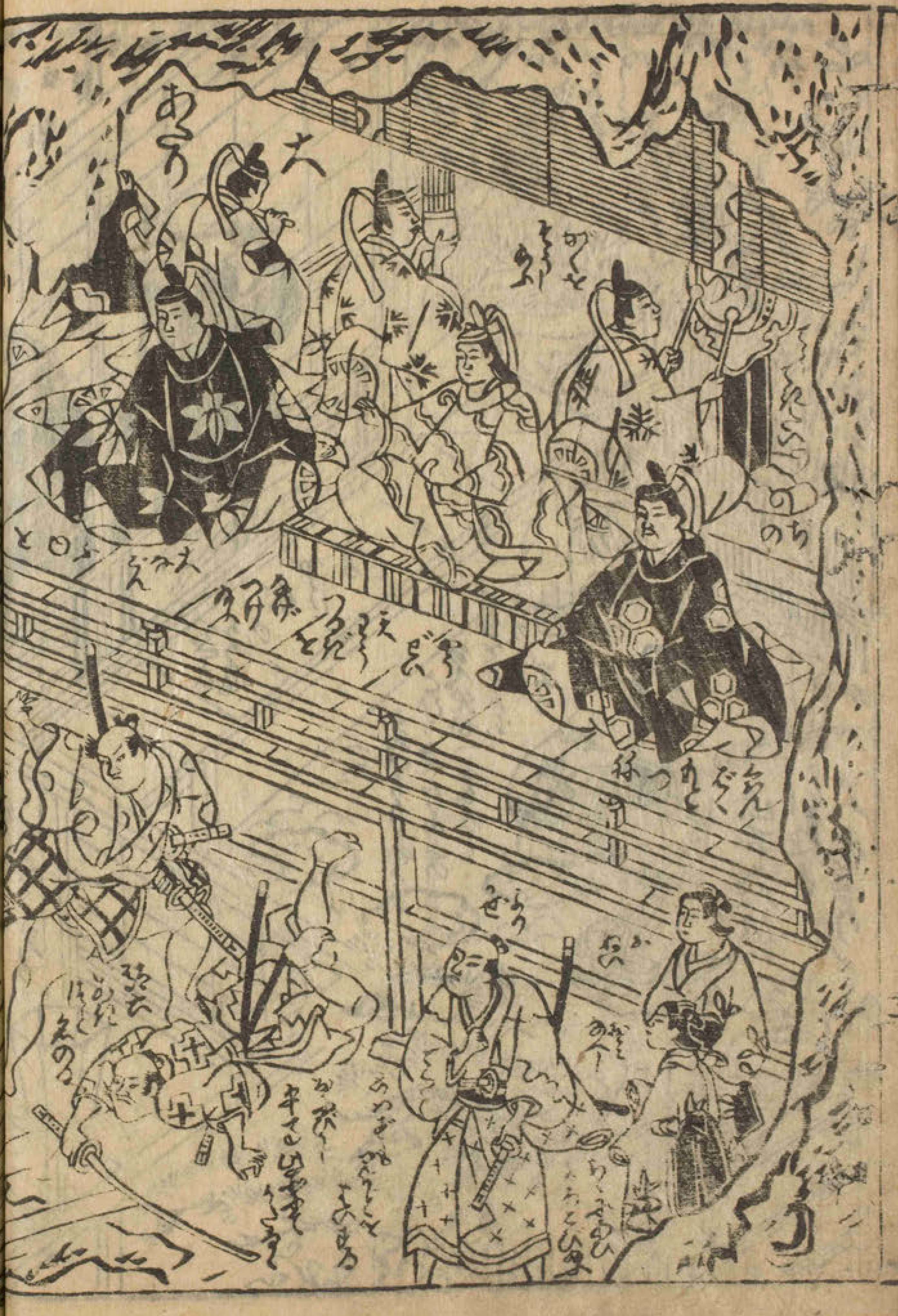
小野道風
青柳硯
全



小野道風青柳硯







[illegible]

都 若太夫

澤村國太郎

歌舞伎狂言

寛保二 戌二月廿三日より

道風

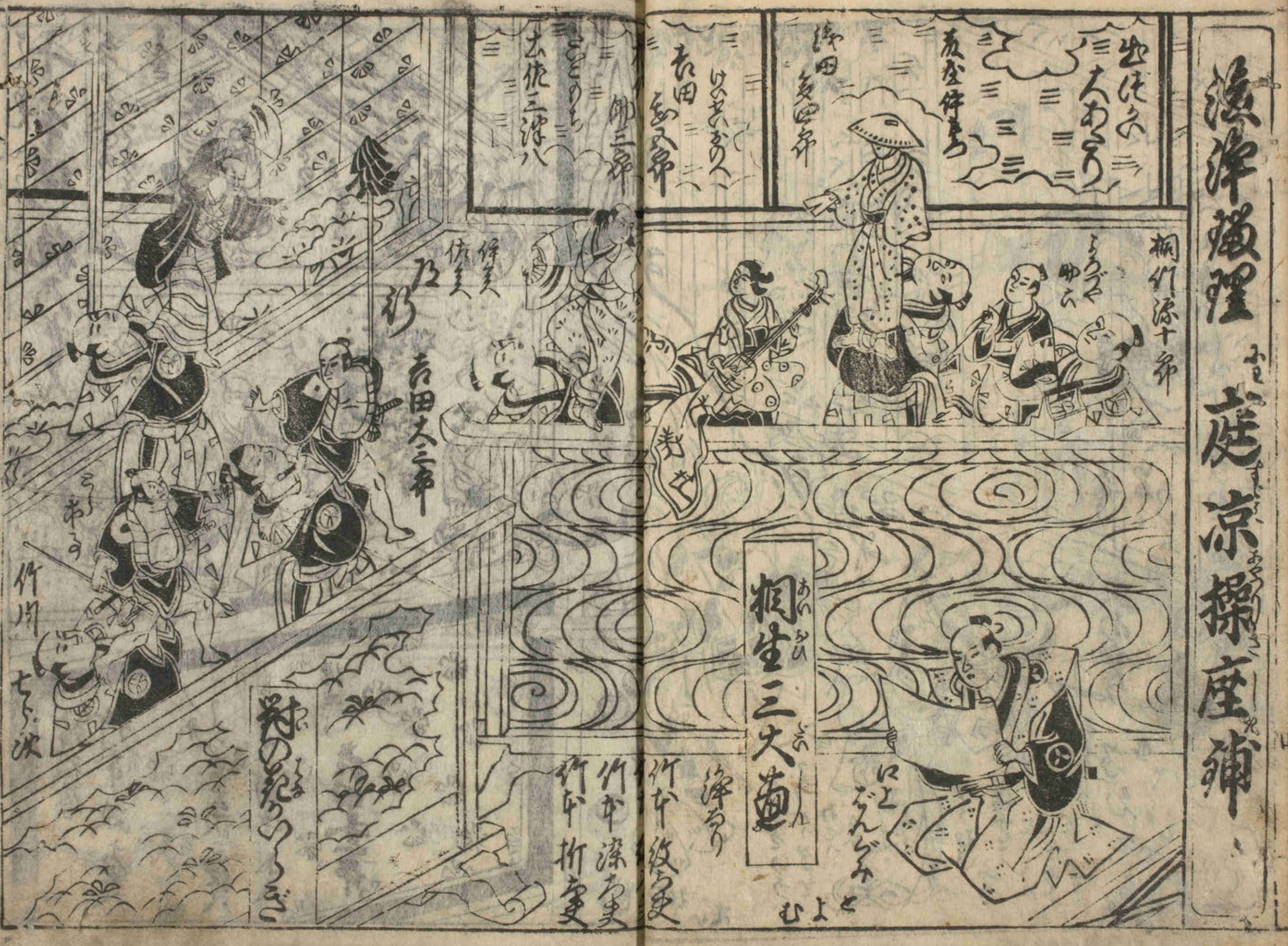
坂六

[illegible]

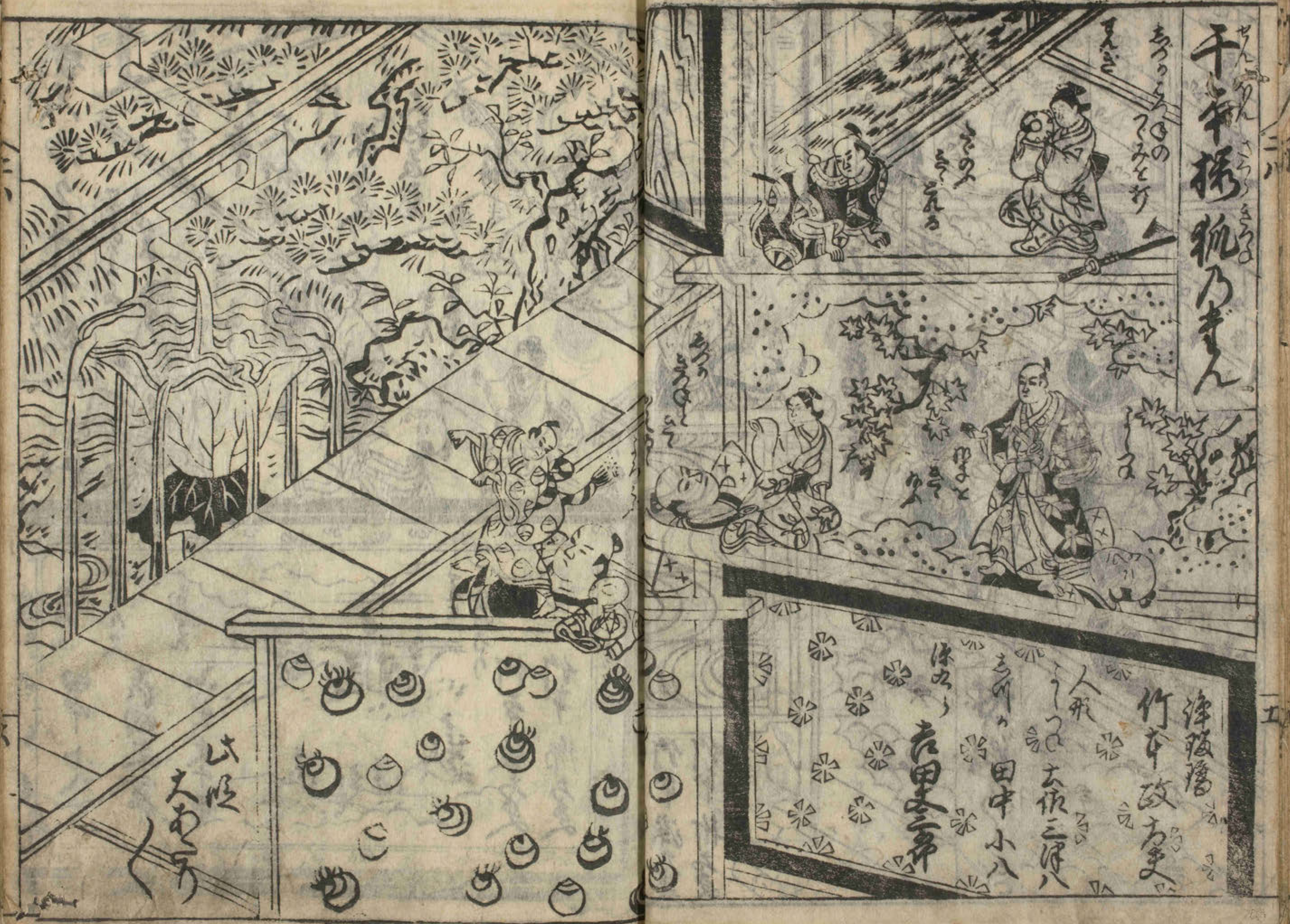
庭涼
採
座
舗
相撲入道
全

綴目翻転

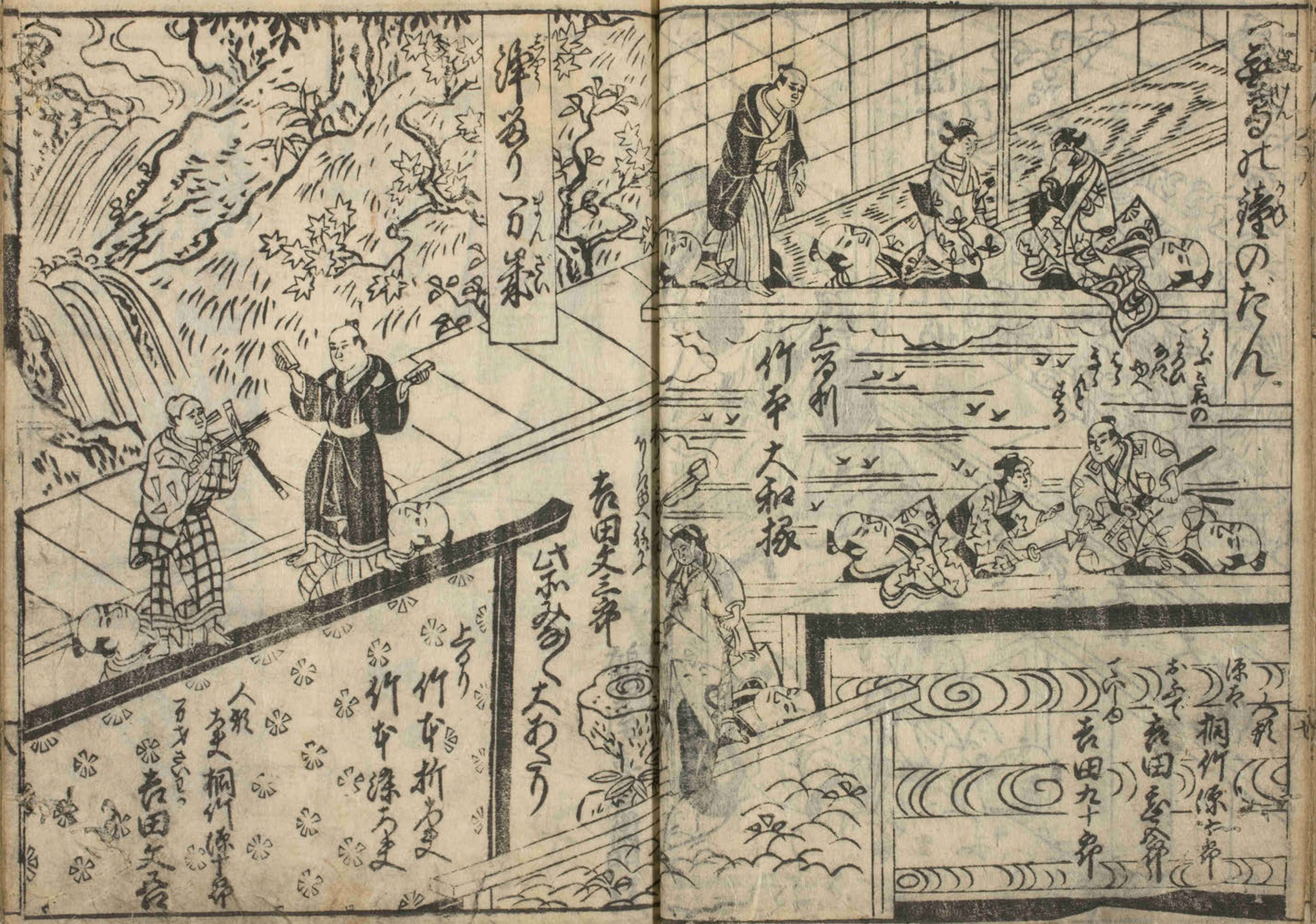
相模入道
二段續



浄瑠璃
庭涼操座舗
桐竹源十郎
吉田文三郎
桐生三大曲
浄るり
竹本紋太夫
竹本染太夫
竹本折太夫
吉田太三郎

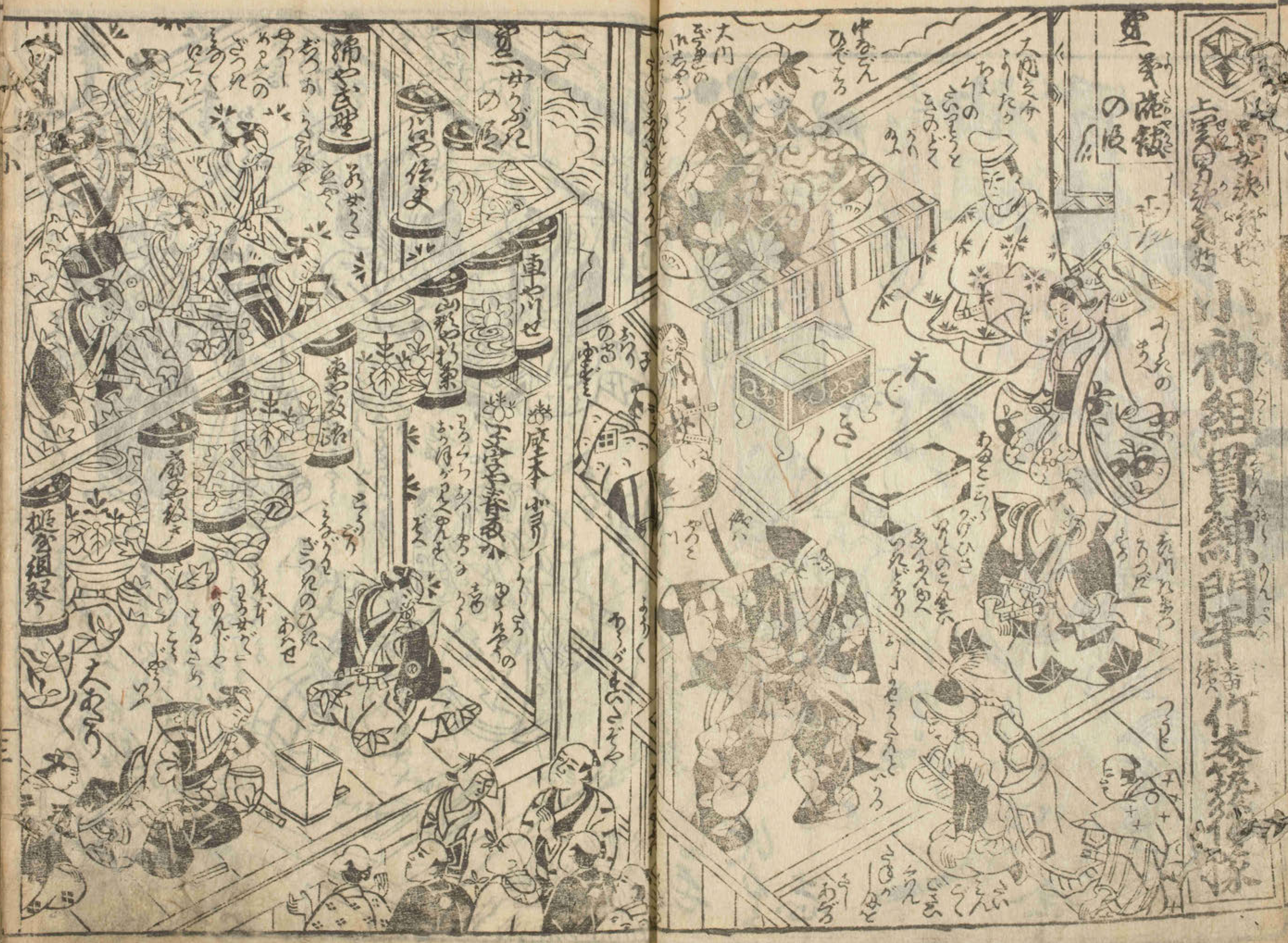

浄瑠璃
竹本政太夫
田中小八
吉田文三郎

竹本大和掾
田中小八
吉田文三郎
竹本政太夫
吉田文吾



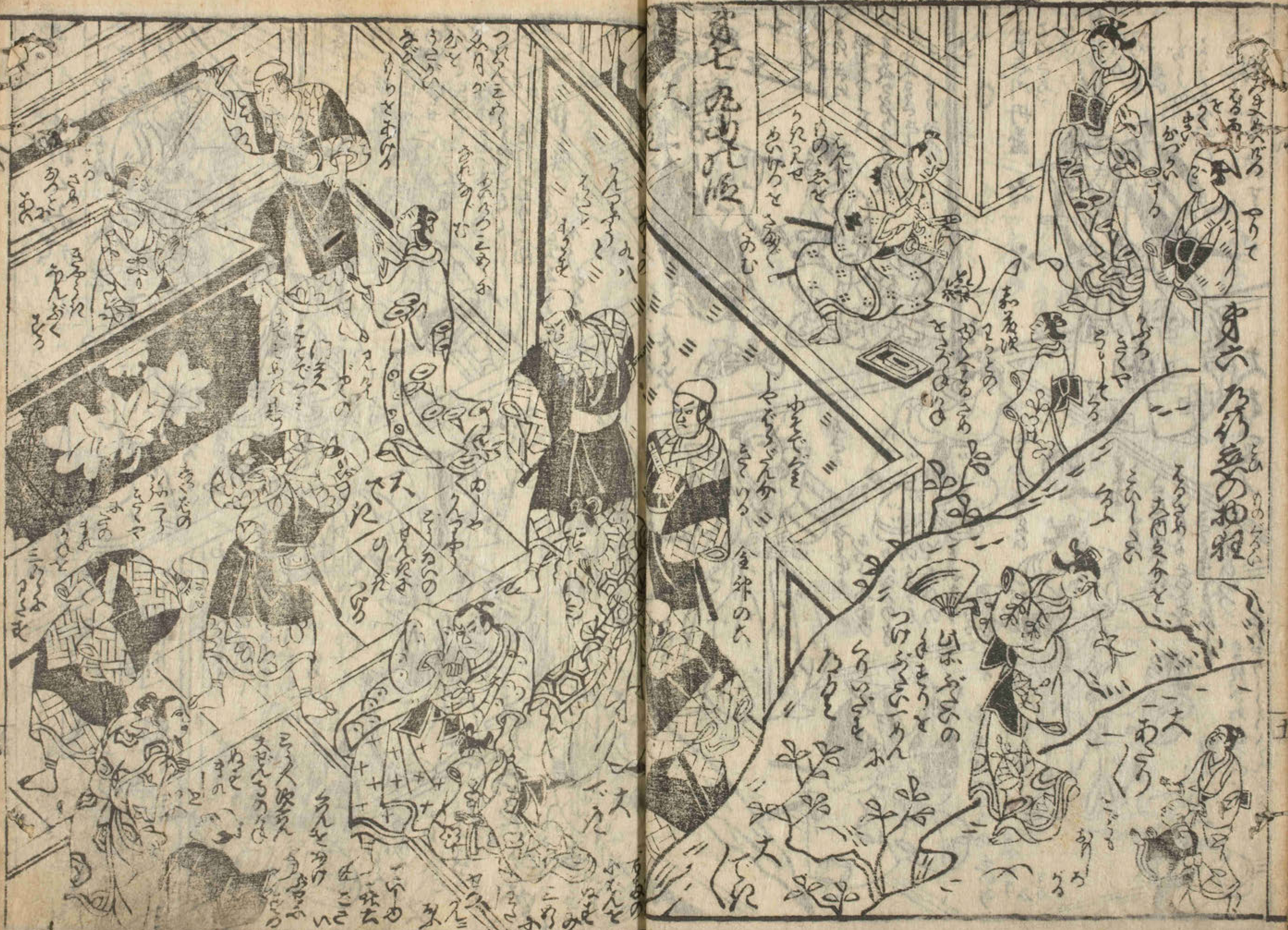
上るり
竹本大和掾
吉田文三郎
吉田九十郎
吉田文吾

小袖組
貫練門平
十番續
全



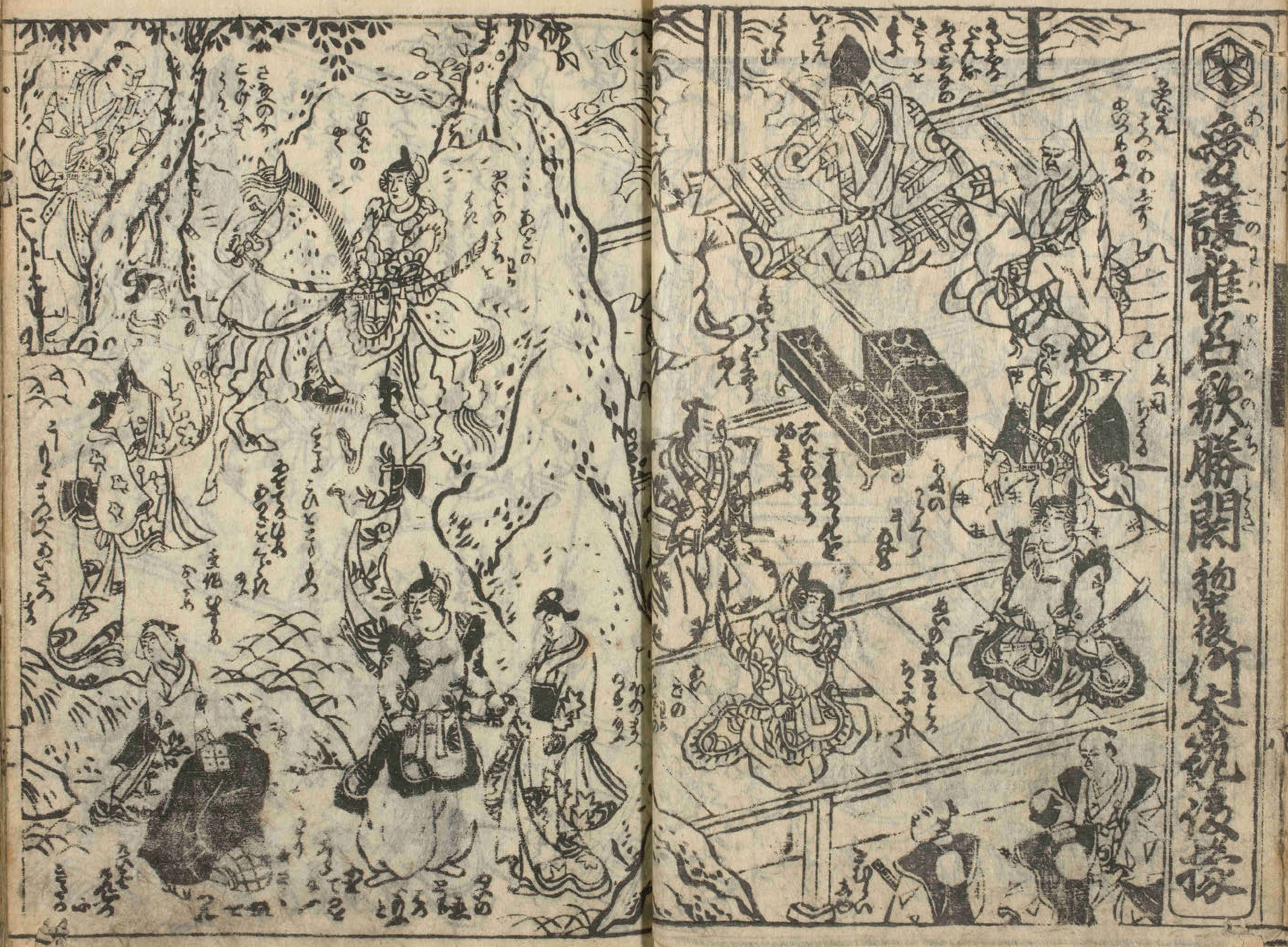
小袖組貫練門平
車や川せ

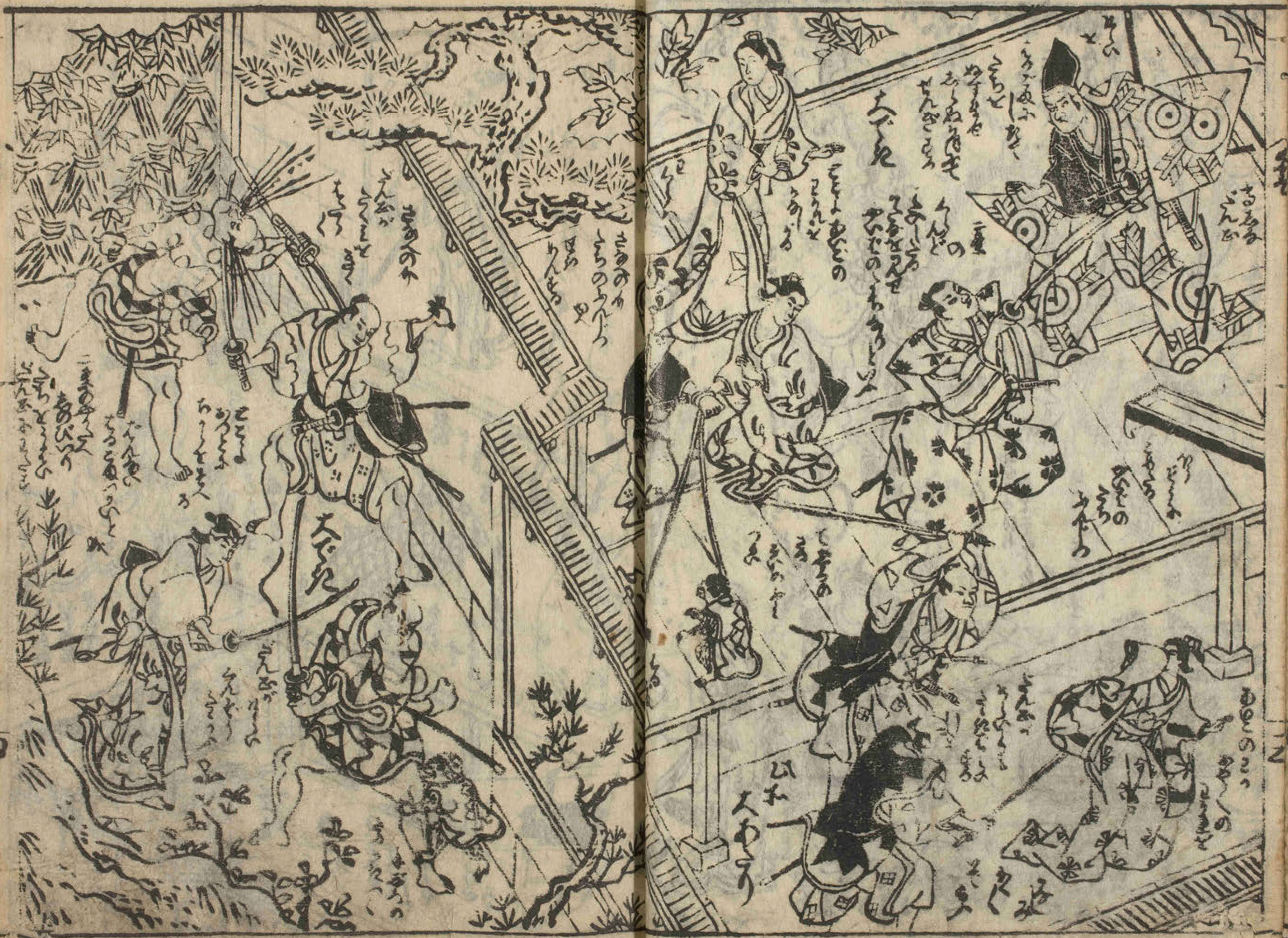
屋の段

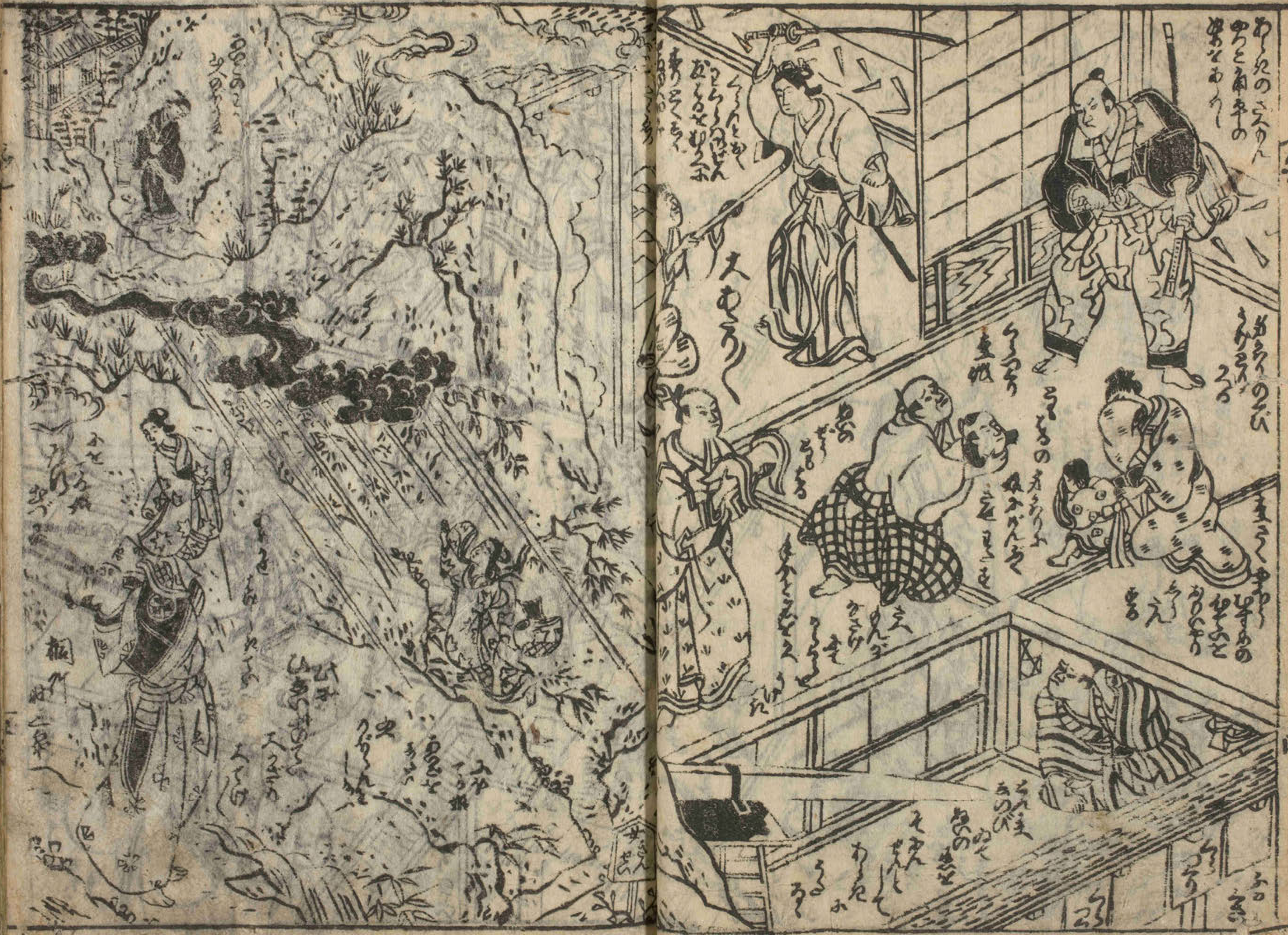


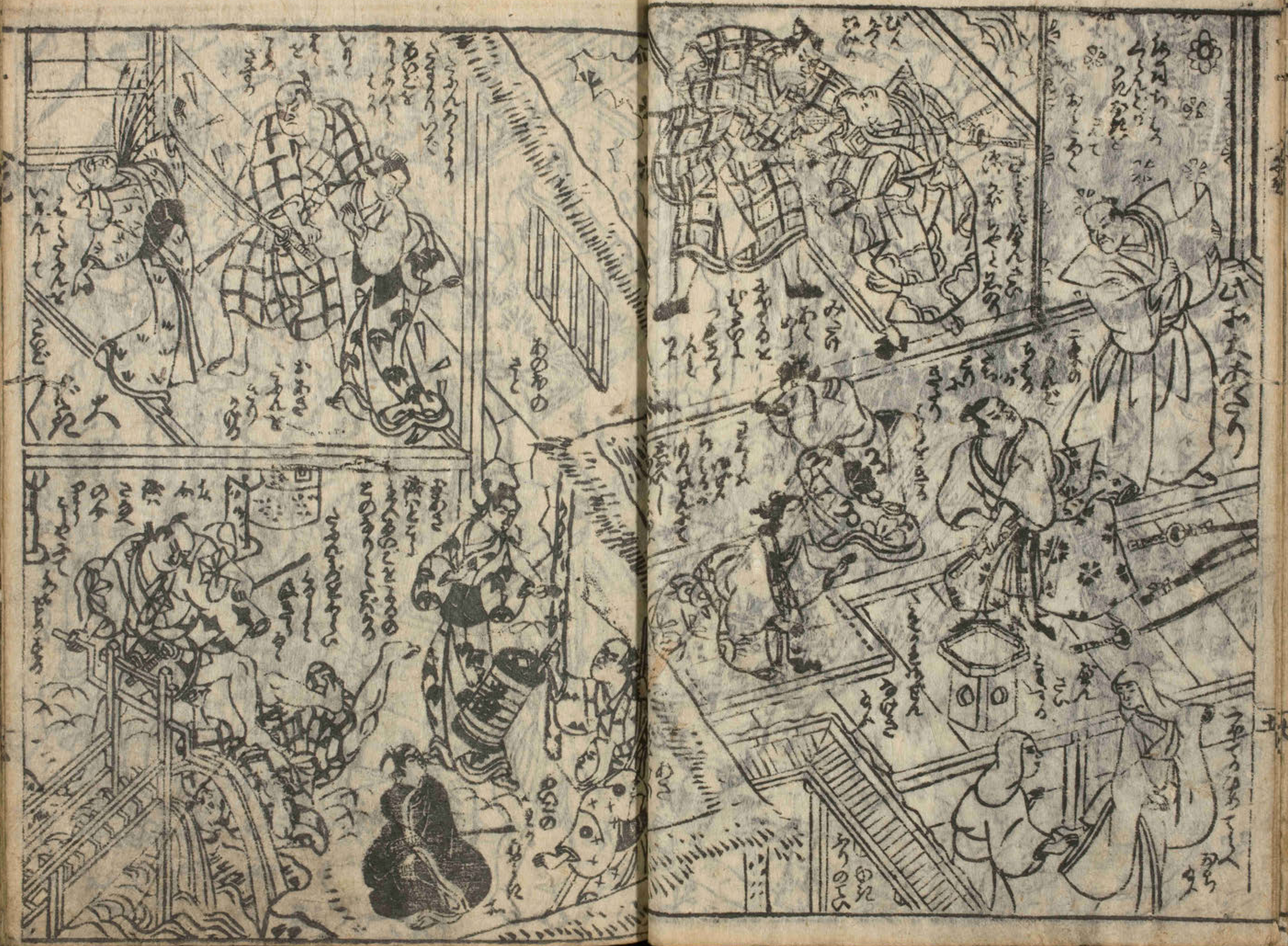
愛護稚
名歌勝鬨
初中後

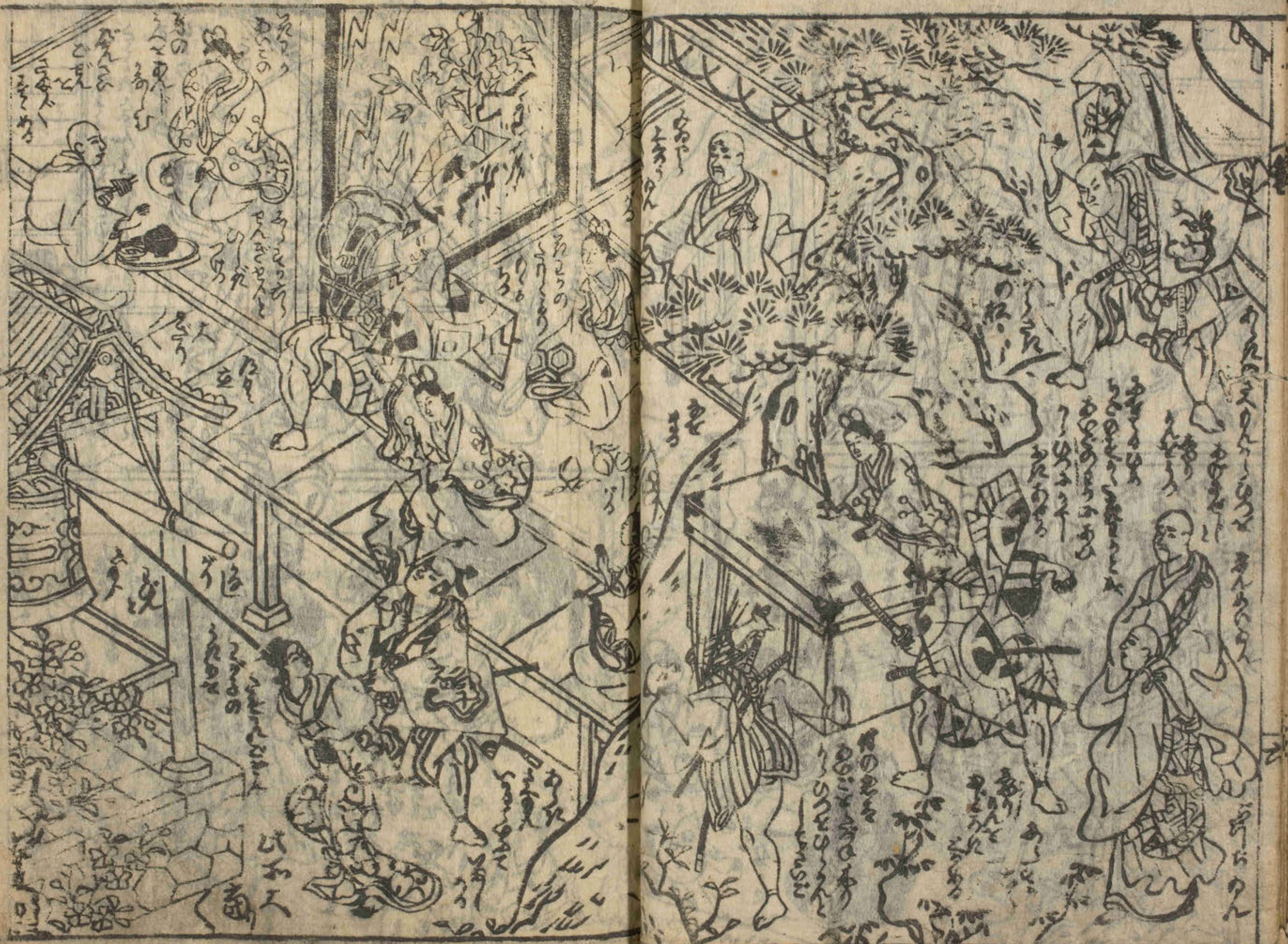
綴目翻転

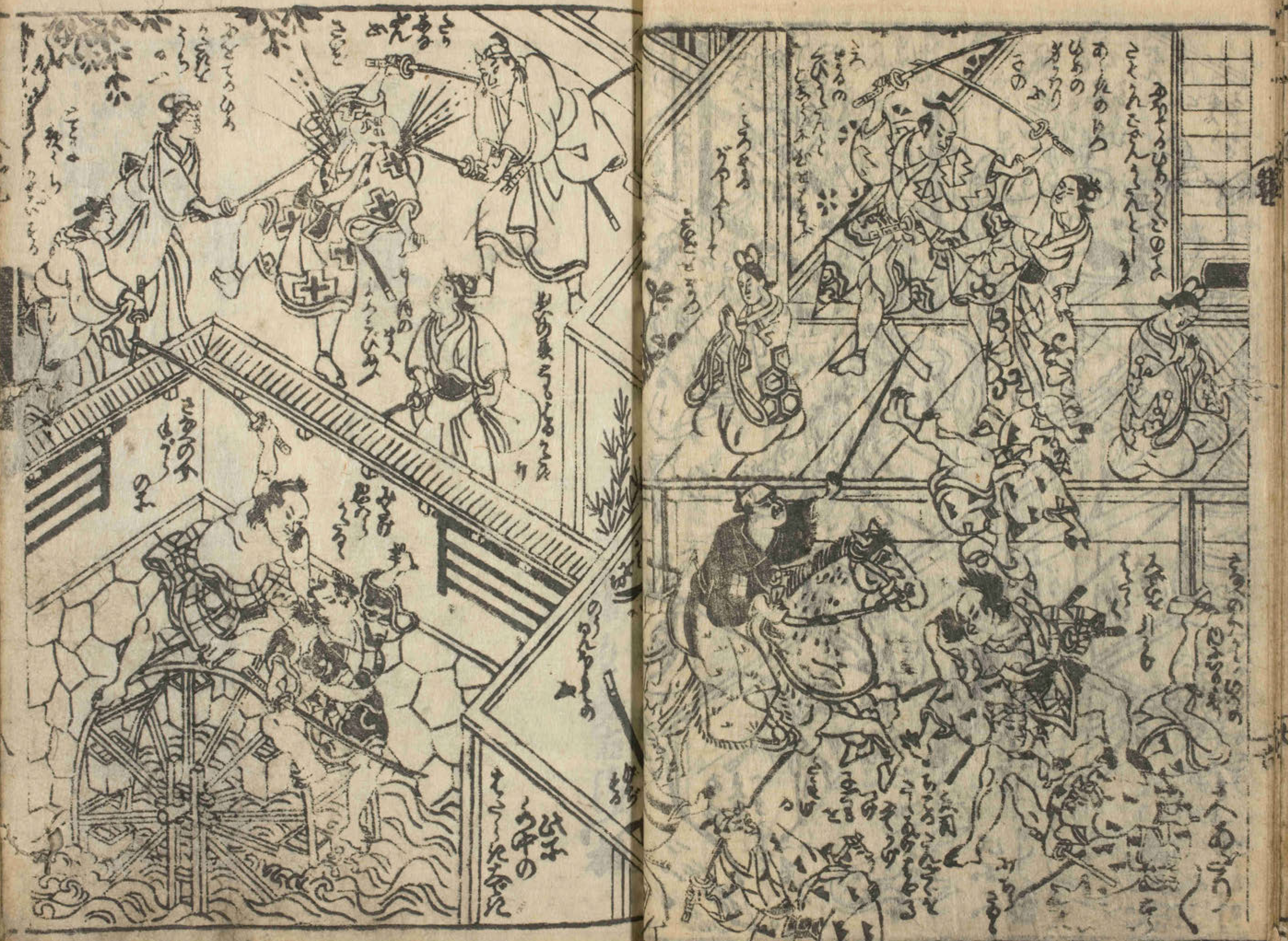

愛護稚名歟勝関





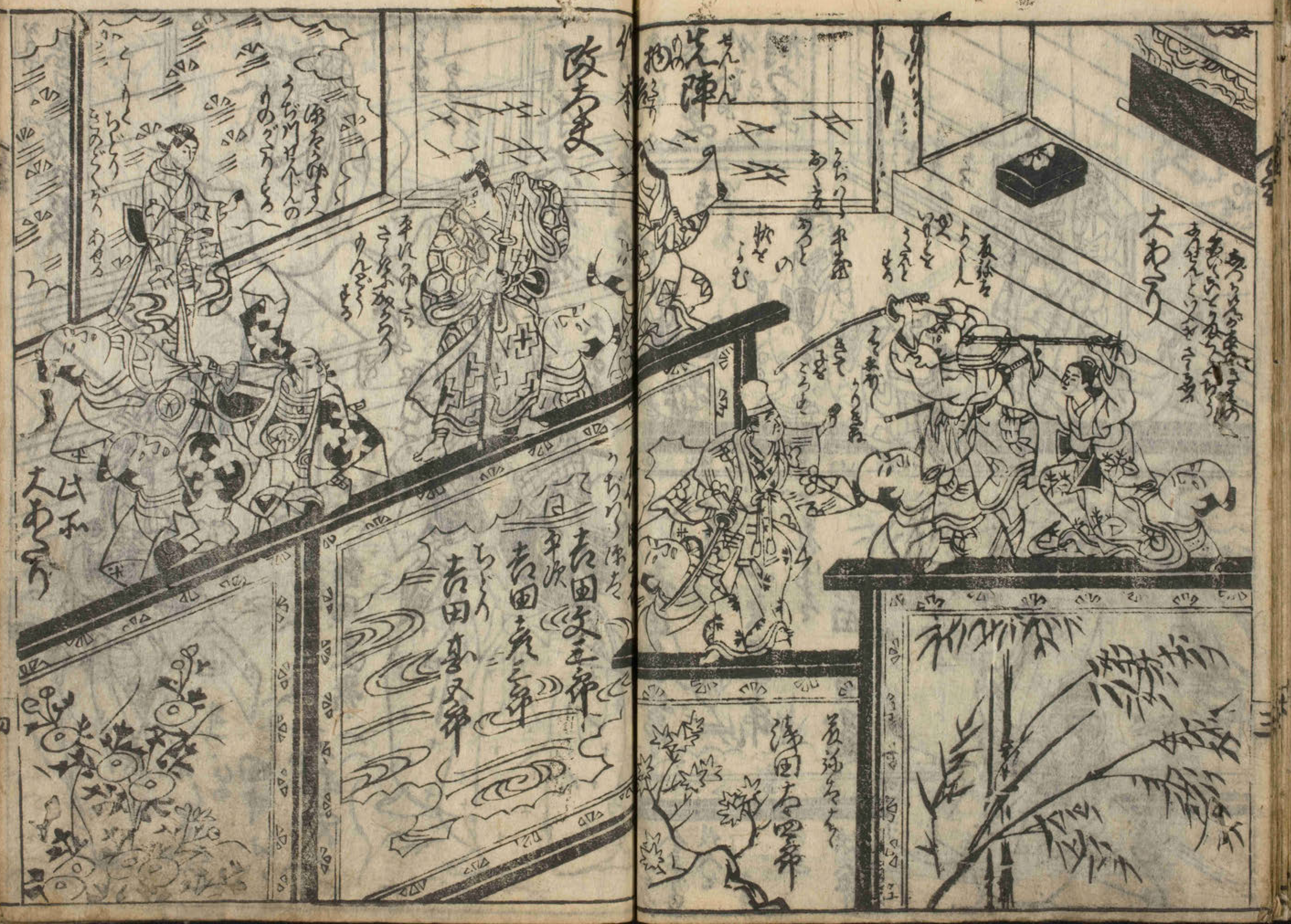






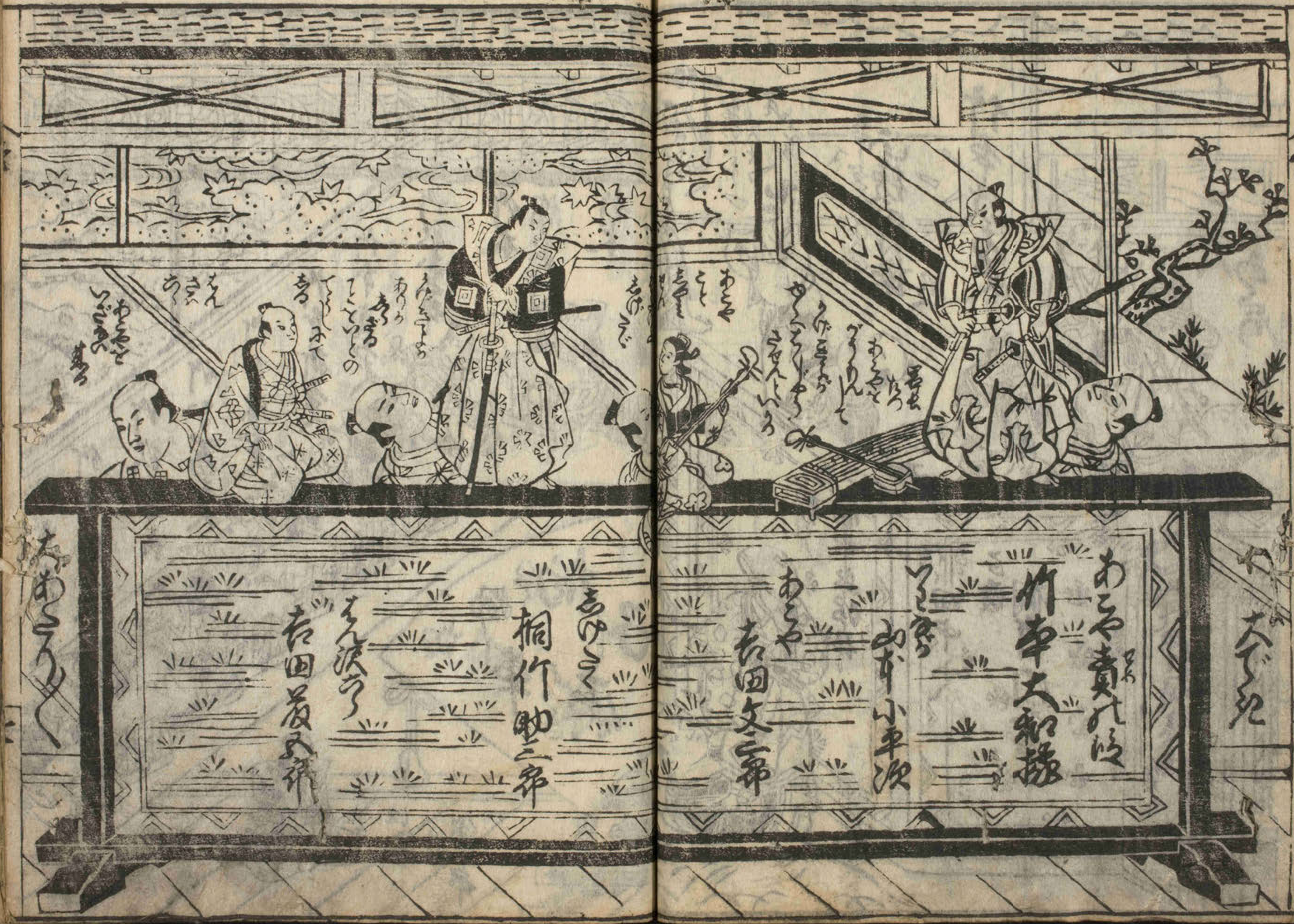
手忘座鋪操
竹本筑後掾
全

年忘座舗操
竹本越後掾
竹本春太夫
竹本友太夫
太夫
三味線
吉田文三郎

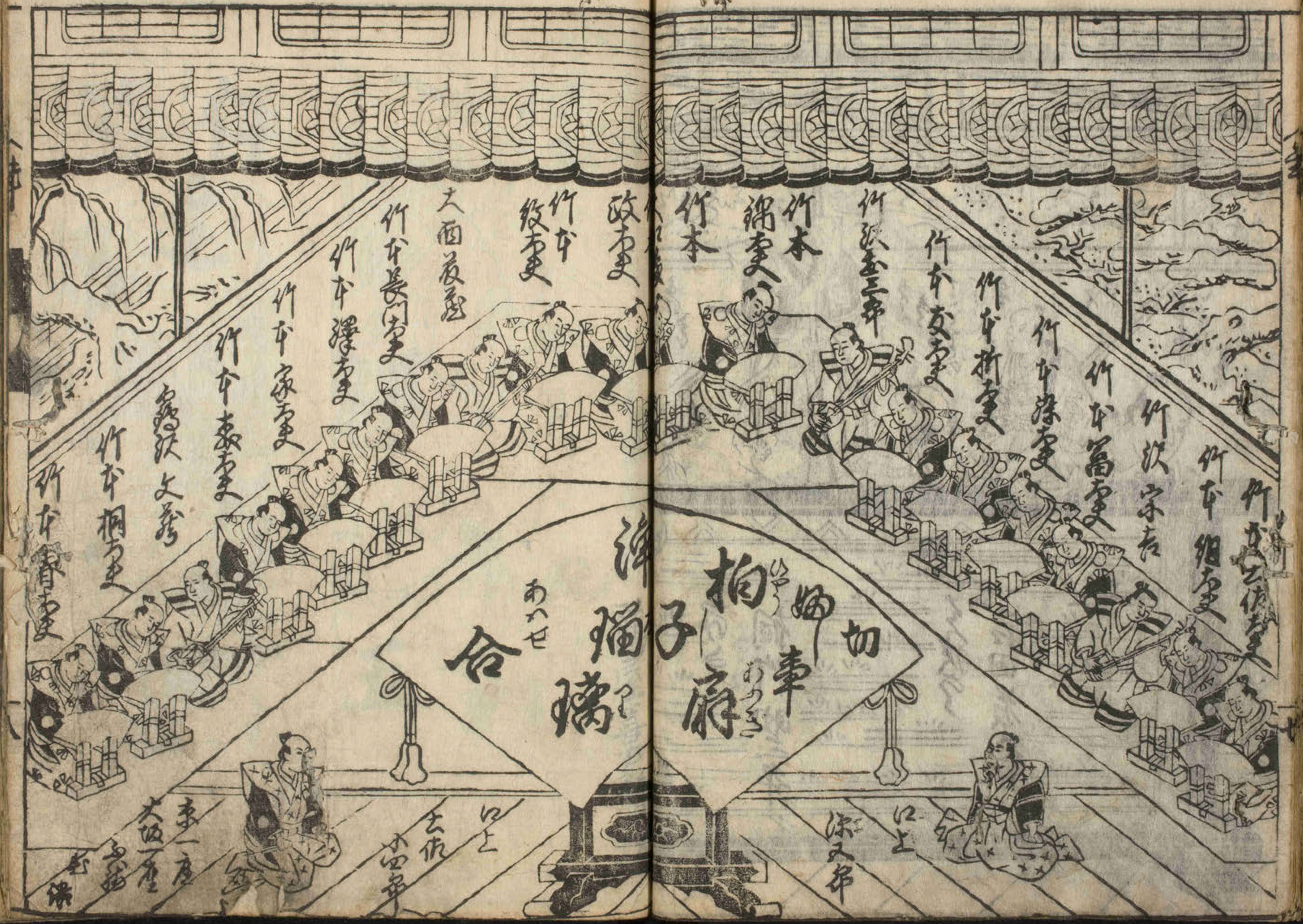

先陣
吉田文五郎

竹本大和掾
いな娘
田中小八

竹本政太夫
大あたり
西行桜之段
大あたり
田中平次郎
田中小八
桐竹門三郎
桐竹門三郎



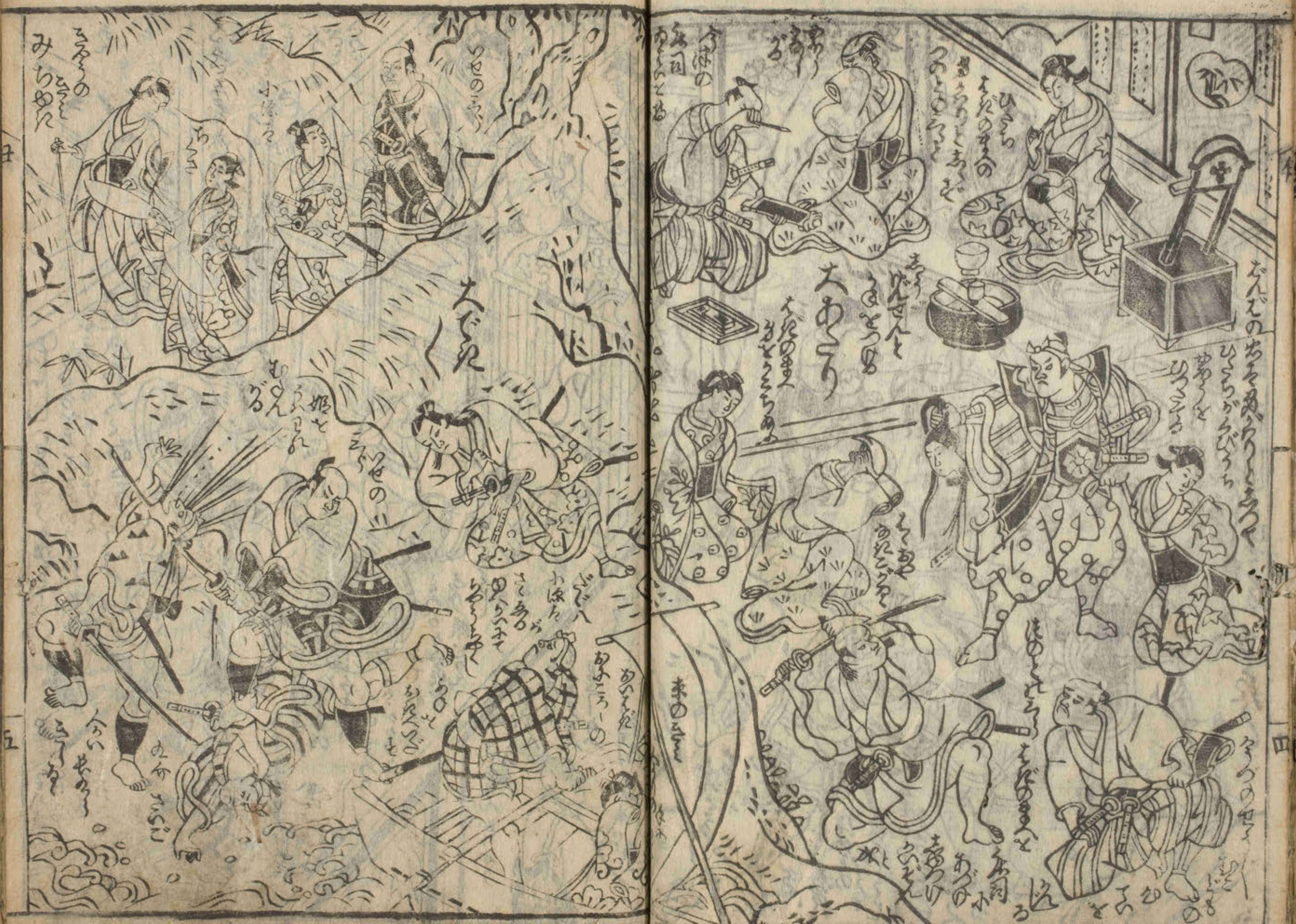
竹本大和掾
小平次
吉田文三郎
桐竹助三郎

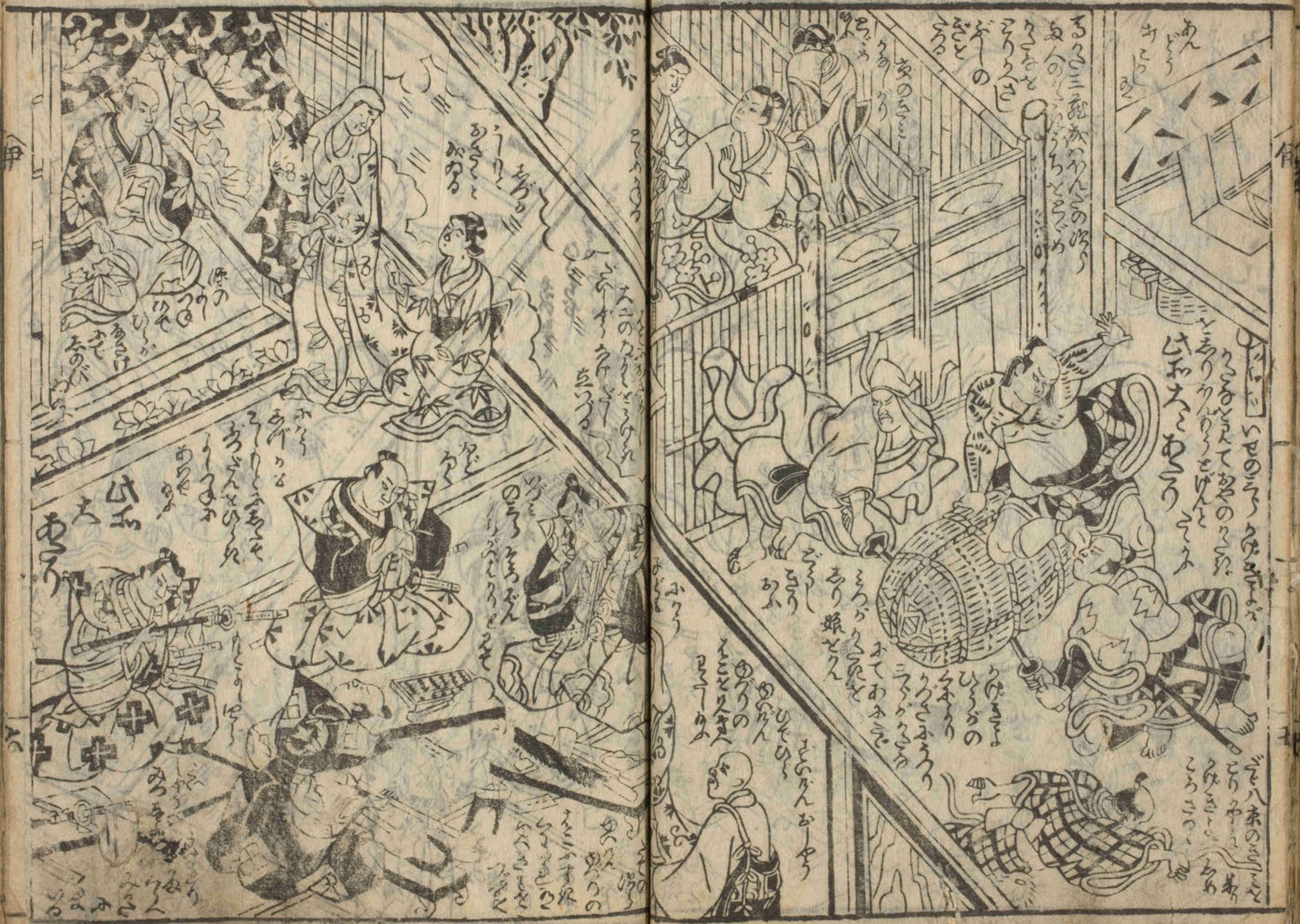


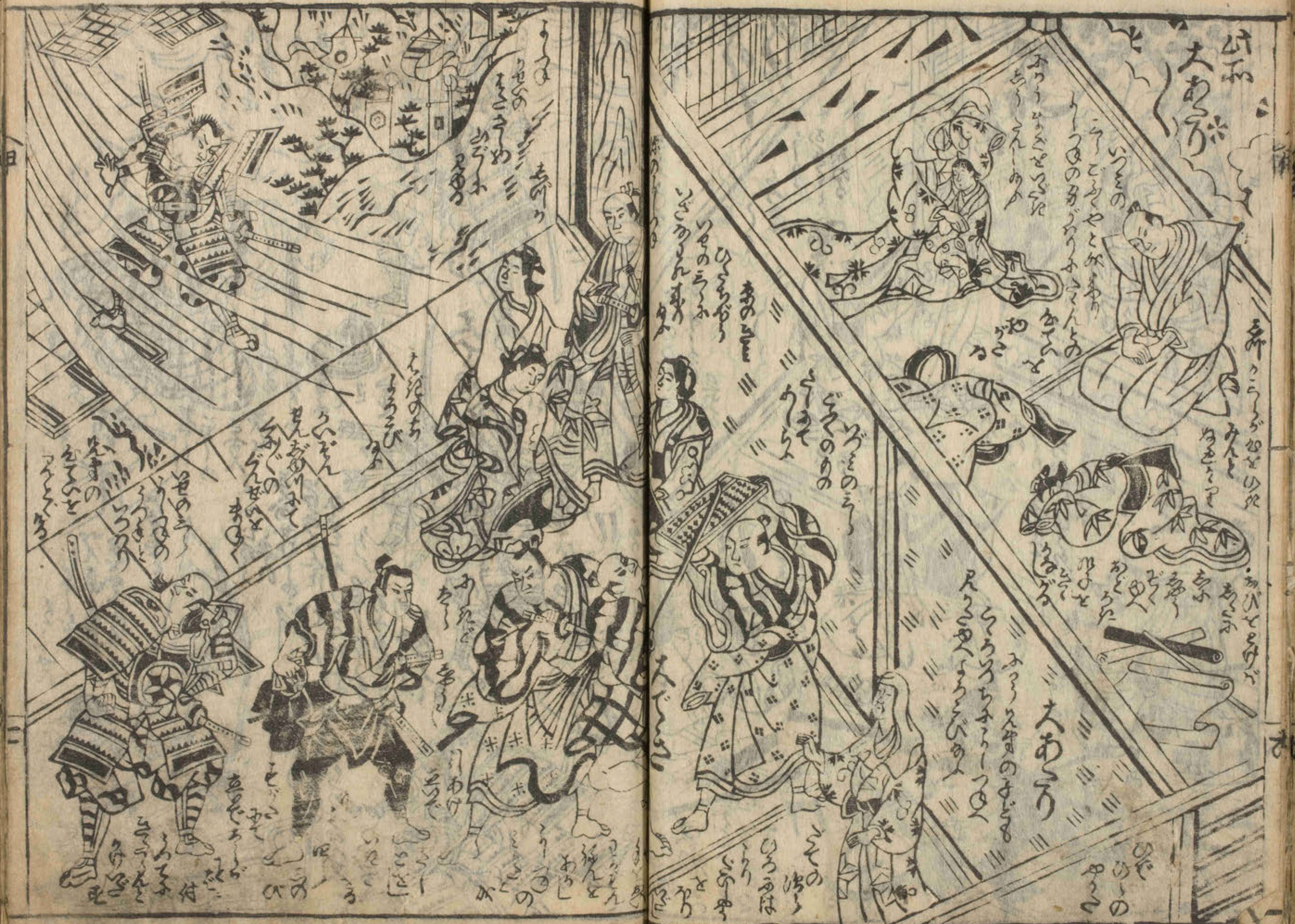
竹本組太夫
竹沢宗吉
竹本富太夫
竹本染太夫
竹本折太夫
竹本友太夫
竹沢金三郎
竹本錦太夫
竹本
政太夫
竹本紋太夫
大西藤蔵
竹本長門太夫
竹本澤太夫
竹本家太夫
竹本泰太夫
鶴沢文蔵
竹本桐太夫
竹本春太夫
浄瑠璃
拍子合
切
口上
口上

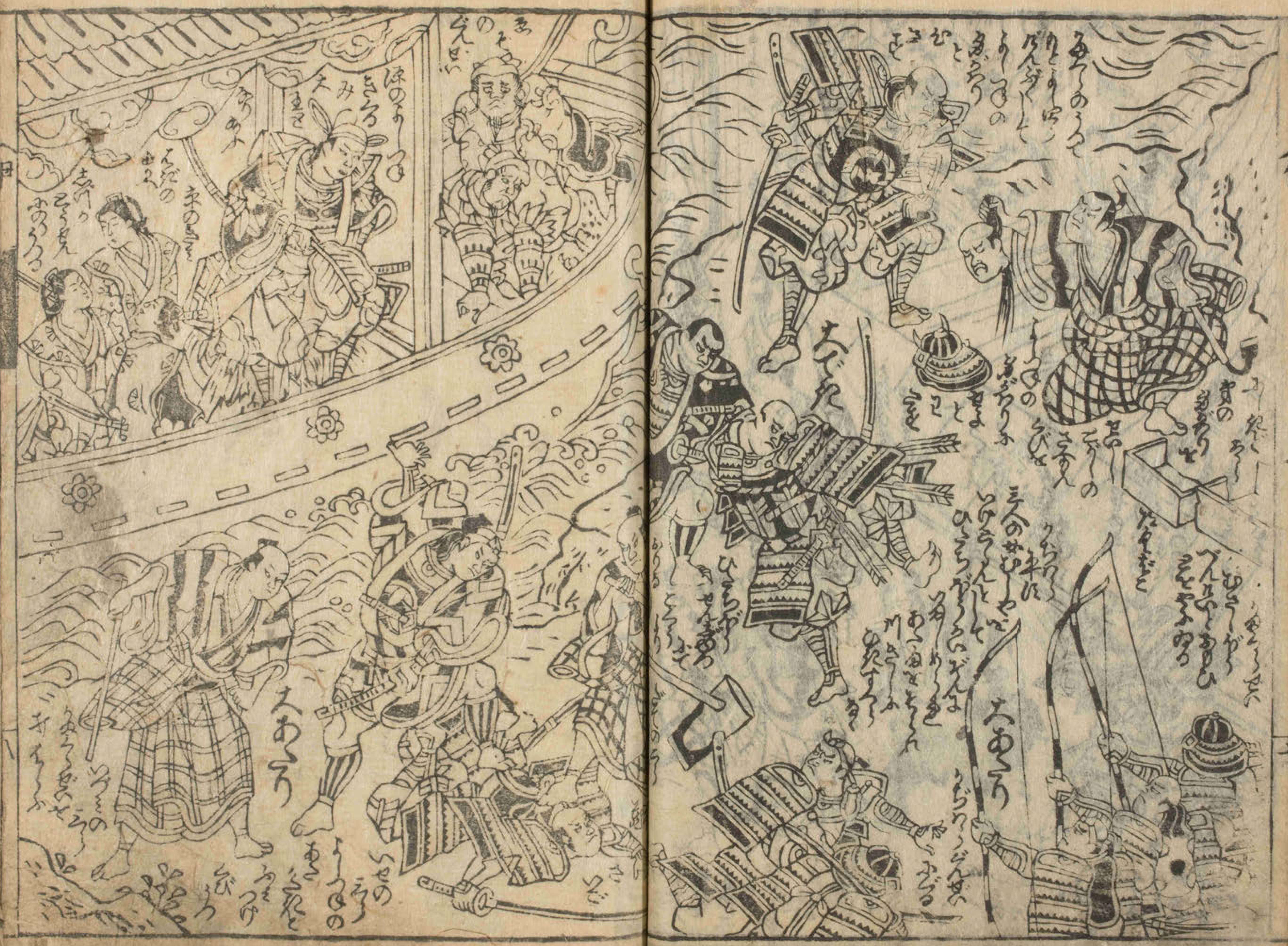
女義經
伊達錦五十四郡
竹本筑後掾
五段續
名だくし
全

女頼朝
女義経
伊達錦五十四郡
竹本筑後掾





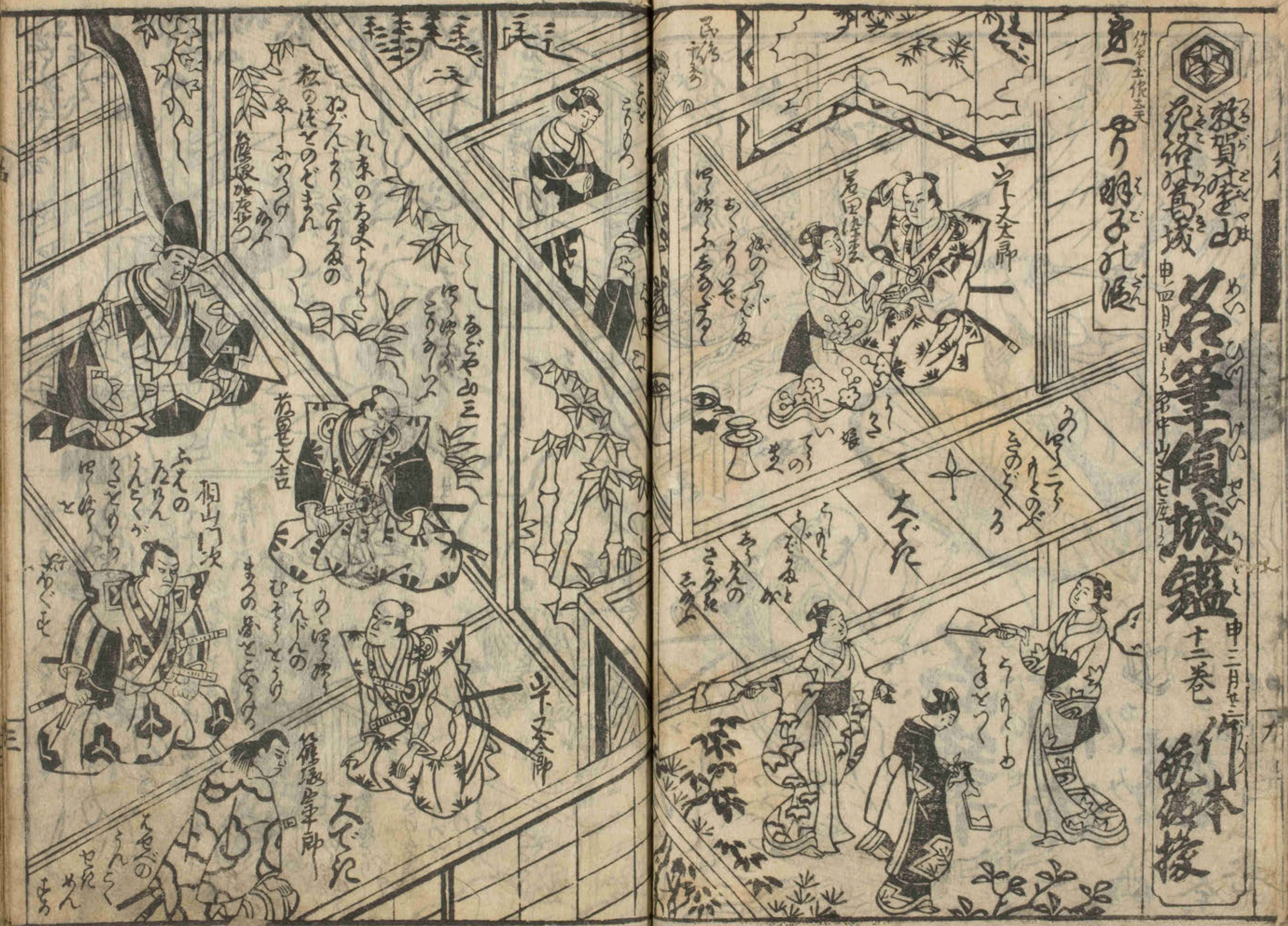




京麩屋町通誓願寺下町
八文字屋八左衛門板

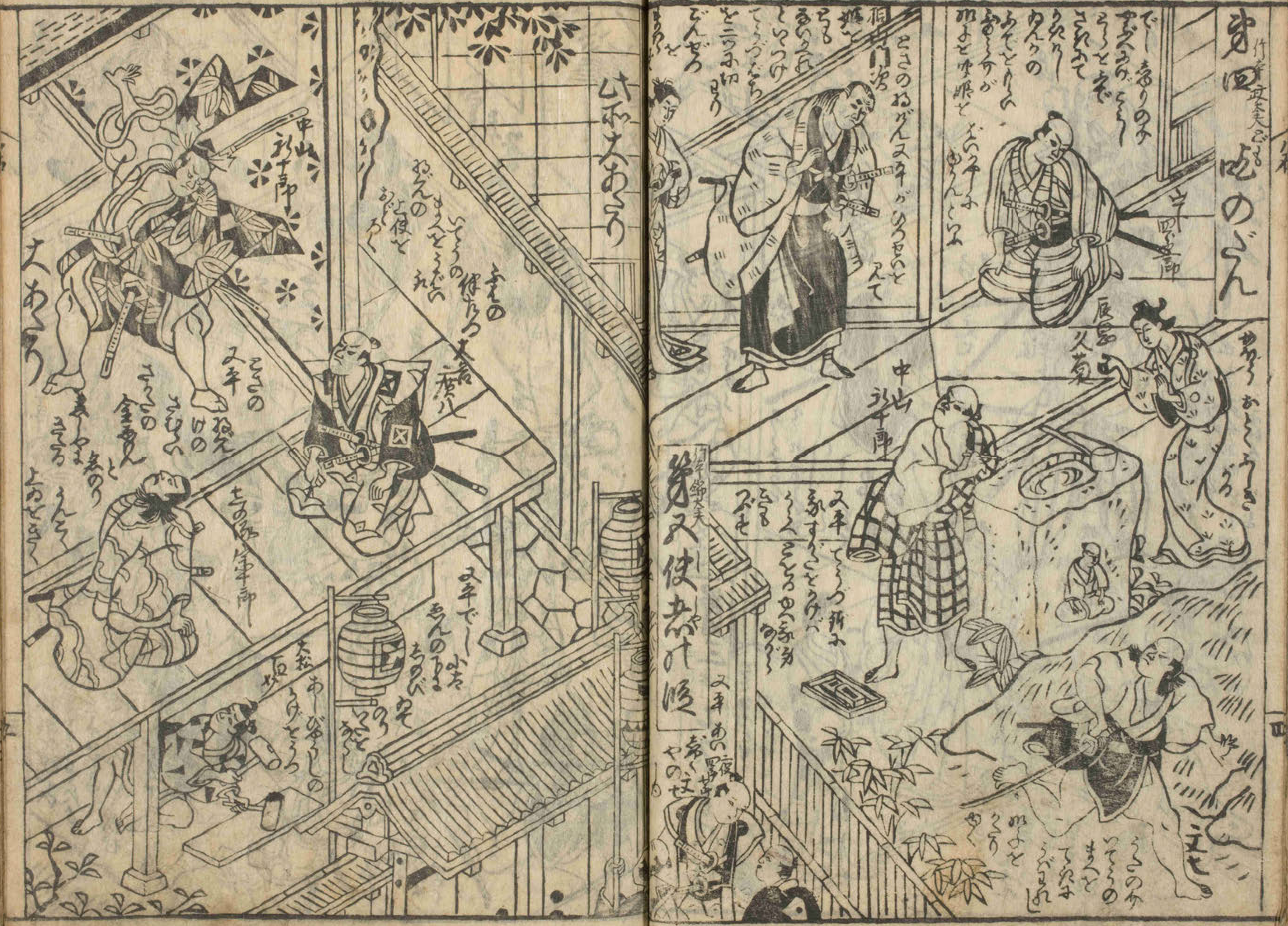
綴目反転

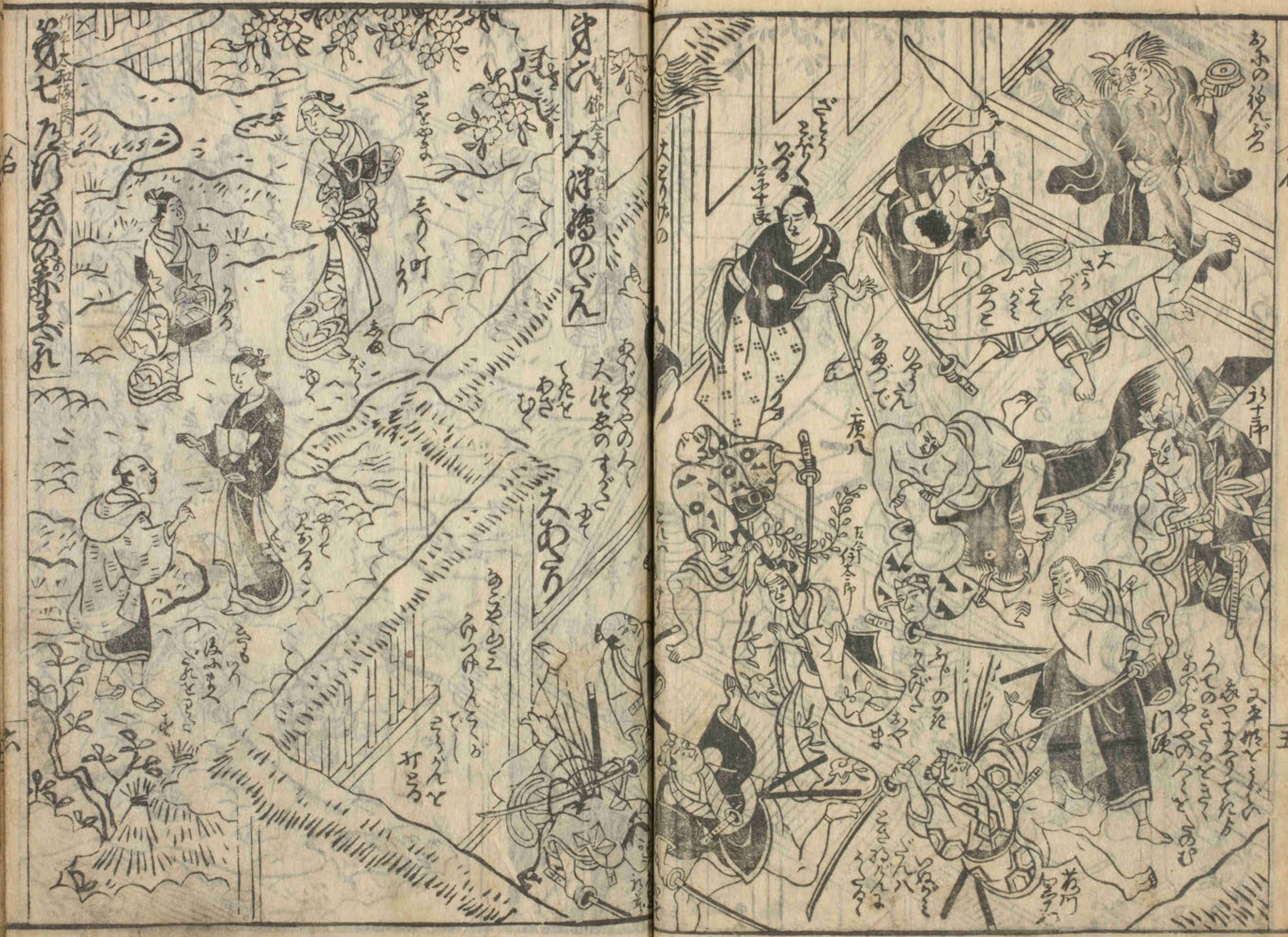
京麩屋町通誓願寺下町
八文字屋八左衛門板



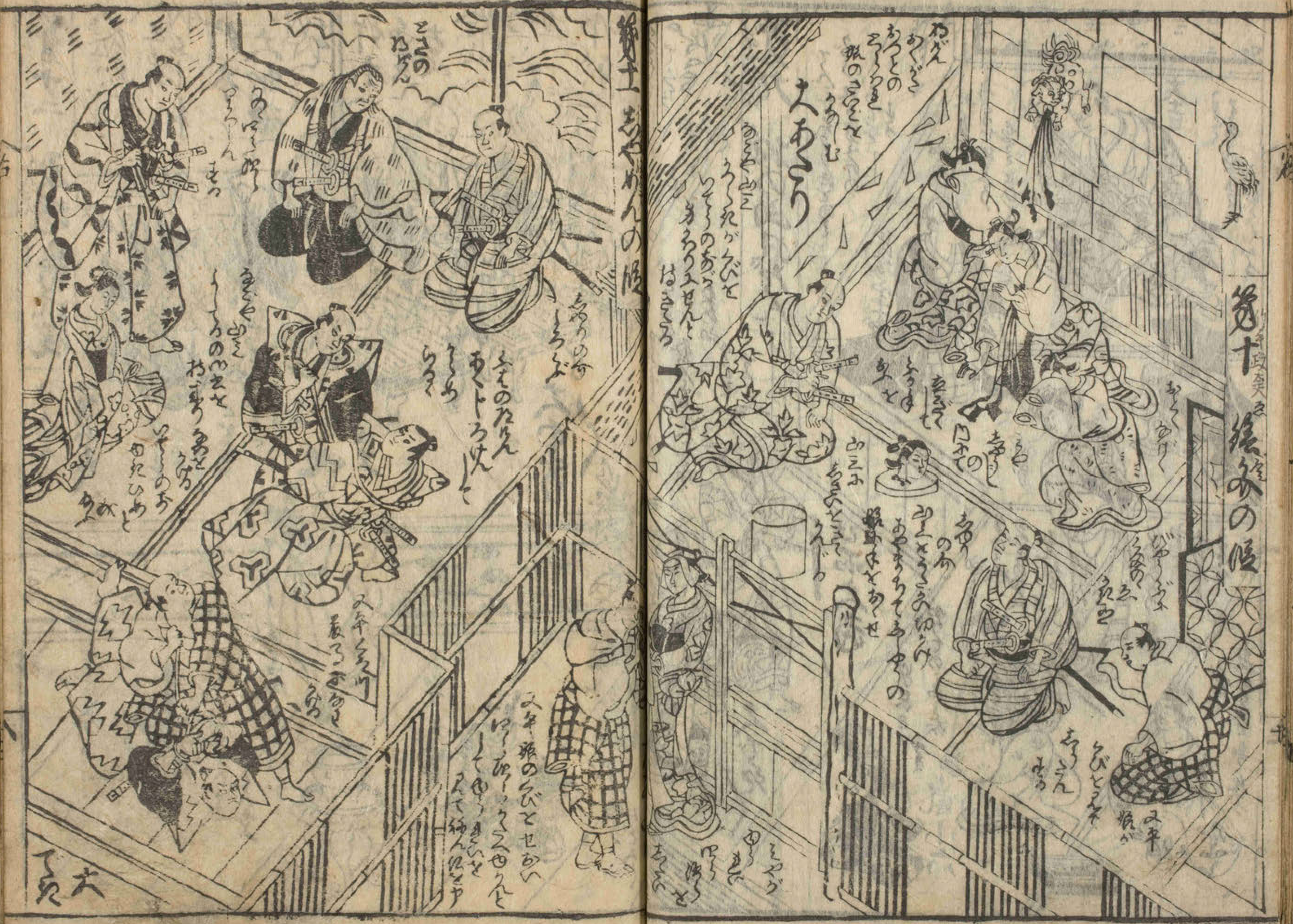
名筆傾城鑑
十二巻
竹本筑後掾
大でん
大でん

第二
第三
中山 文七
嵐小六


中山新十郎
中山新十郎
文七



大和山
仙助
嵐小六

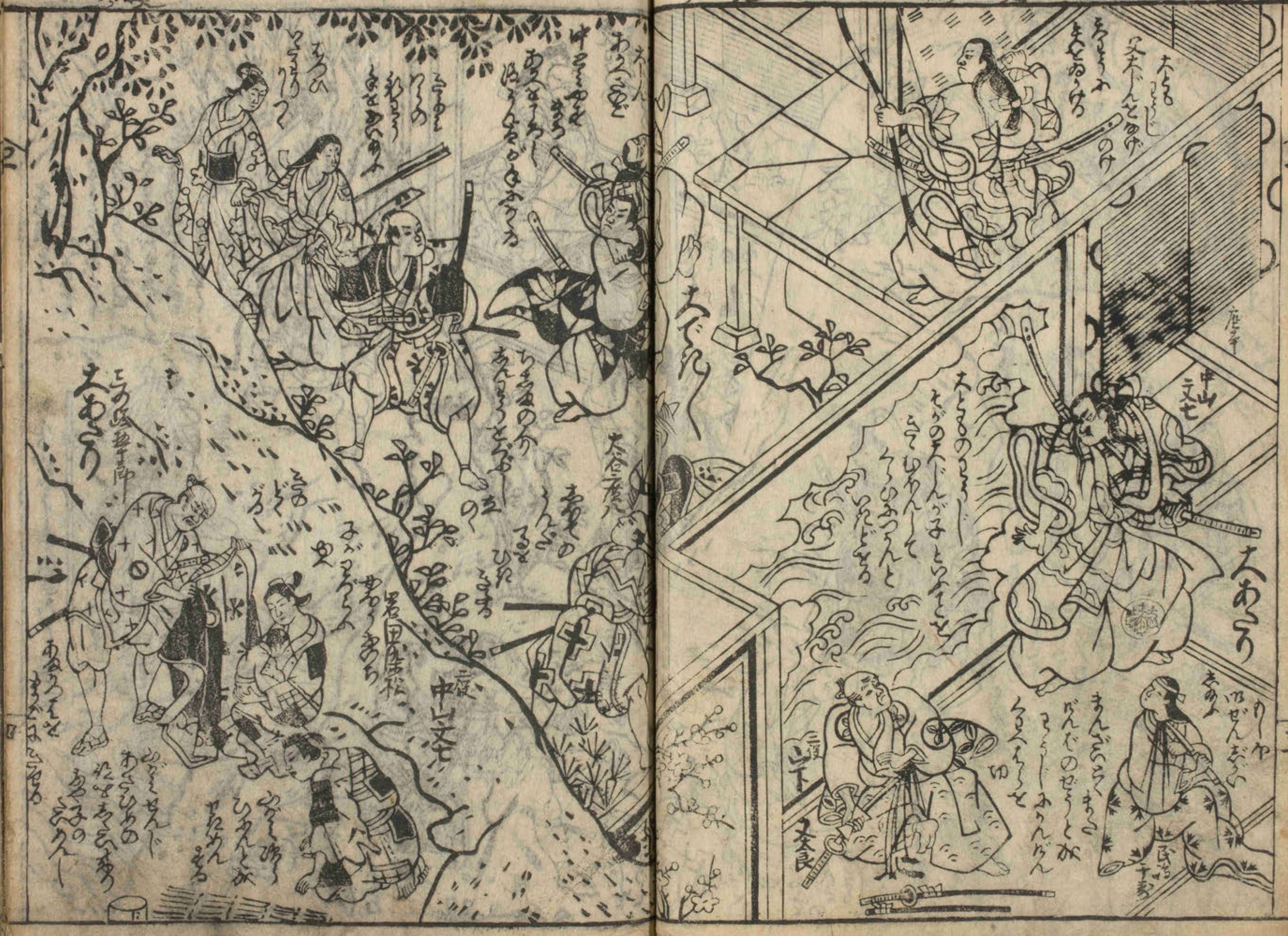


大あたり
第十一 ちやかんの段

第十二 反魂香之段
上るりふし事
竹本大和掾
竹本頼母太夫
さみせん
嵐小六
吉田文三郎

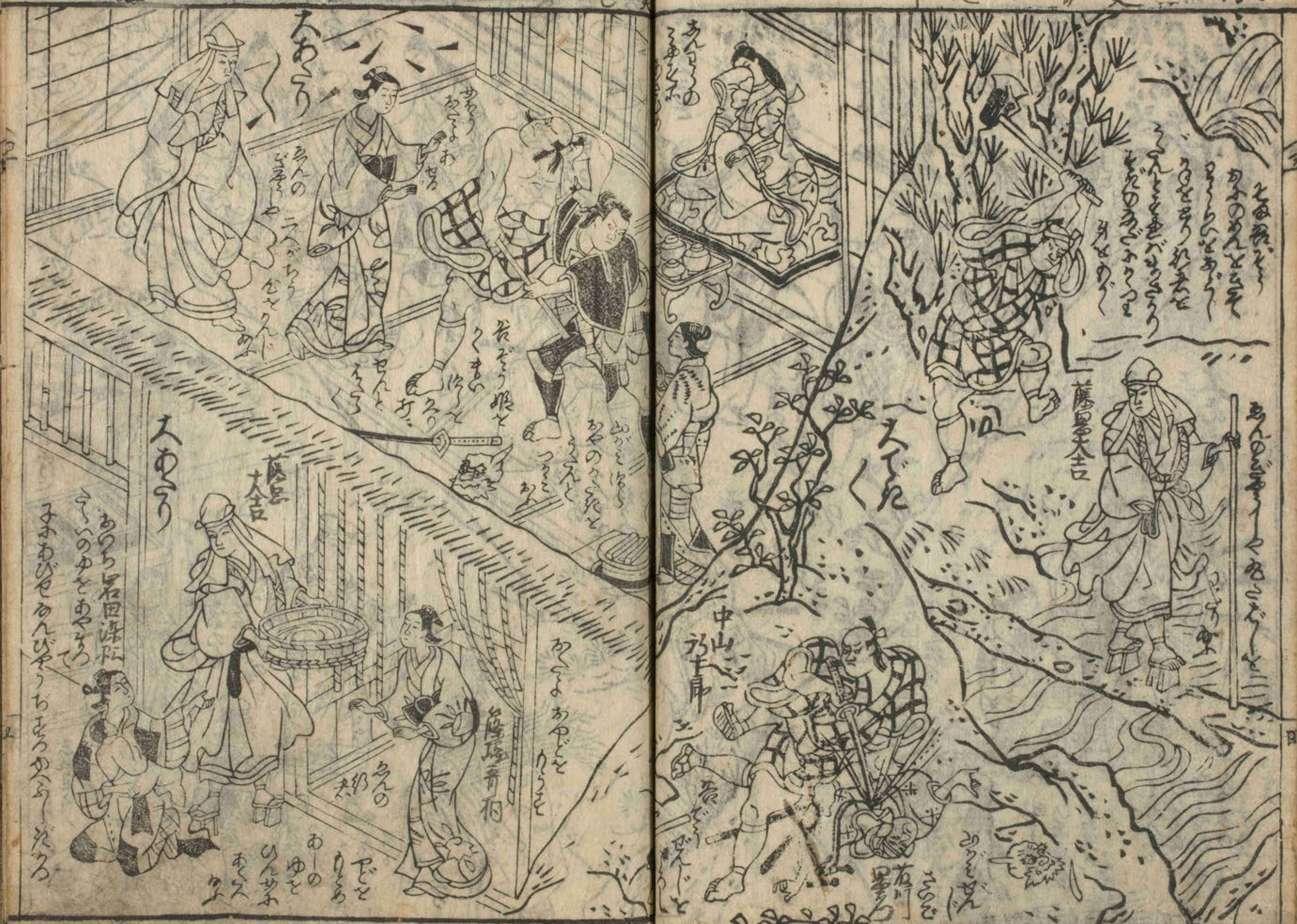
役行者
大峯
櫻
竹本筑後掾
金

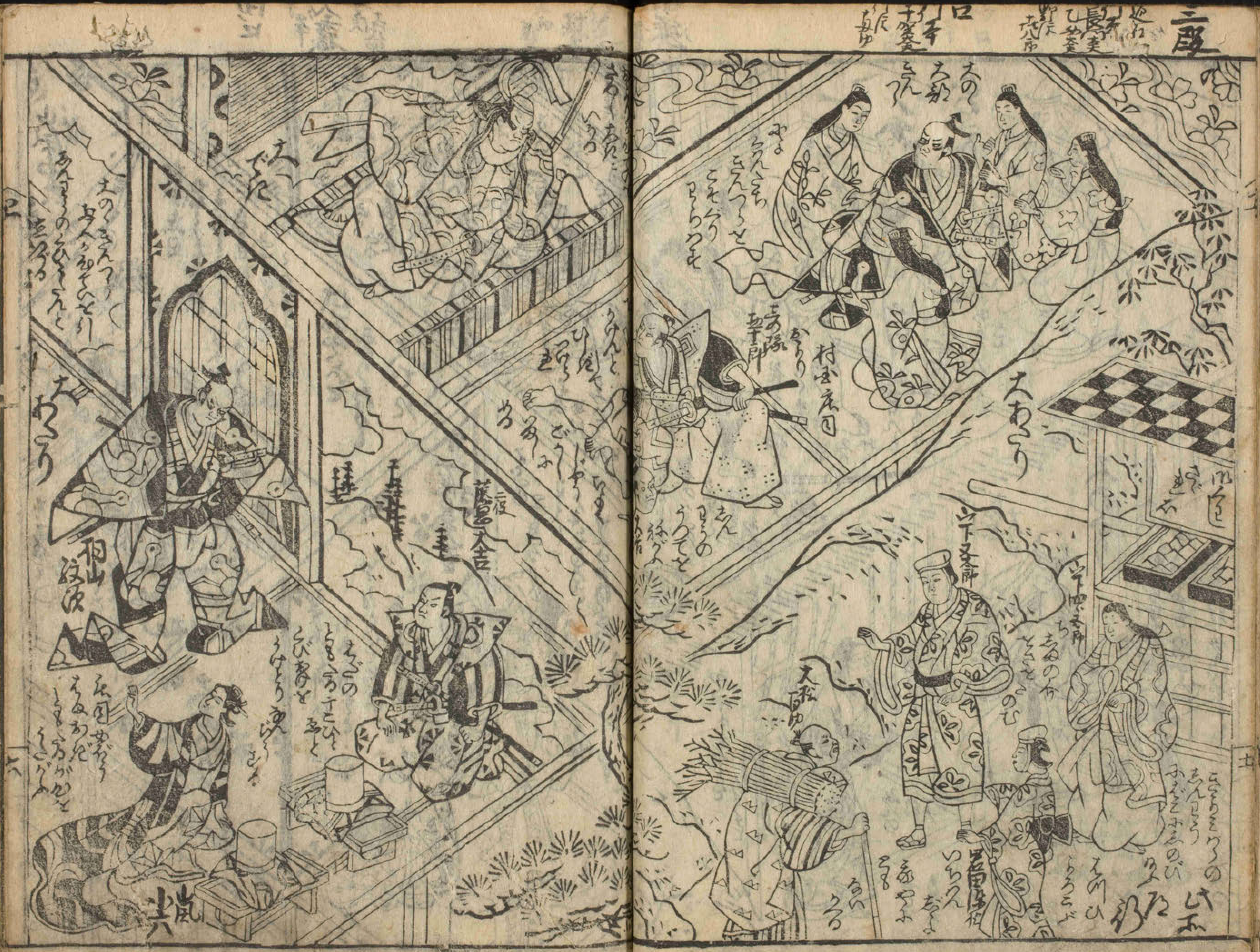
役行者大峯桜
五段続
竹本筑後掾
大でき

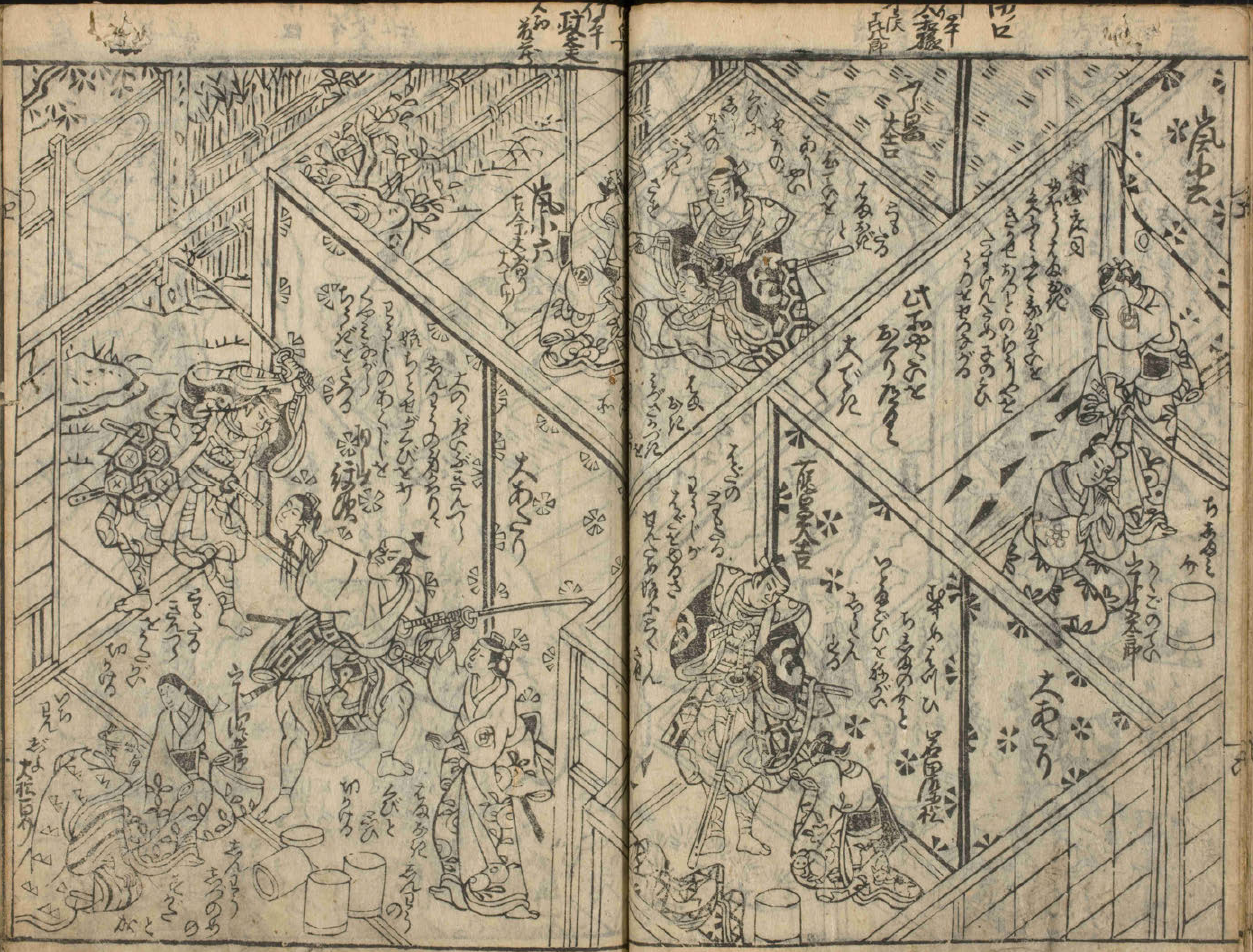


大あたり
中山文七
大あたり
中山文七

三段



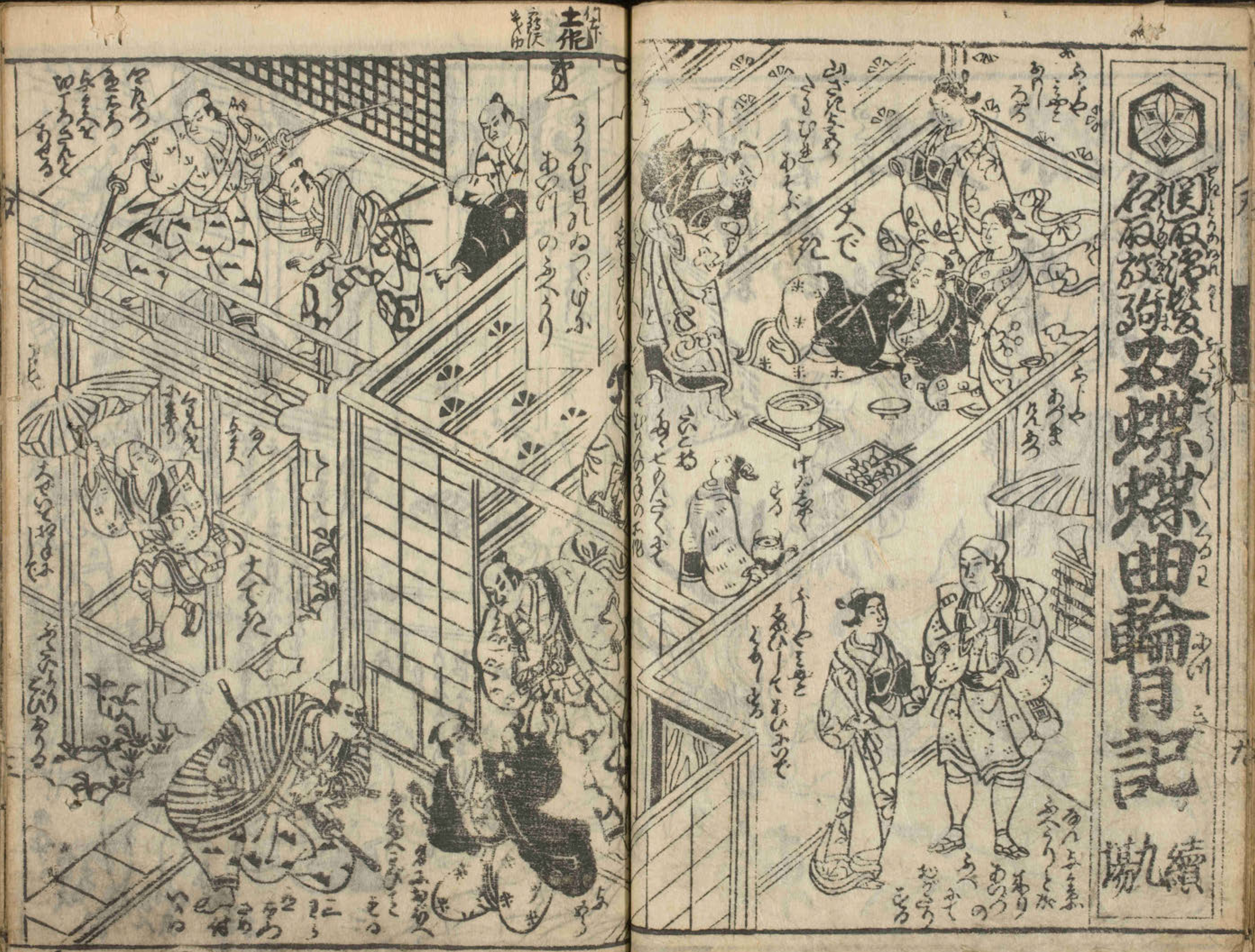


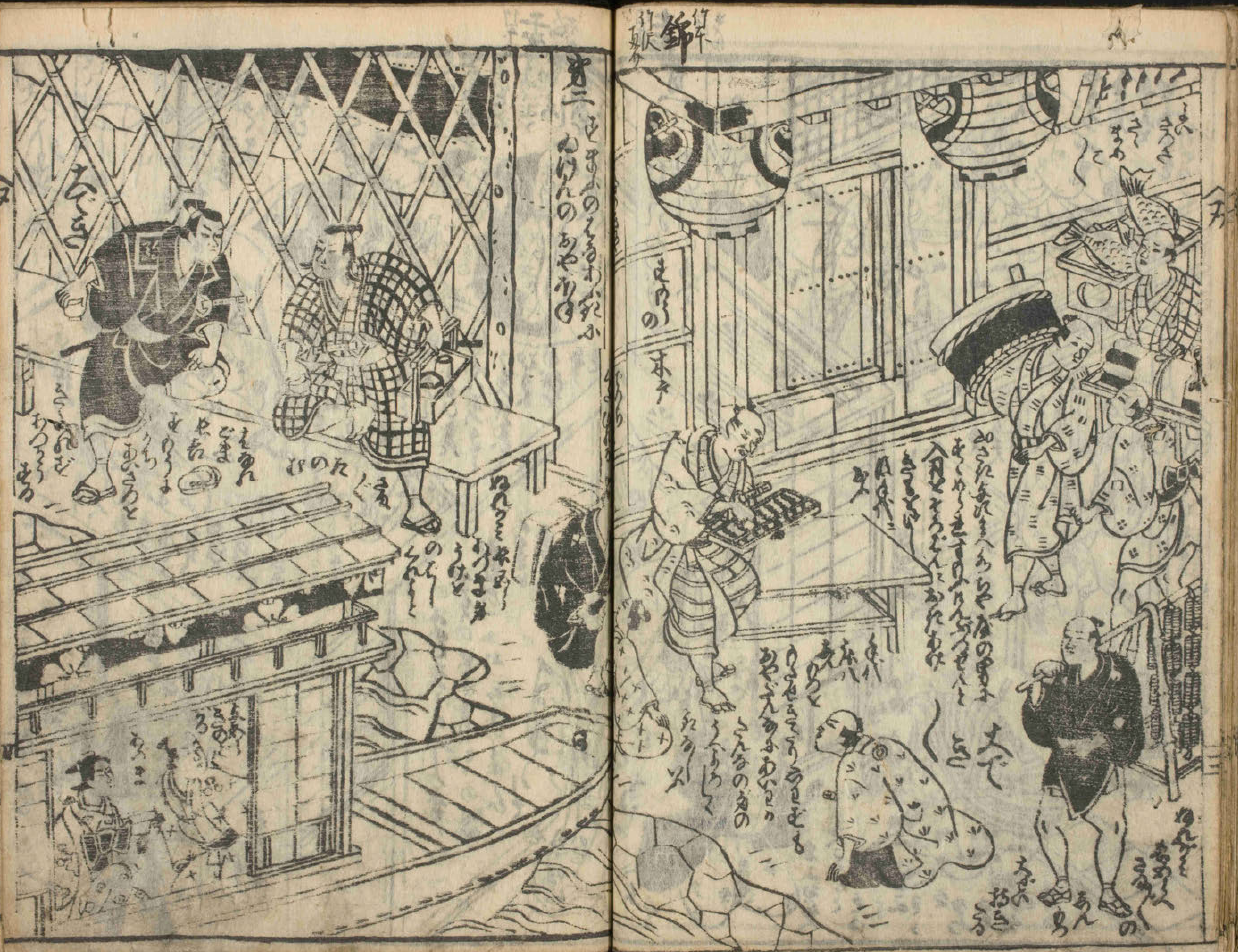

大あたり
大あたり

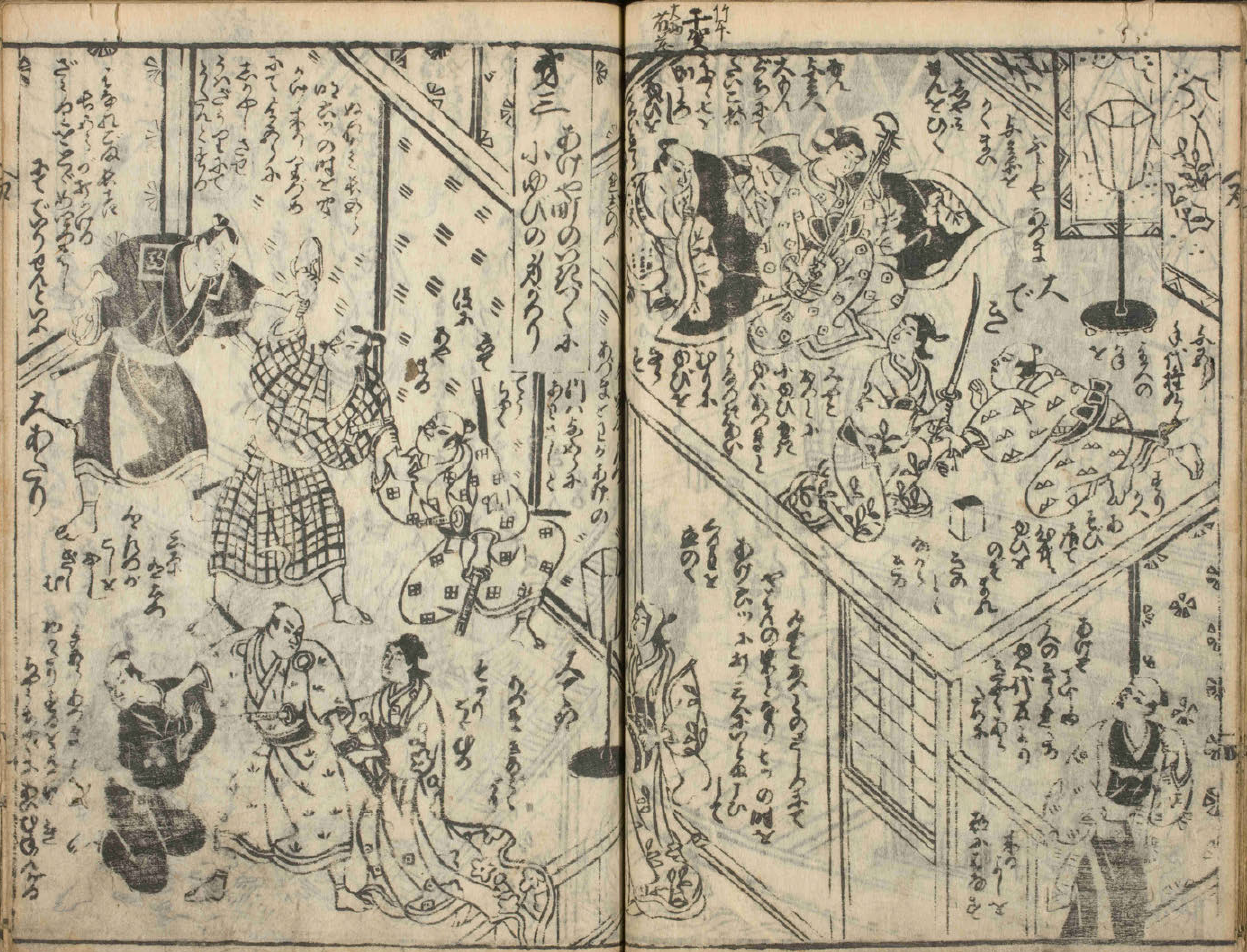
大でき

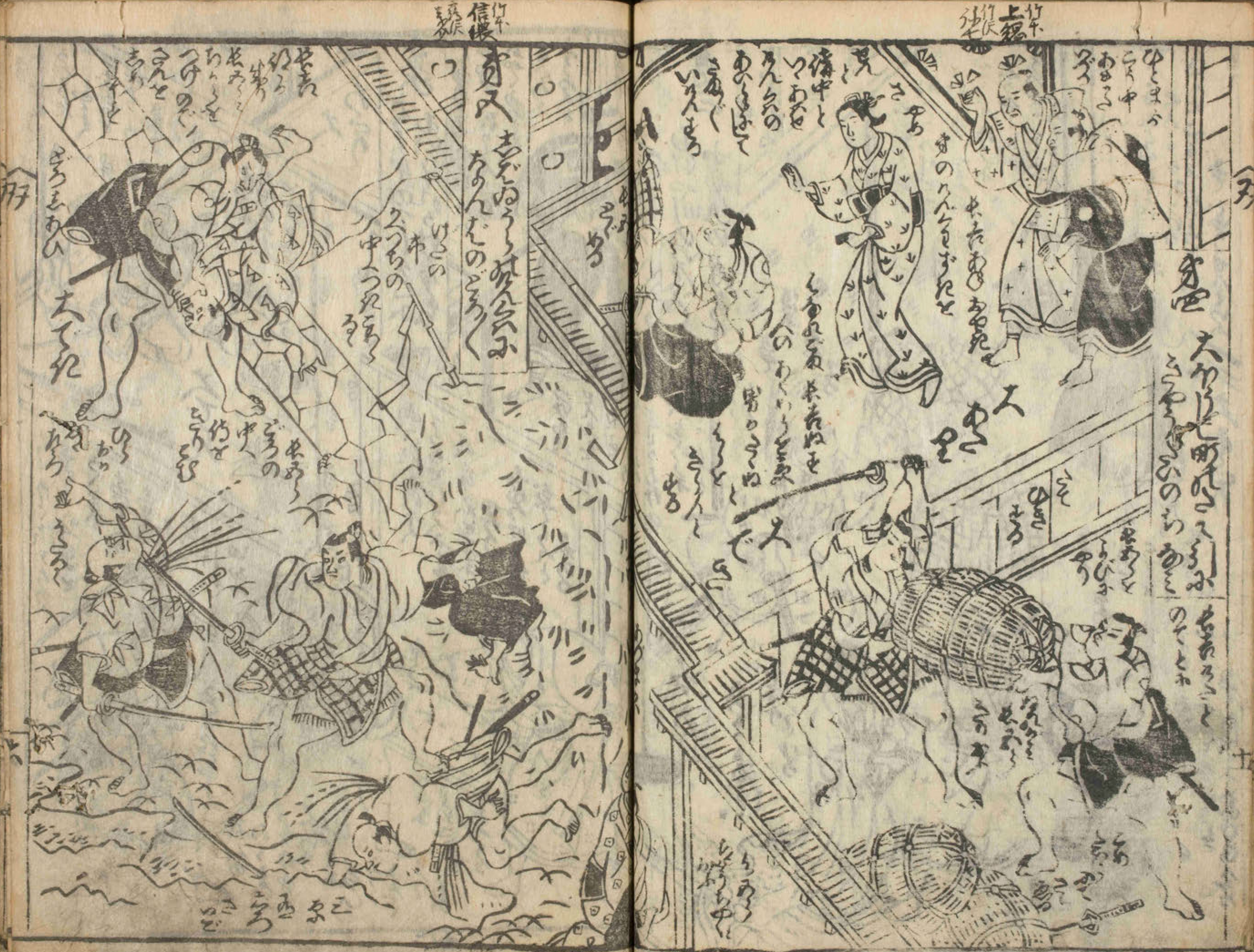
京二條通寺町角
鶴屋喜右衛門板

京二條通寺町角
鶴屋喜右衛門板

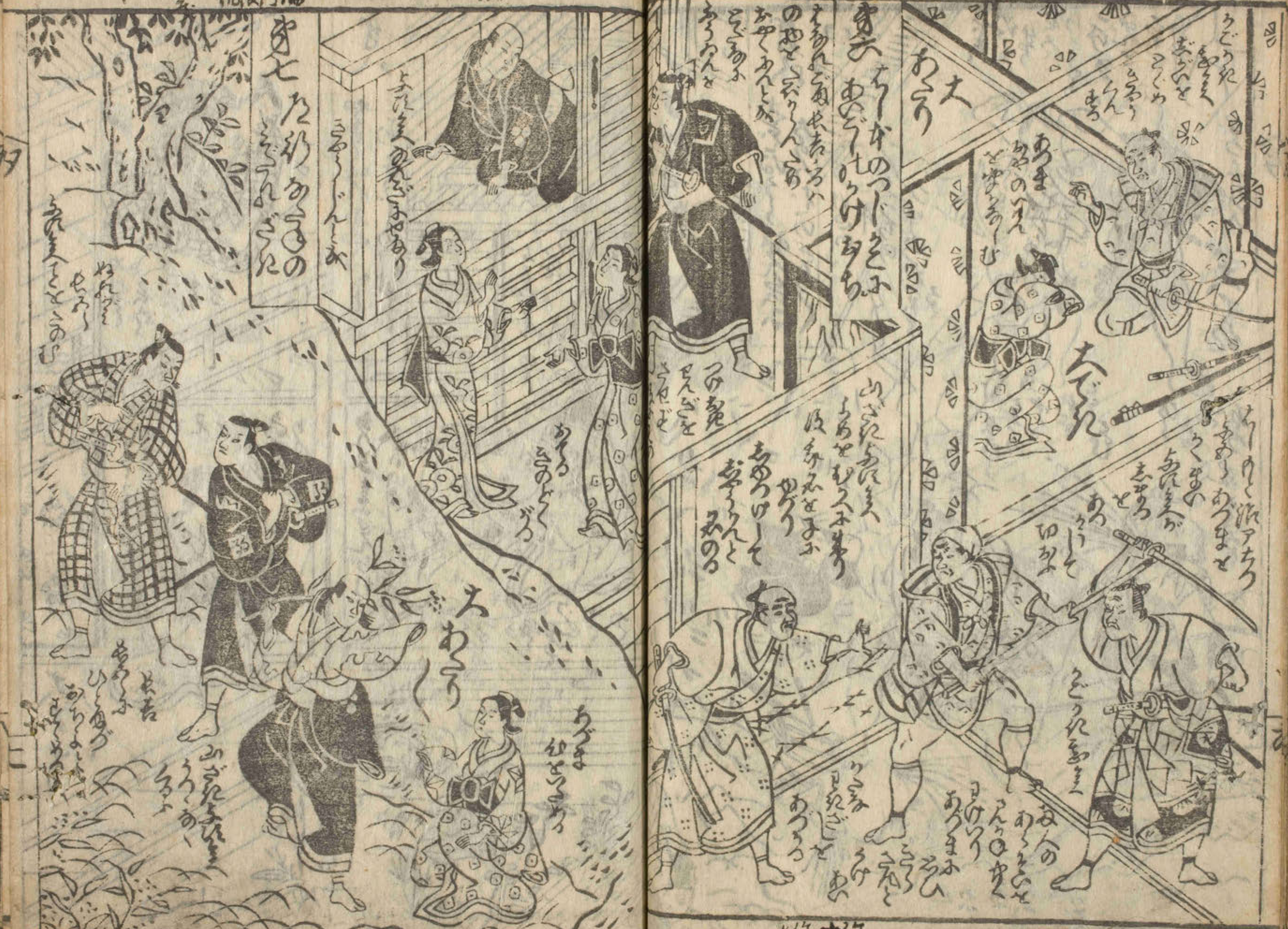

関取濡髪
名取放駒
双蝶蝶曲輪日記
続

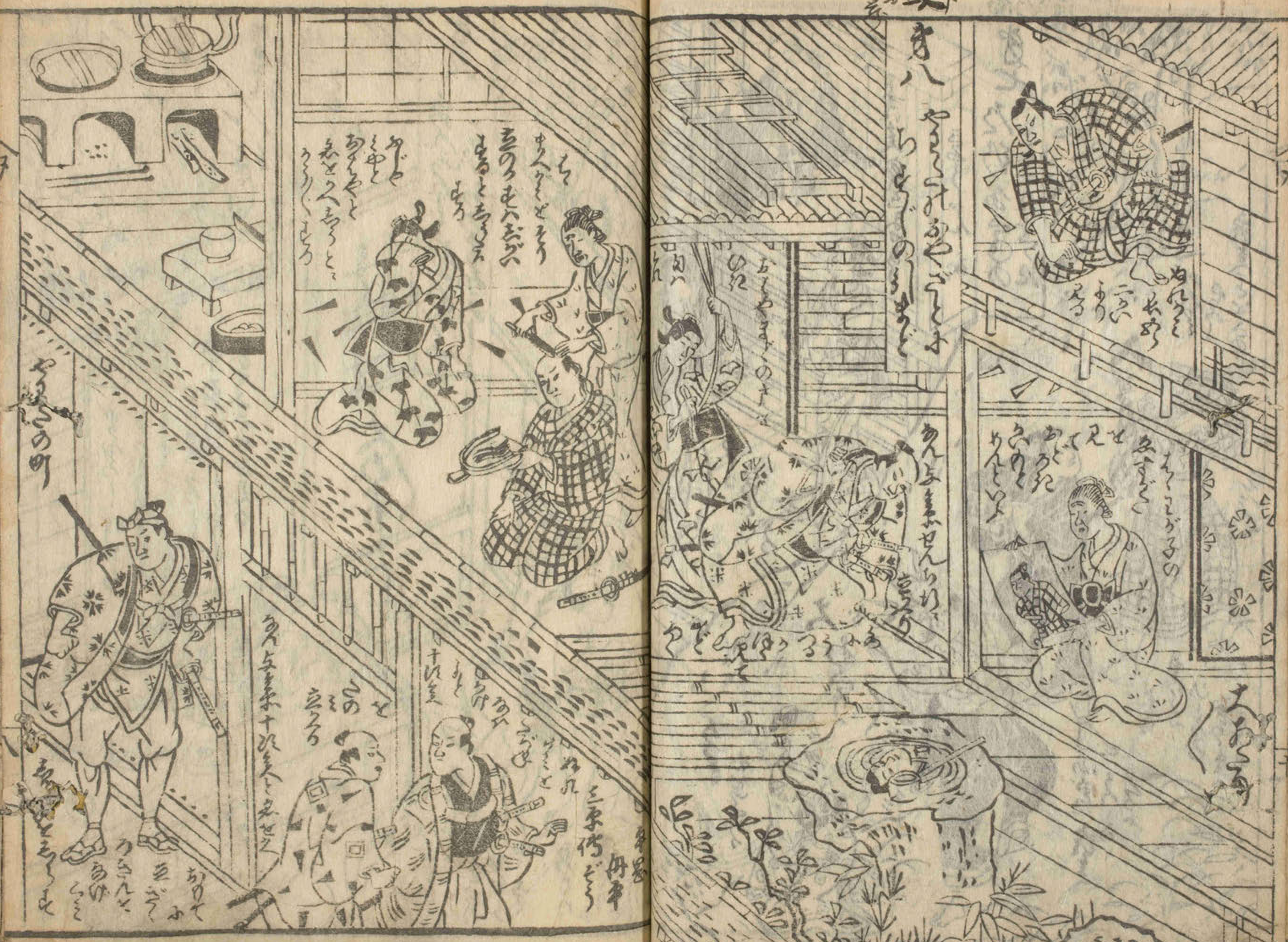

錦
大でき

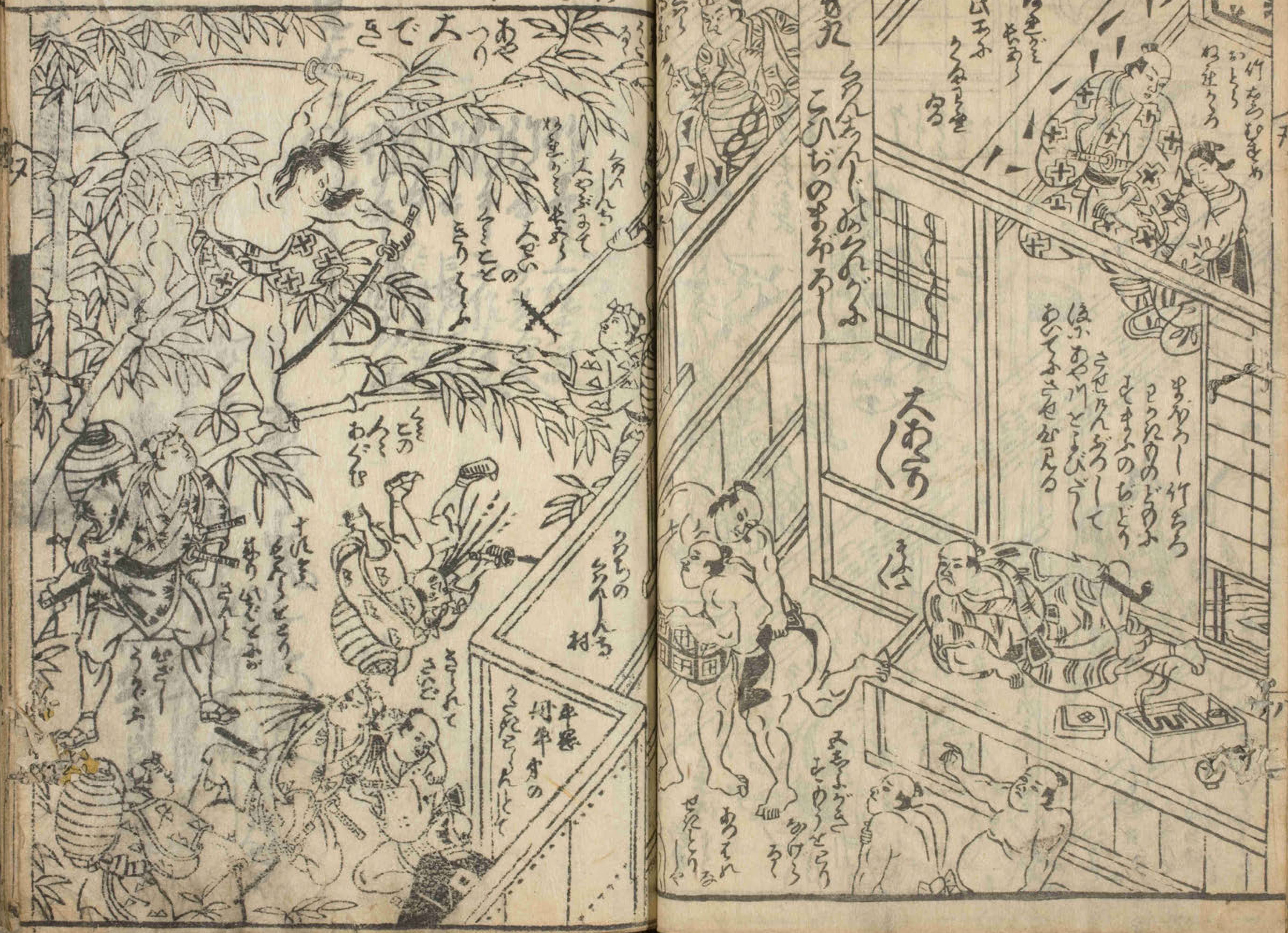


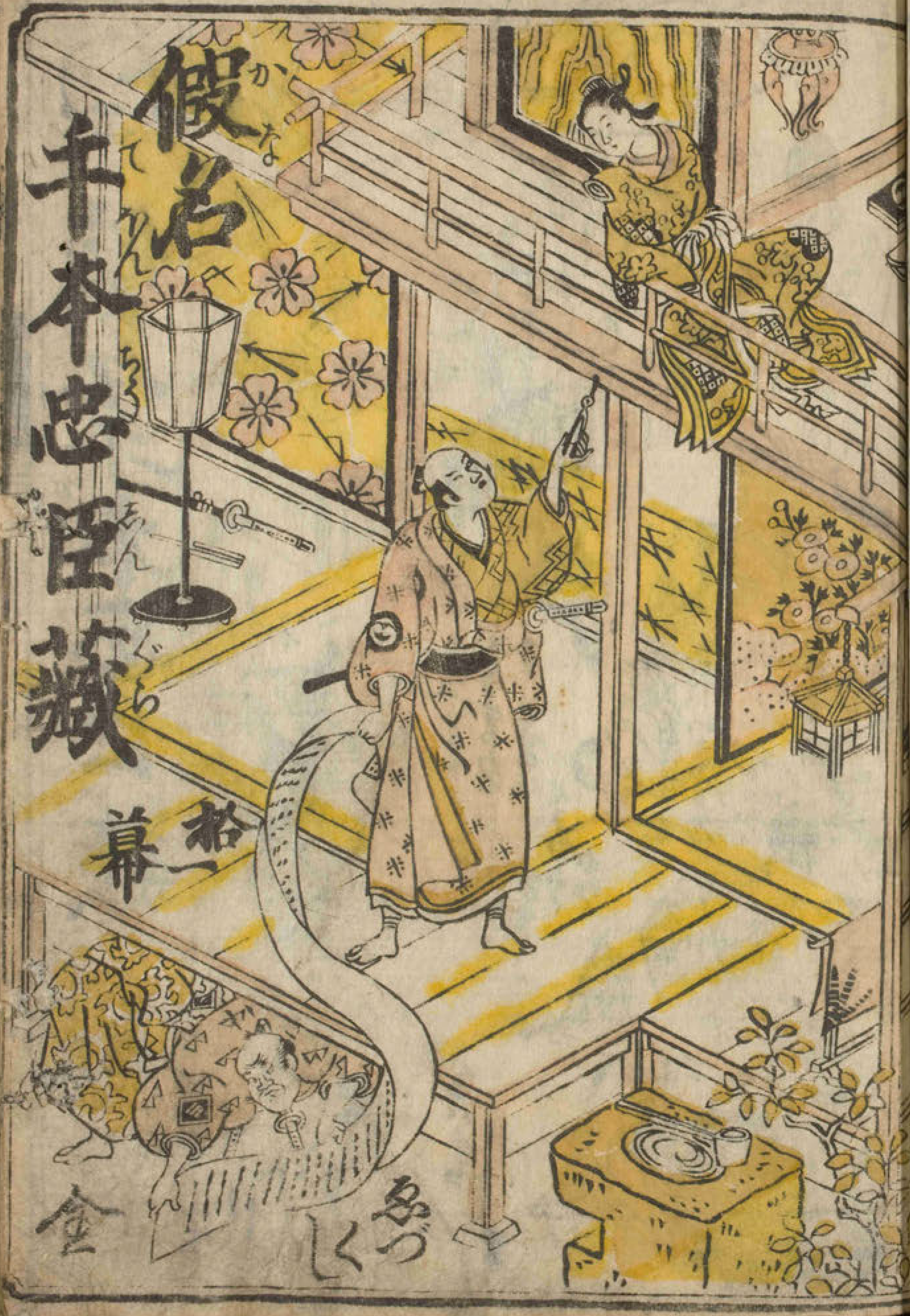


大高 長門 信濃 土佐 大和 若菜







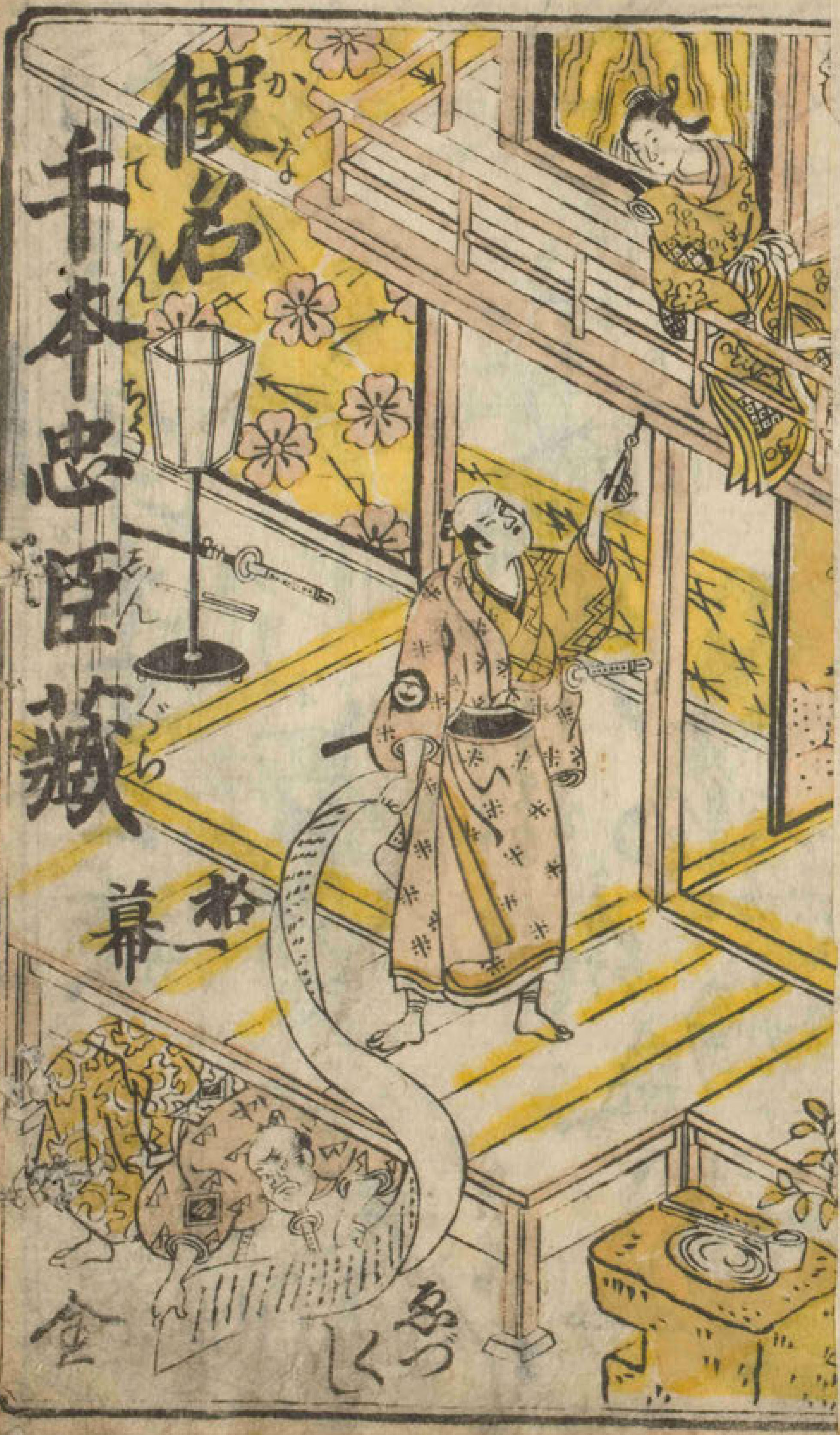


竹本大隅掾

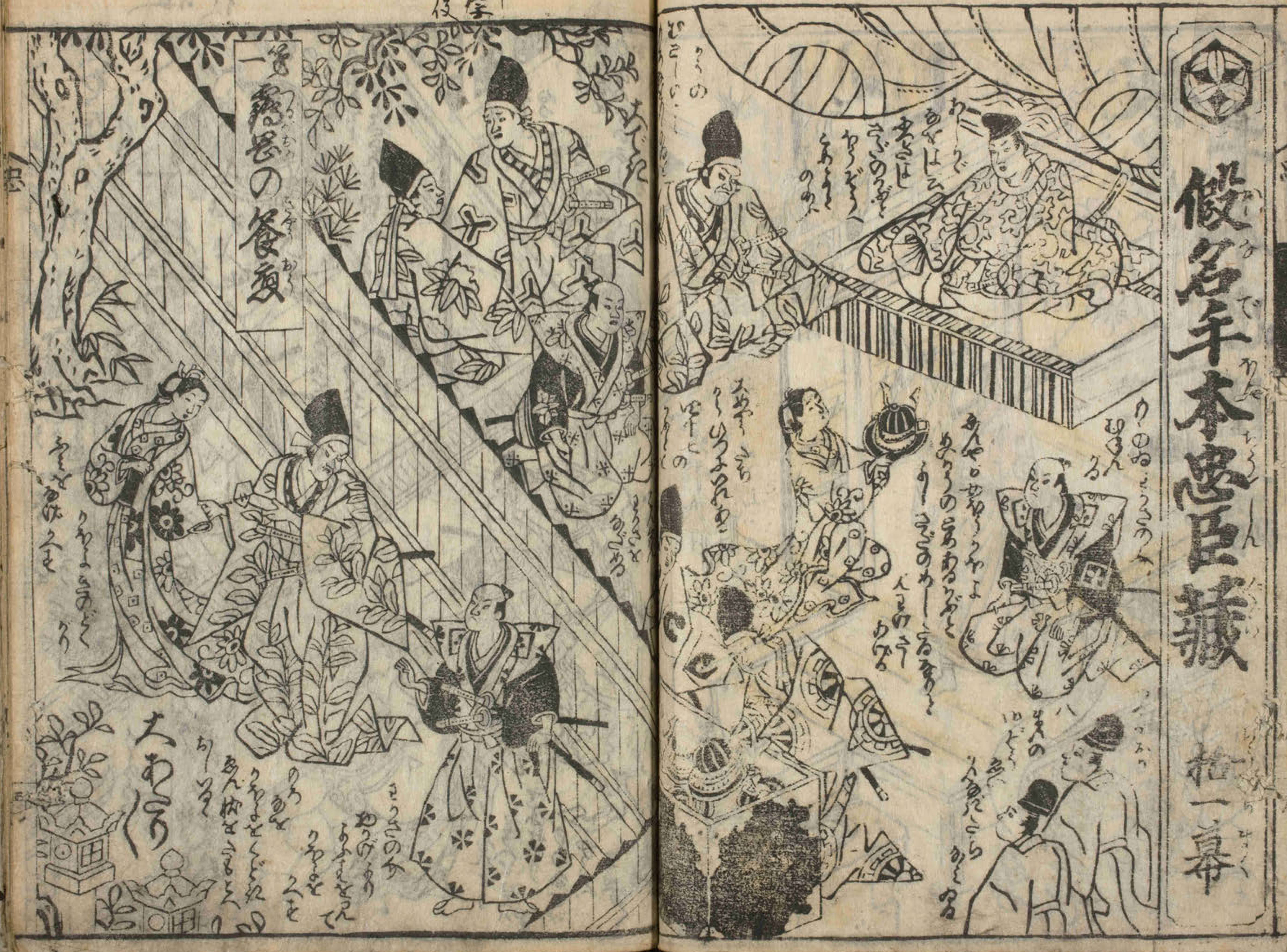
寺町通五条上町
八文字屋八右衛門板

名代芝居是始也
座元嵐三右衛門
南側芝居にてはじまる 寛延二巳八月二日より 大当り
上るり 竹本音太夫
竹本□太夫
三味線 鶴沢□三郎
作者 並木千柳

綴目翻転

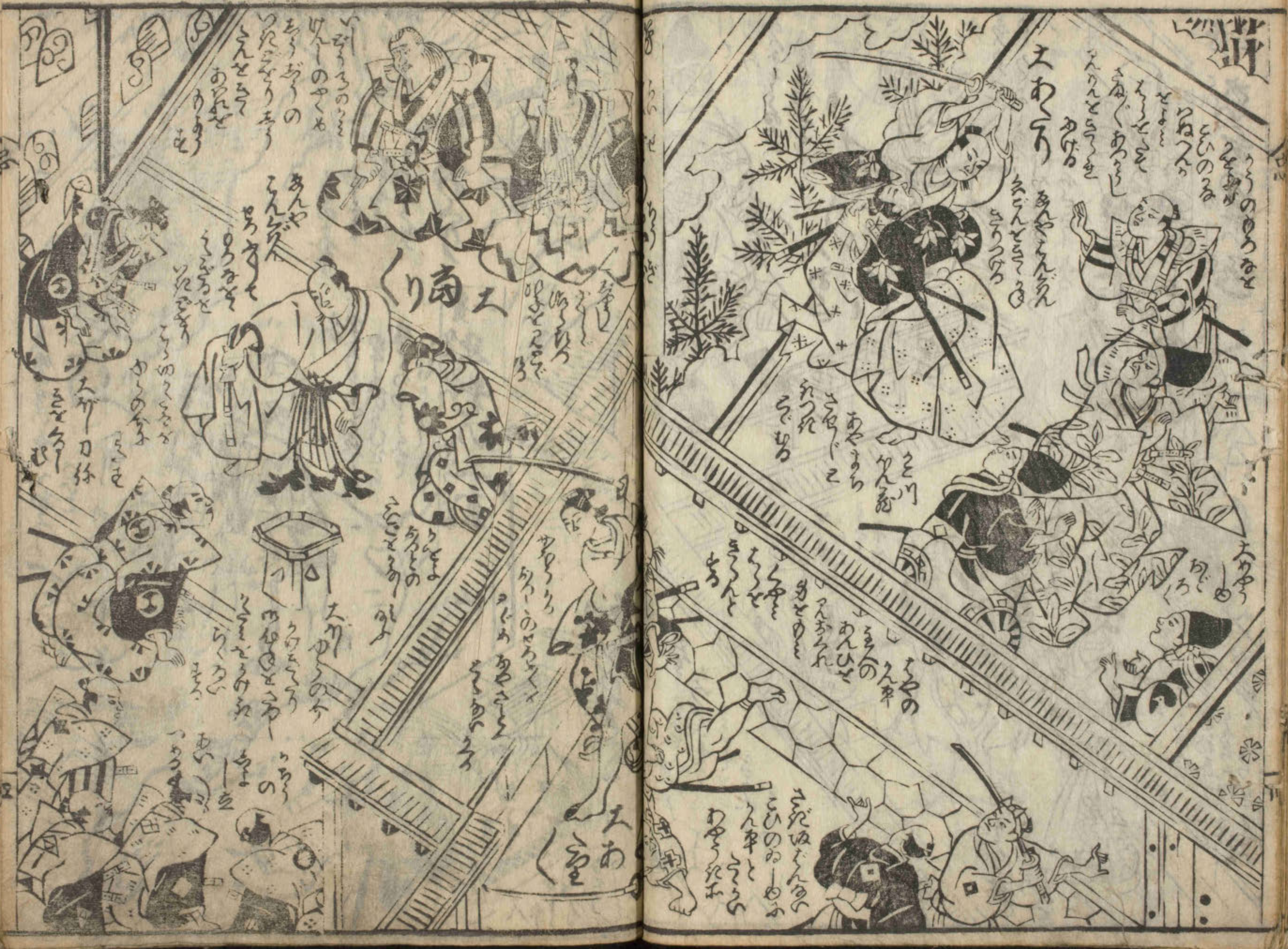


名代豊竹越前少掾
座元　嵐三右衛門
南側芝居ニおゐて狂言　寛延二己巳八月十四日より
大当り
上之巻
浄るり　竹本音太夫
一　浄るり　竹本□太夫
三味線　鶴沢□平
右三人作者　並木・千柳

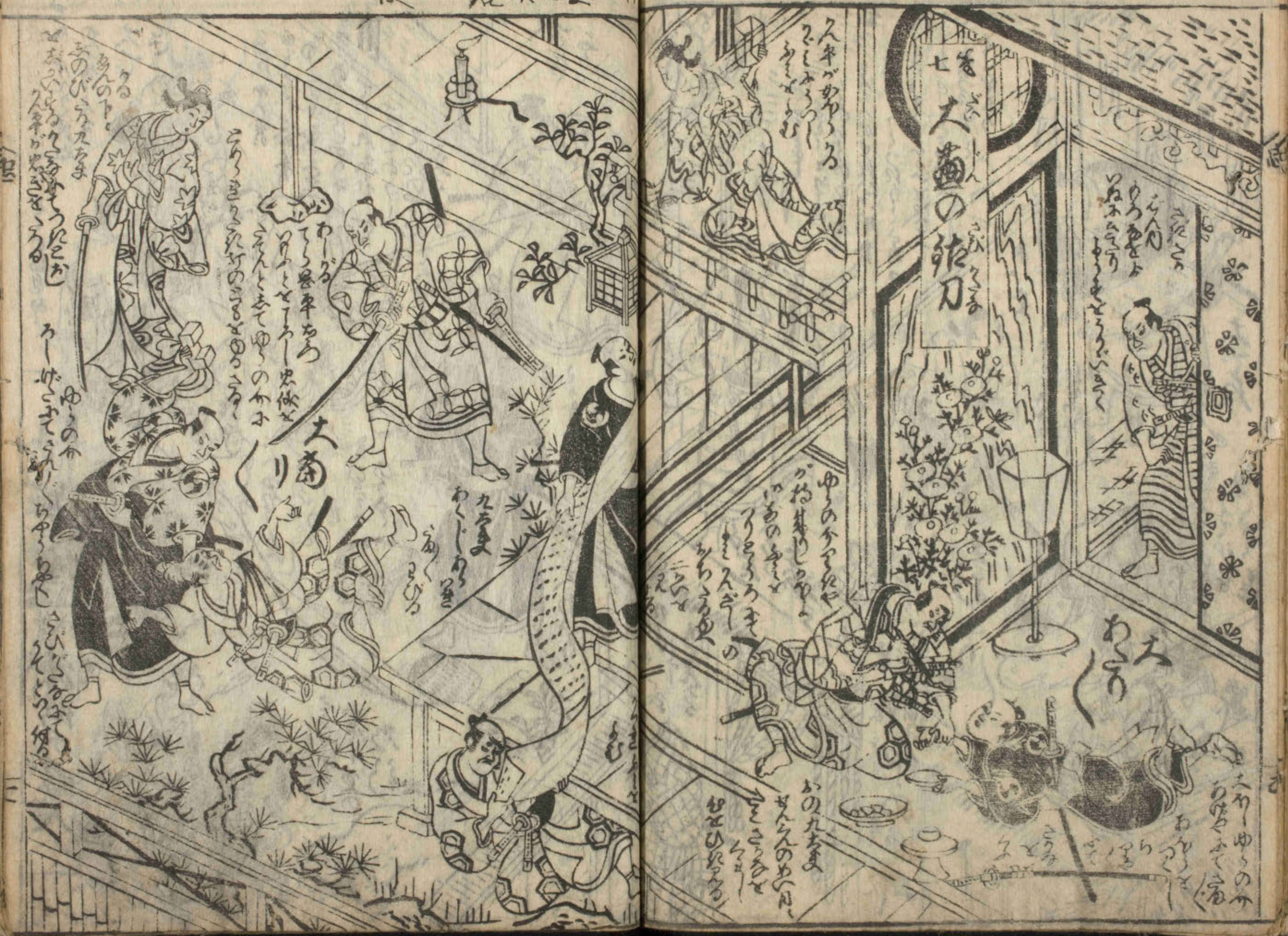


文字役
假名手本忠臣蔵
拾一幕

三番
二番



大あたり
大あたり


七 大菊の錆刀

九 山科の名将

十一

第三　竹本信濃太夫
竹本百合太夫

第四　竹本政太夫

第五　竹本百合太夫

第六　竹本政太夫

第七　竹本此太夫
竹本文字太夫
竹本友太夫
竹本信濃太夫
竹本百合太夫
竹本政太夫

第八　竹本文字太夫
大切　竹本此太夫

第九　竹本此太夫

第十　竹本友太夫
竹本政太夫

第十一　竹本浅太夫
竹本信濃太夫

三味線　鶴澤友治郎
鶴沢善助
鶴沢善七
大薩前藤

寛延四年八月十四日初日

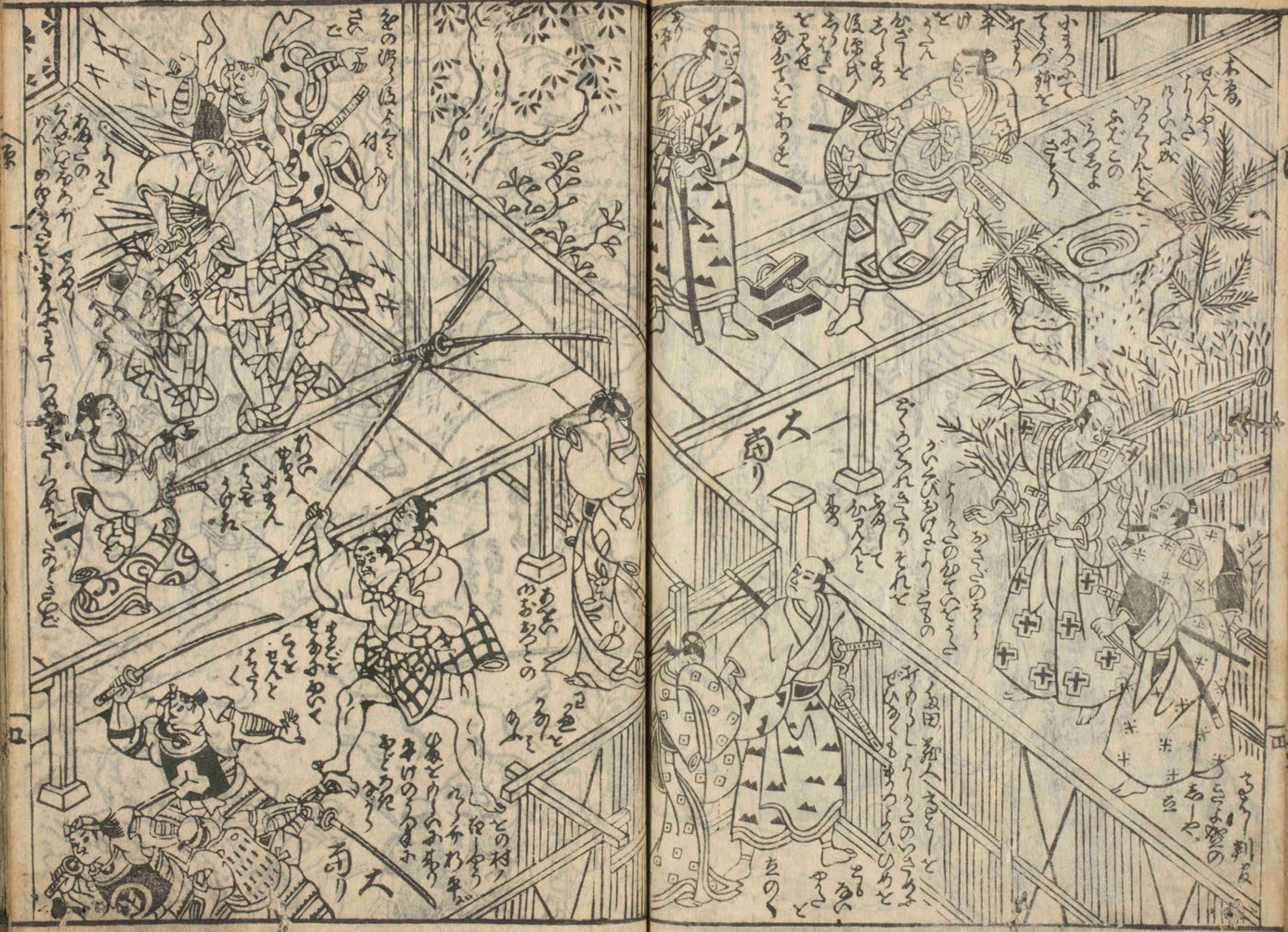
第一　竹本文字太夫
第二　竹本染太夫

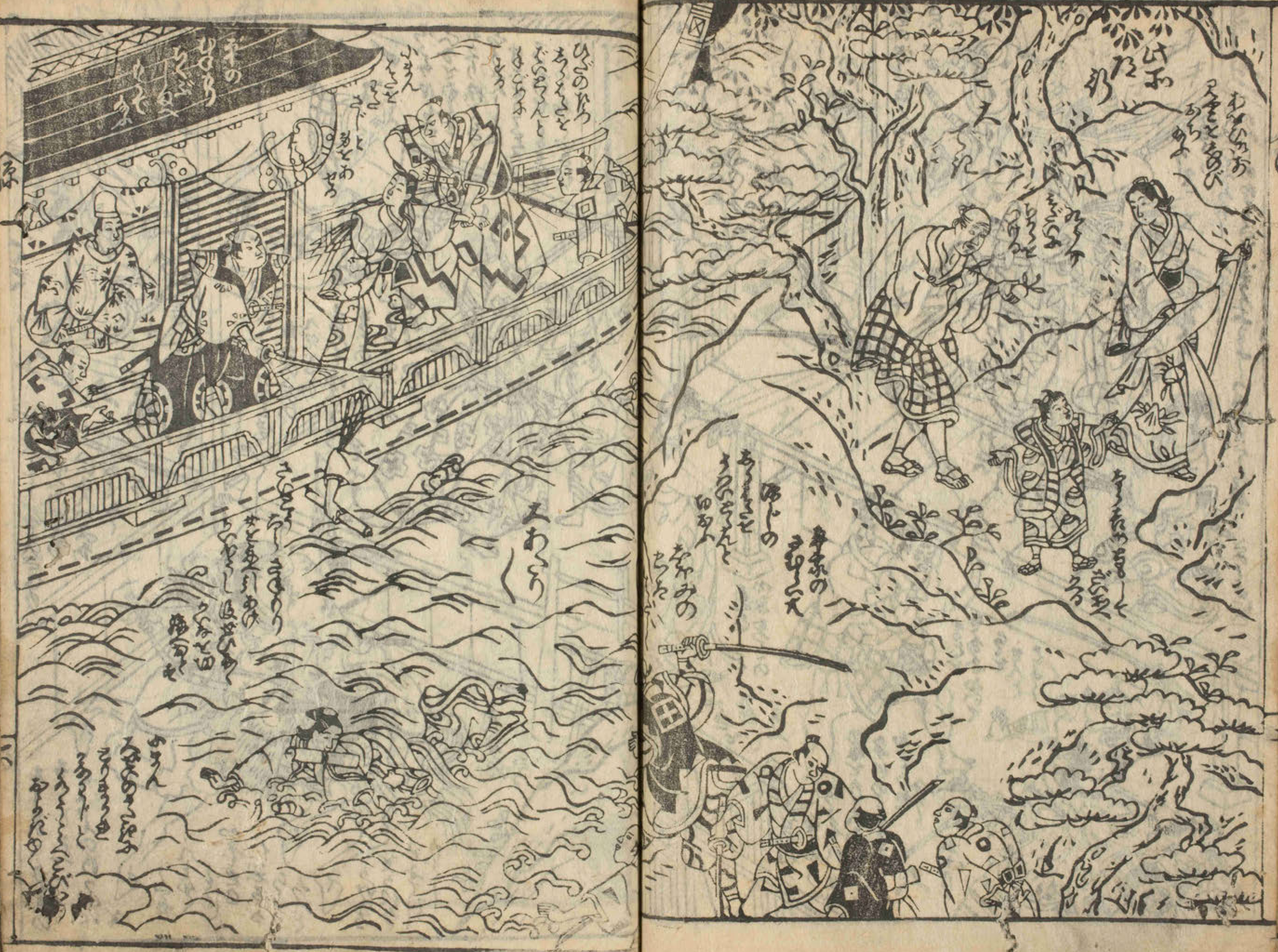
京寺町通五条上ル町
八文字屋八左衛門板

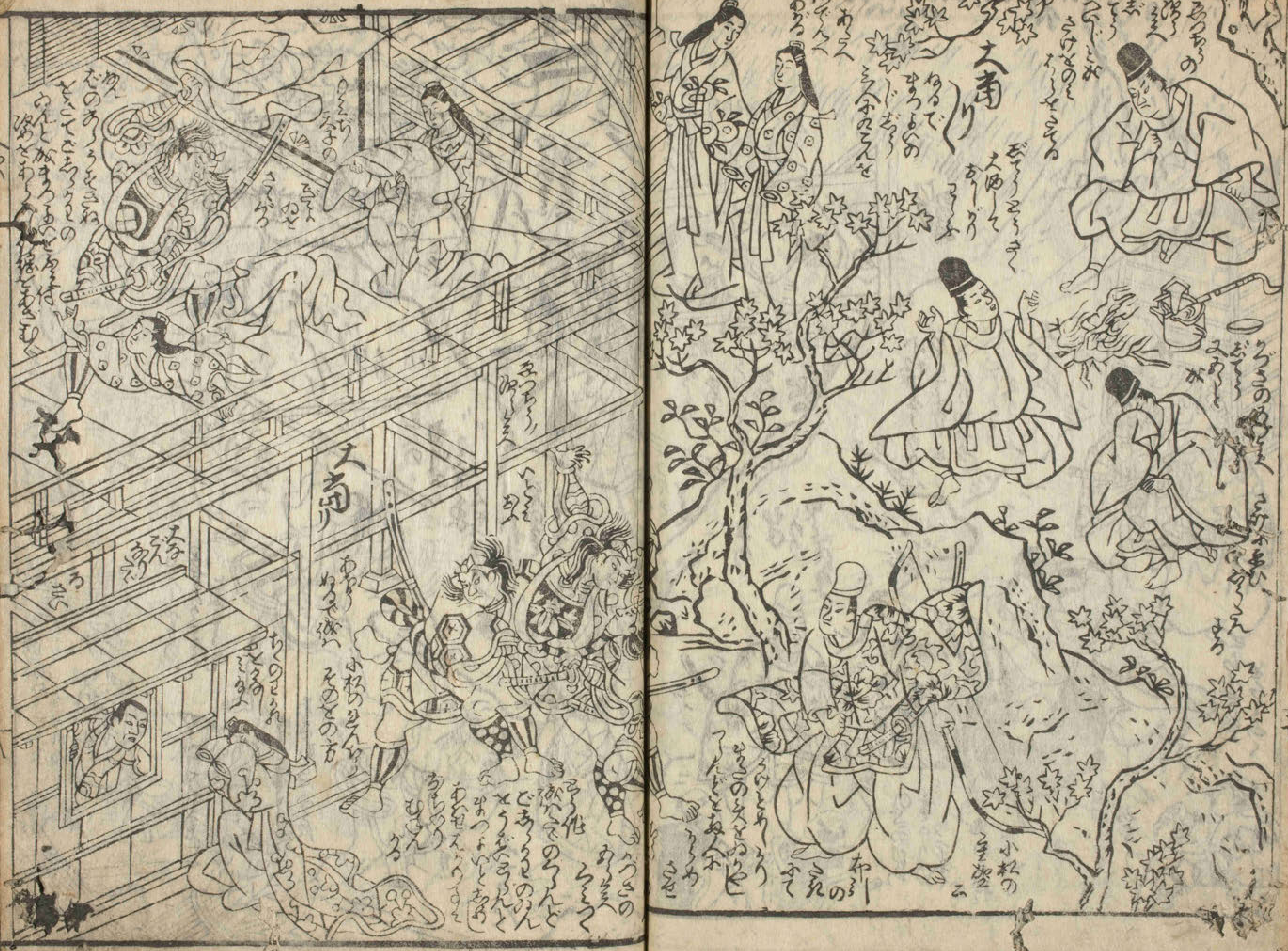
第一 竹本文字太夫
第二 竹本染太夫
京寺町通五条上ル下丁目
八文字屋八左衛門板

綴目翻転

待宵侍従
優義蔵人
源平布引瀧
五段續




小まん
小まん



小松の

初段　二　三　下　切

竹本[illegible]太夫
竹本[illegible]太夫
竹本錦太夫
竹本[illegible]太夫
竹本政太夫
竹本上[illegible]太夫

道行
竹本大隅掾

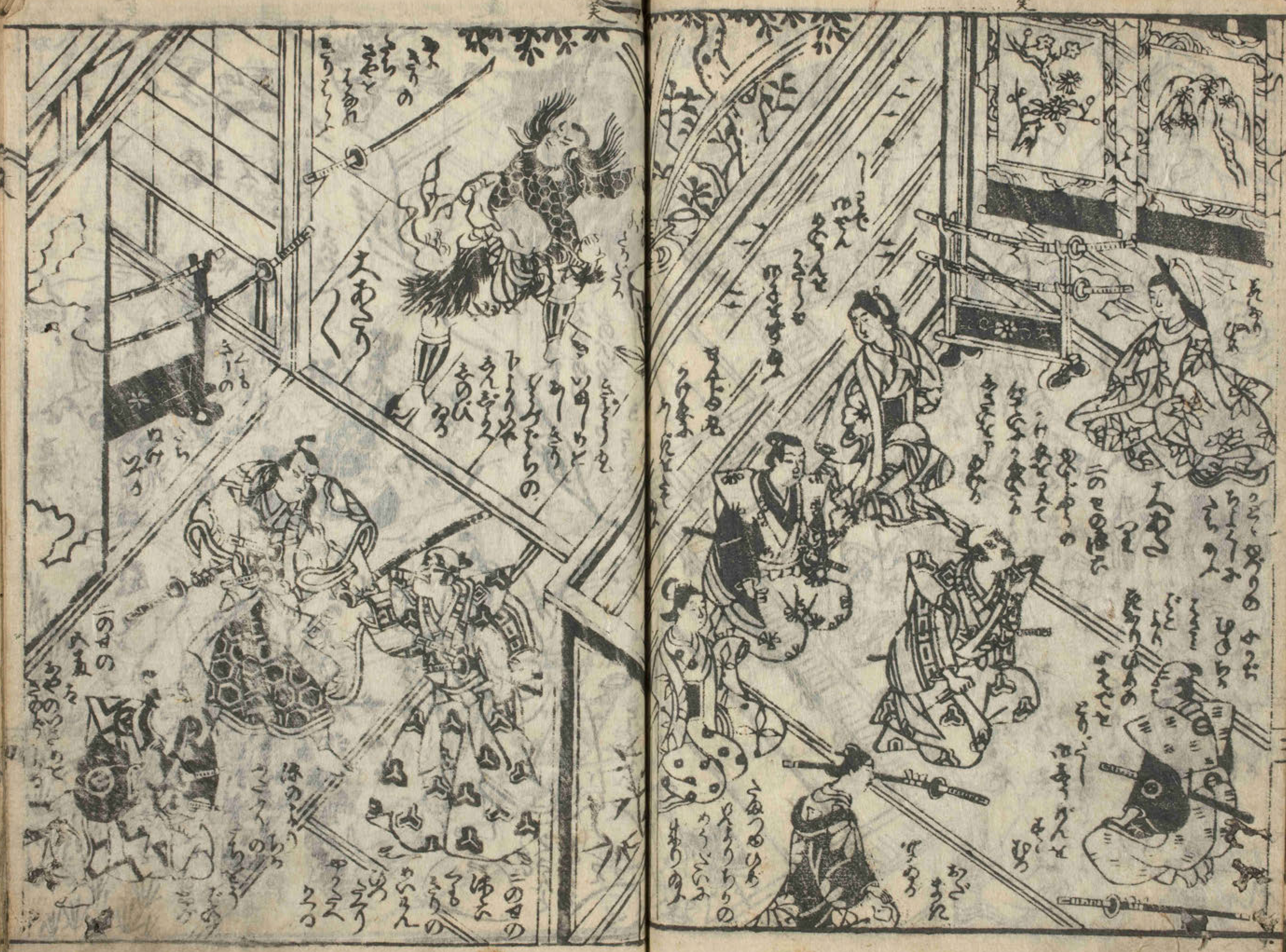
竹本長門太夫
竹本上総太夫
竹本[illegible]太夫

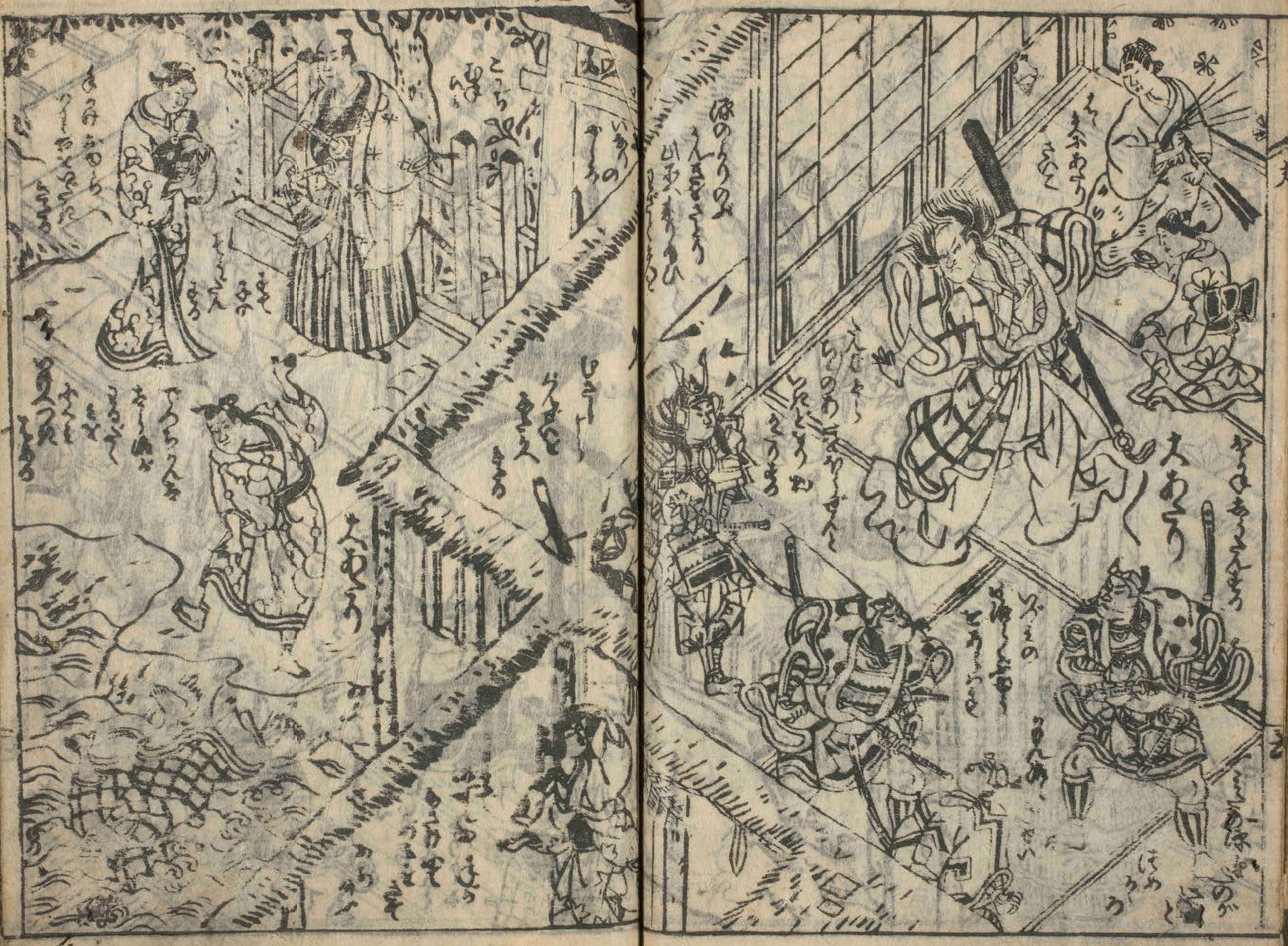
竹本大隅掾
竹本錦太夫
竹本[illegible]太夫
竹本[illegible]太夫

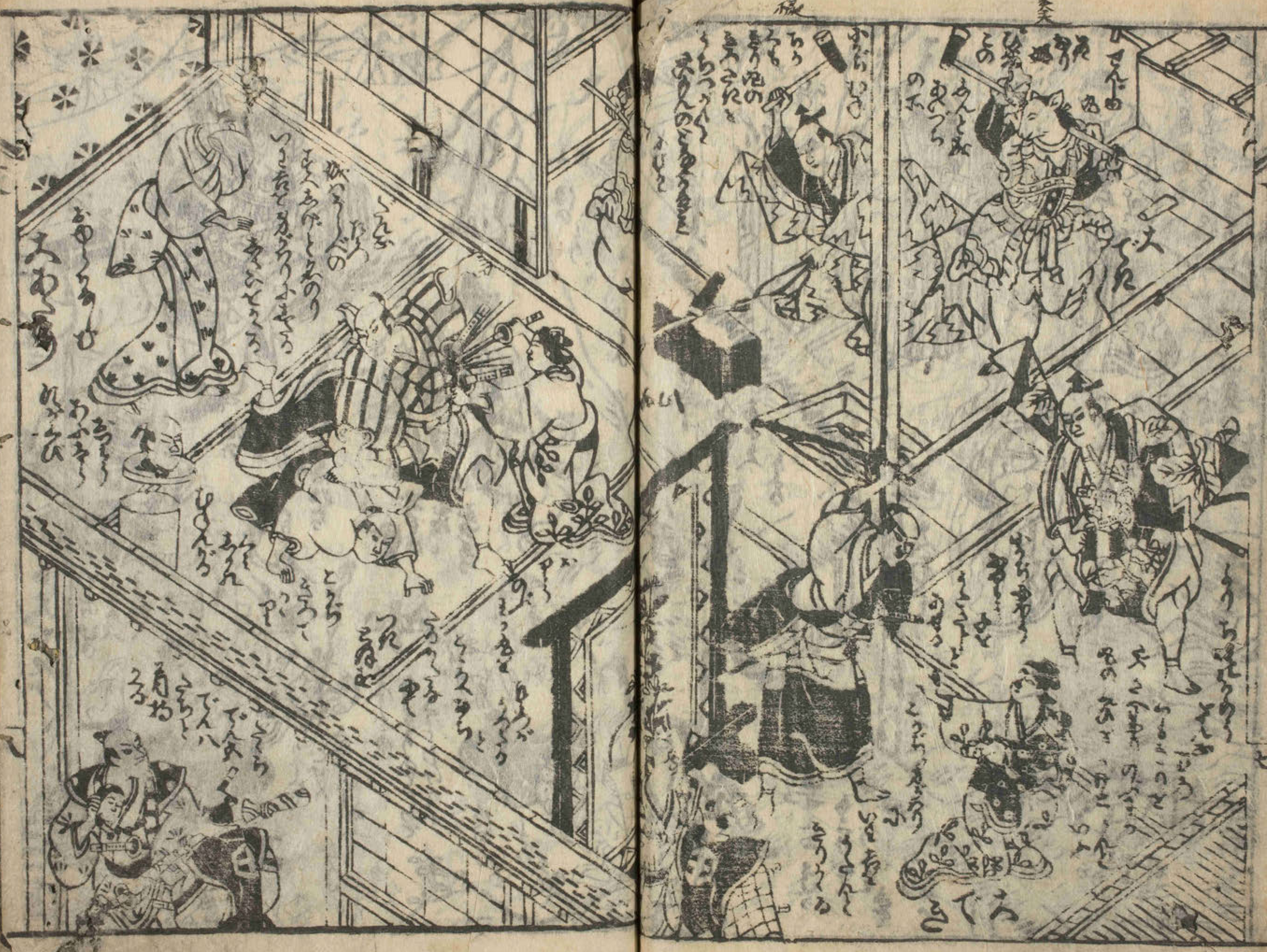
正本屋山本九兵衛板

源頼信
源頼親
文武
世継梅
全

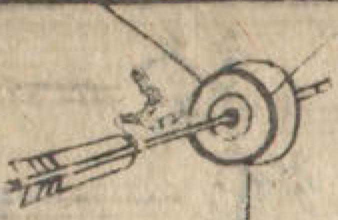
源氏伝
源氏釈







釣船三婦
一寸徳兵衛
夏祭
浪花鑑



第弐　夜のてうちんとまいりこぬくくおやま[illegible]

第三　出会いはずとも[illegible]に若衆ども[illegible]いれおさこたて

第四　手代若[illegible]まで[illegible]入[illegible]

第五　なり　いさせて若衆

第六　男はいちどきに立ぬいてさやはかれ　女郎うだて

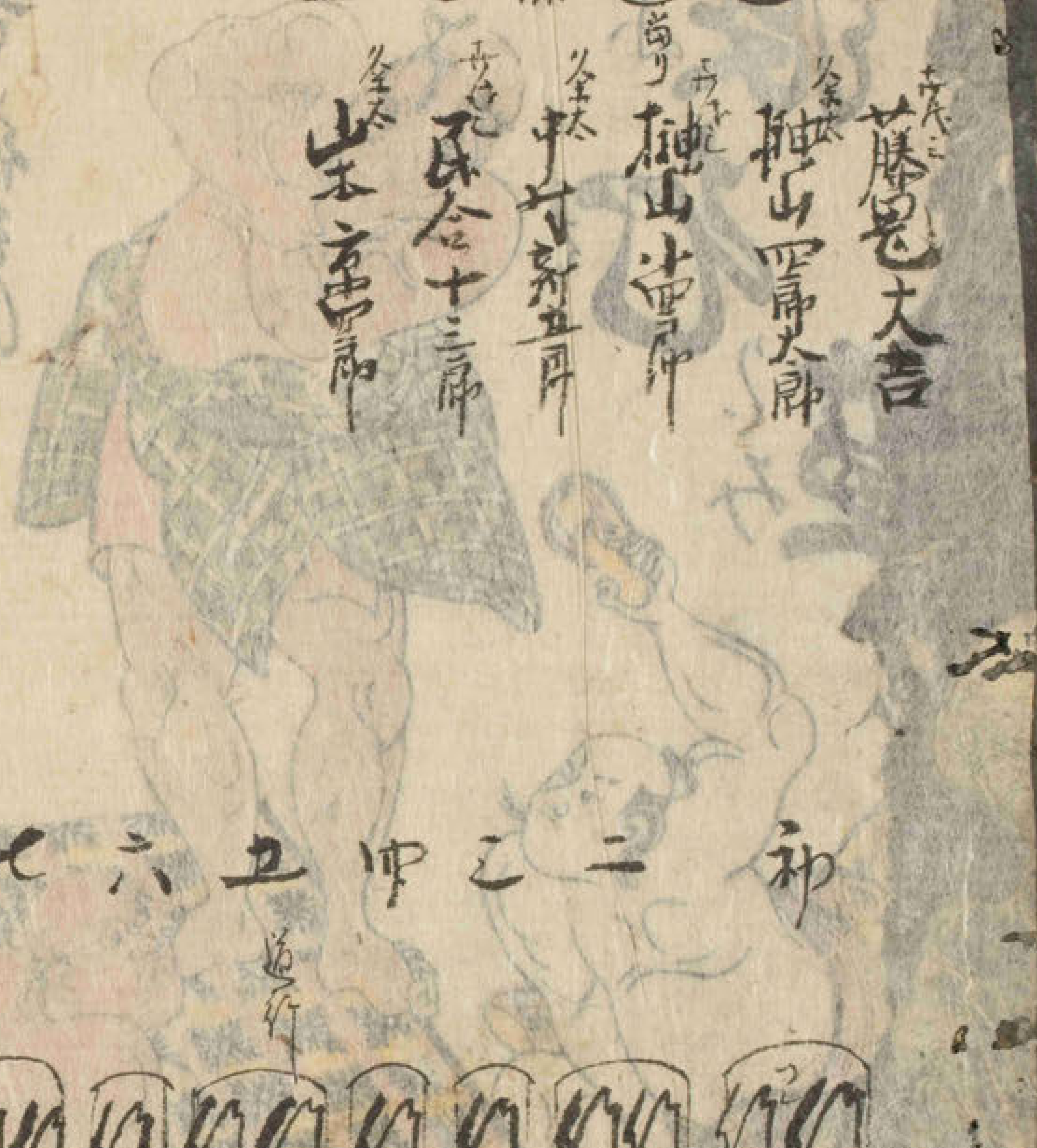
第七　男ぶよくとよか[illegible]は若[illegible]入てこ

第八　親と子は縁を[illegible]かで[illegible]

第九　とりかすが行年義太夫が新浄瑠璃の

始りなれはこれらうじまよ

初秋中ノ六日



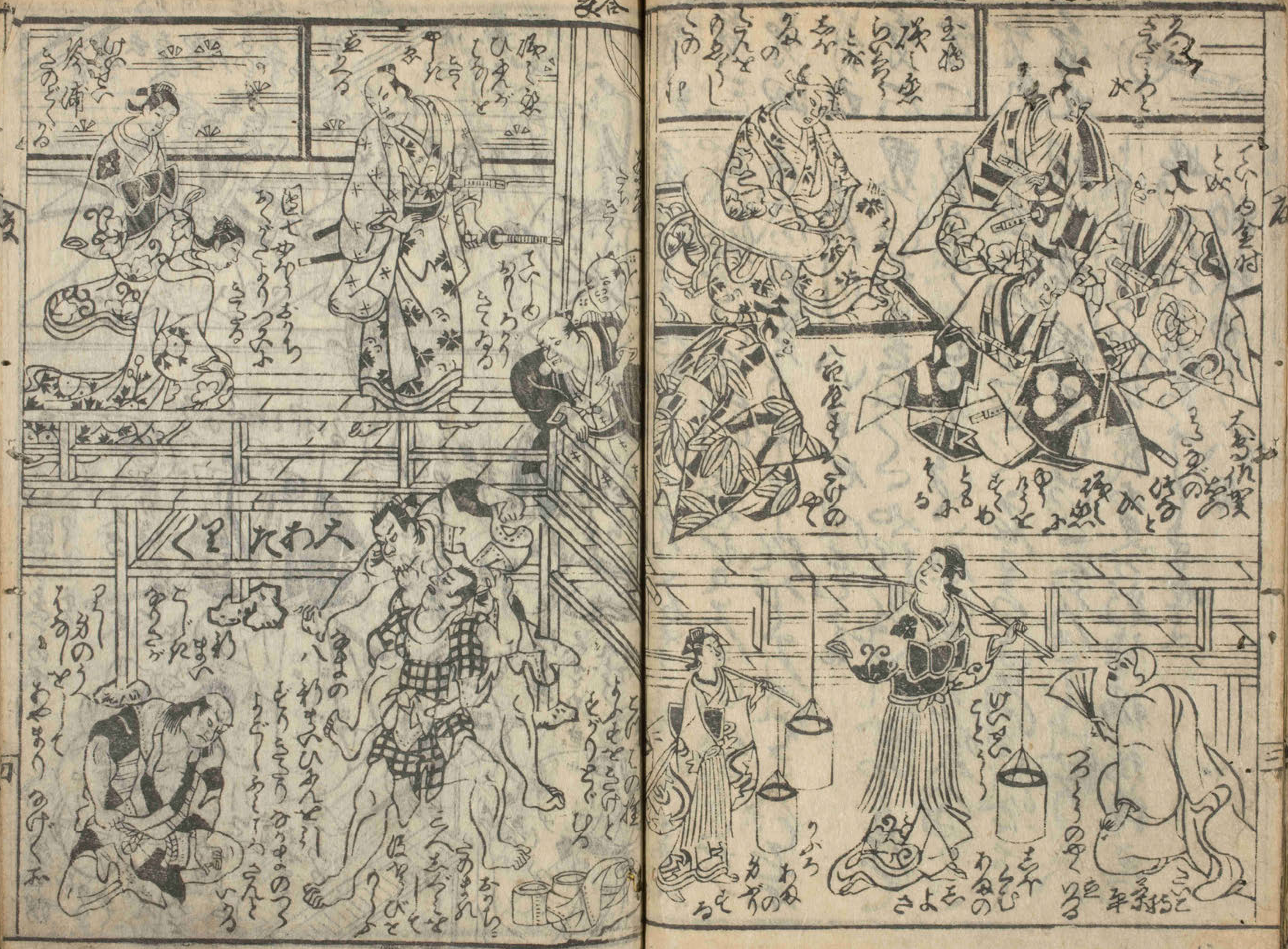
九歳
一夜
法[illegible]

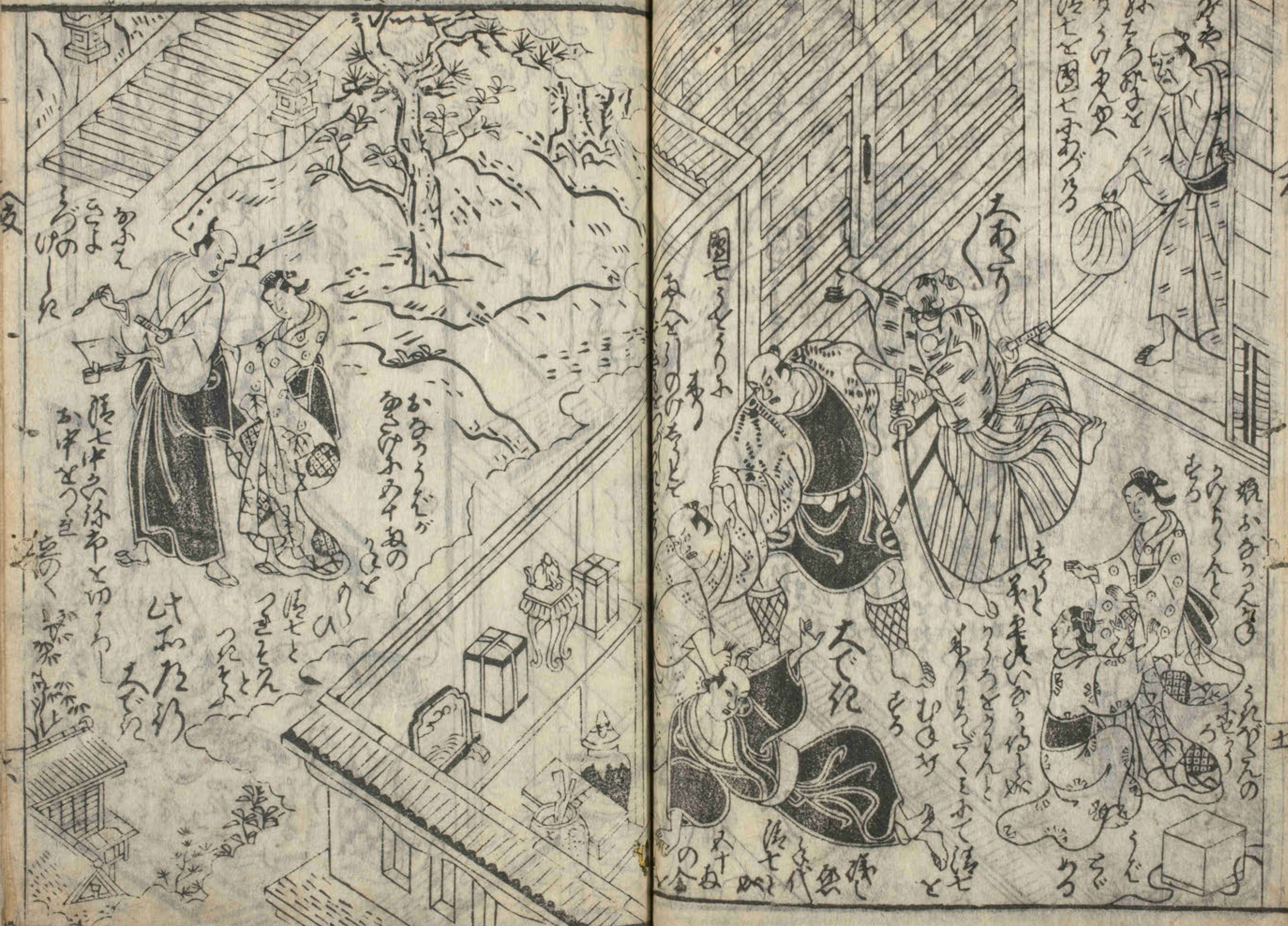
藤邑大吉
柚山四郎太郎
柚山書郎
中村新五郎
民谷十三郎
山本京四郎

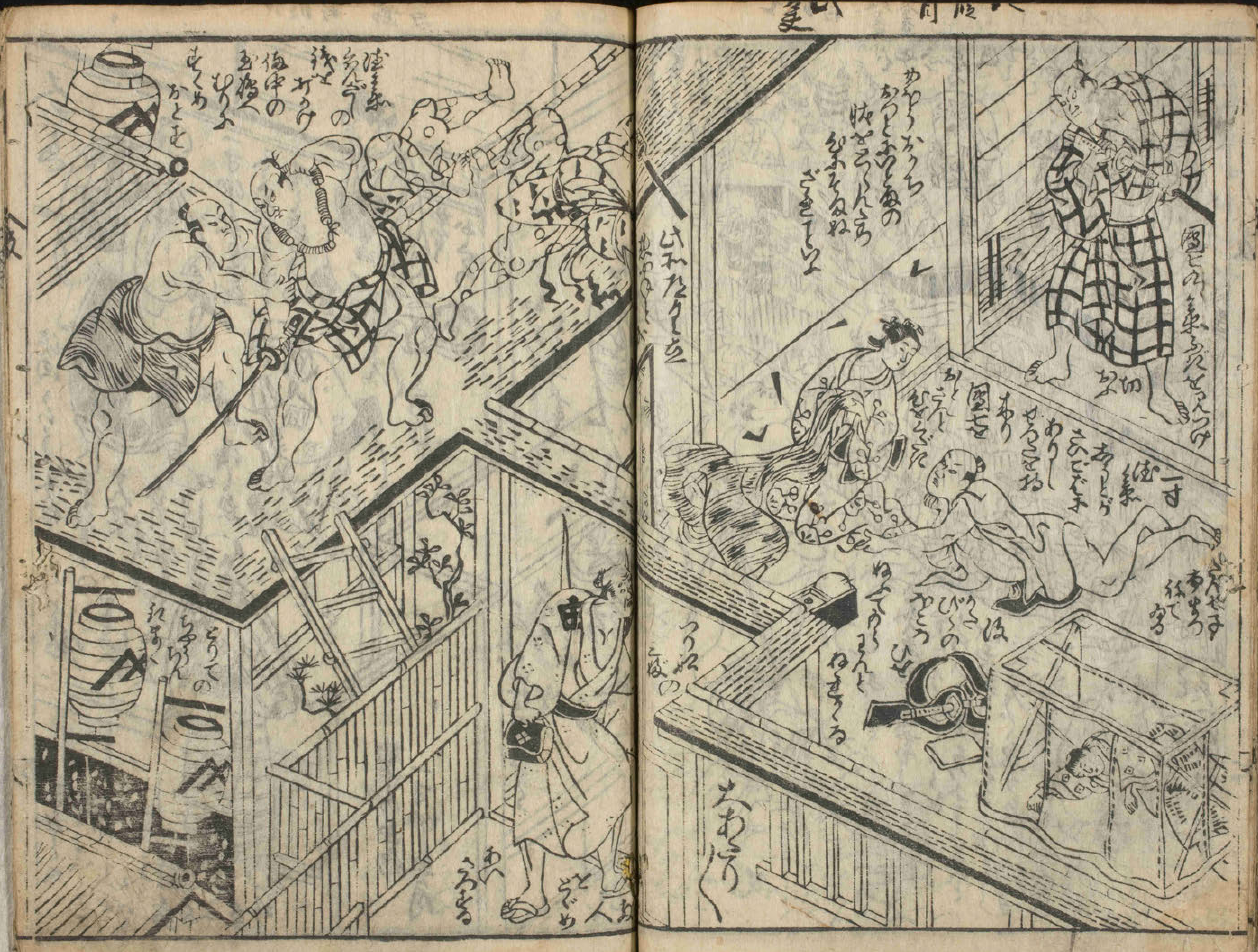
し　八月十二日かわしろ
中村条太郎
八月五日[illegible]大[illegible]
中村蕗之郎

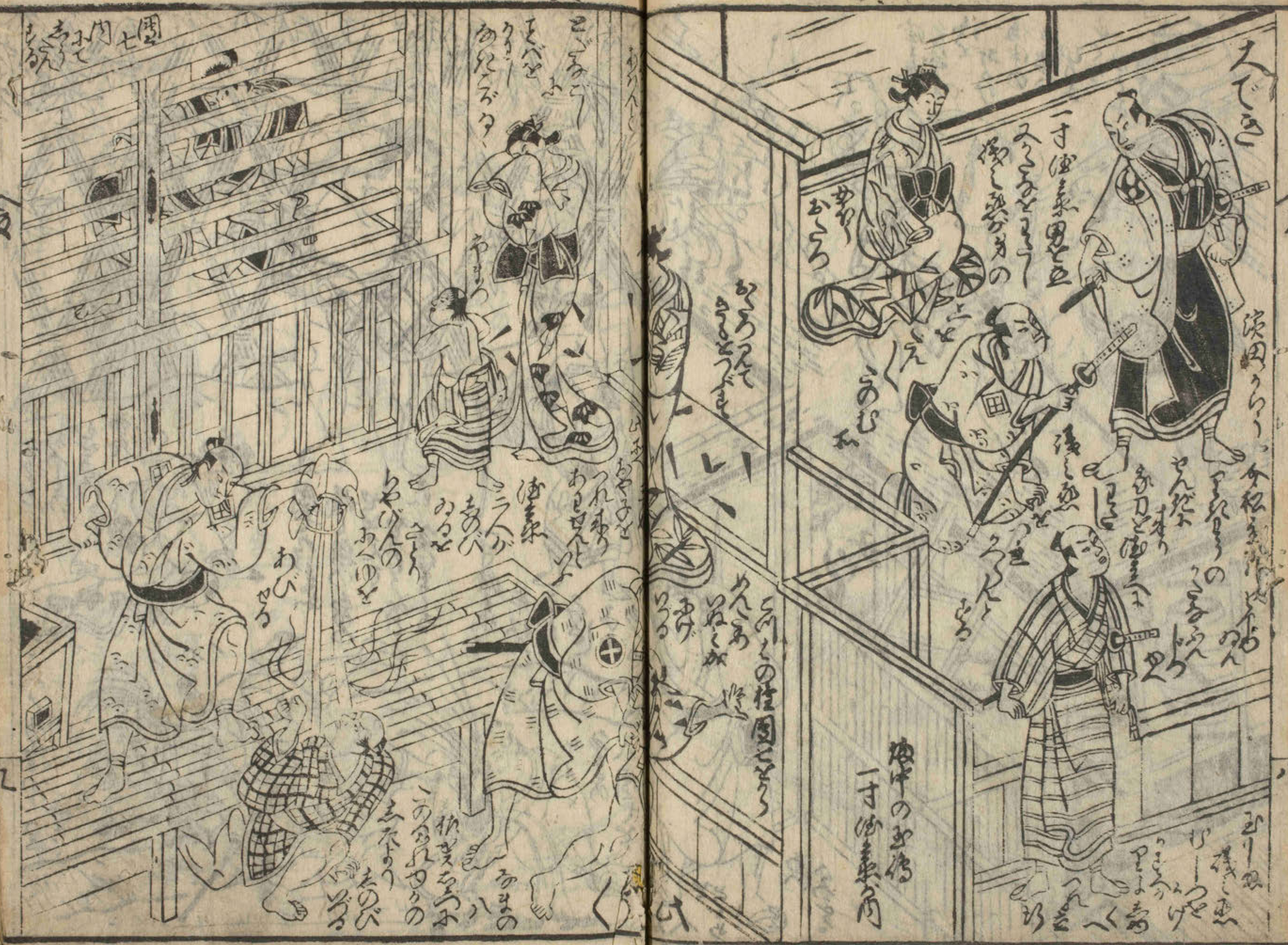
初　二　三　四　五　六　七　八　九

行年[illegible]才
行年百合[illegible]才
行年柚[illegible]才
行年[illegible]才
行年錦[illegible]才
行年政[illegible]才
行年[illegible]才
行年柚[illegible]才
行年[illegible]才
行年一百合[illegible]才
行年政[illegible]才
行年[illegible]才
行年錦[illegible]才









京二條通寺町角
いつゝや庄兵衛板

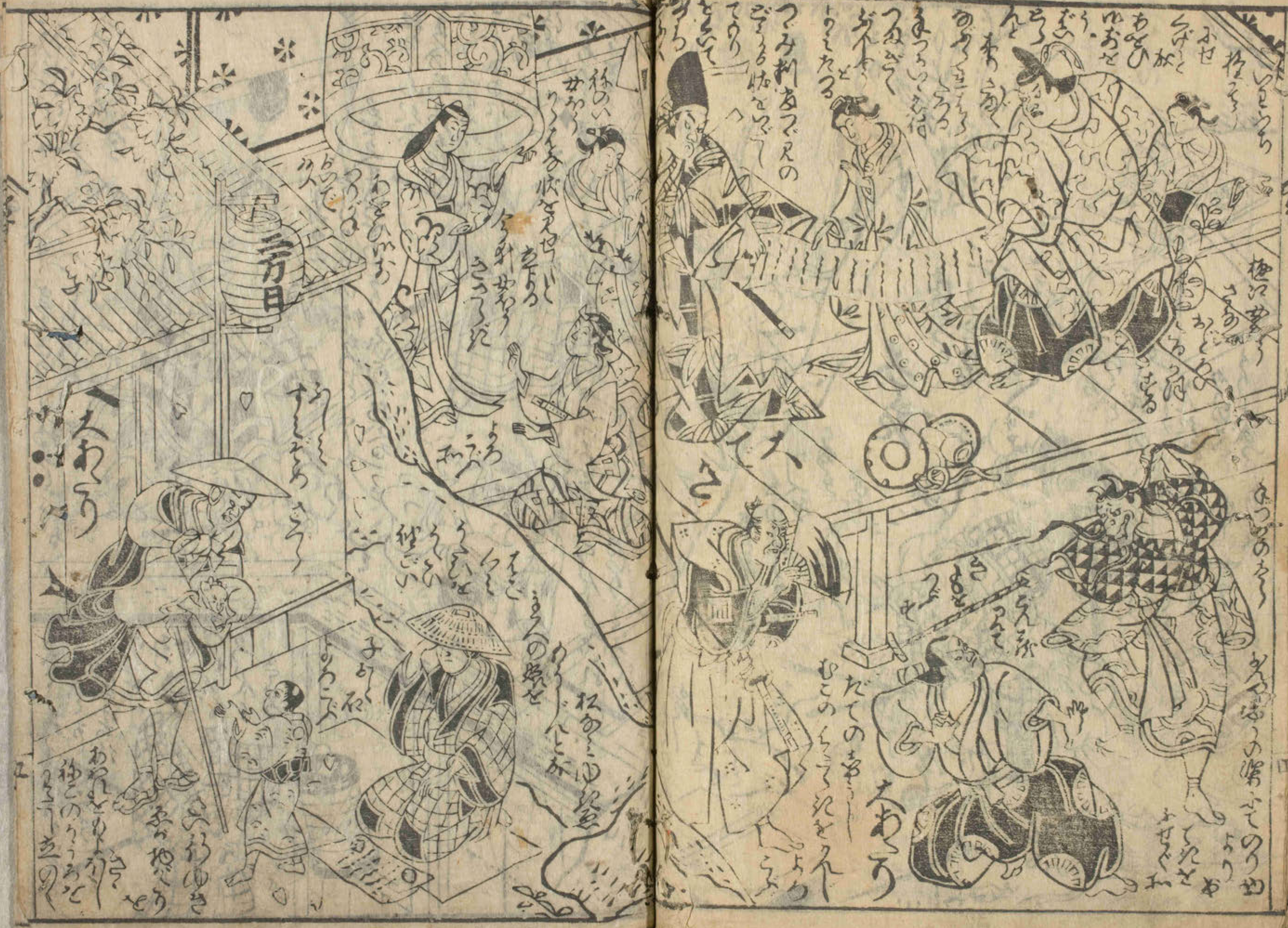
軍法富士見西行
全

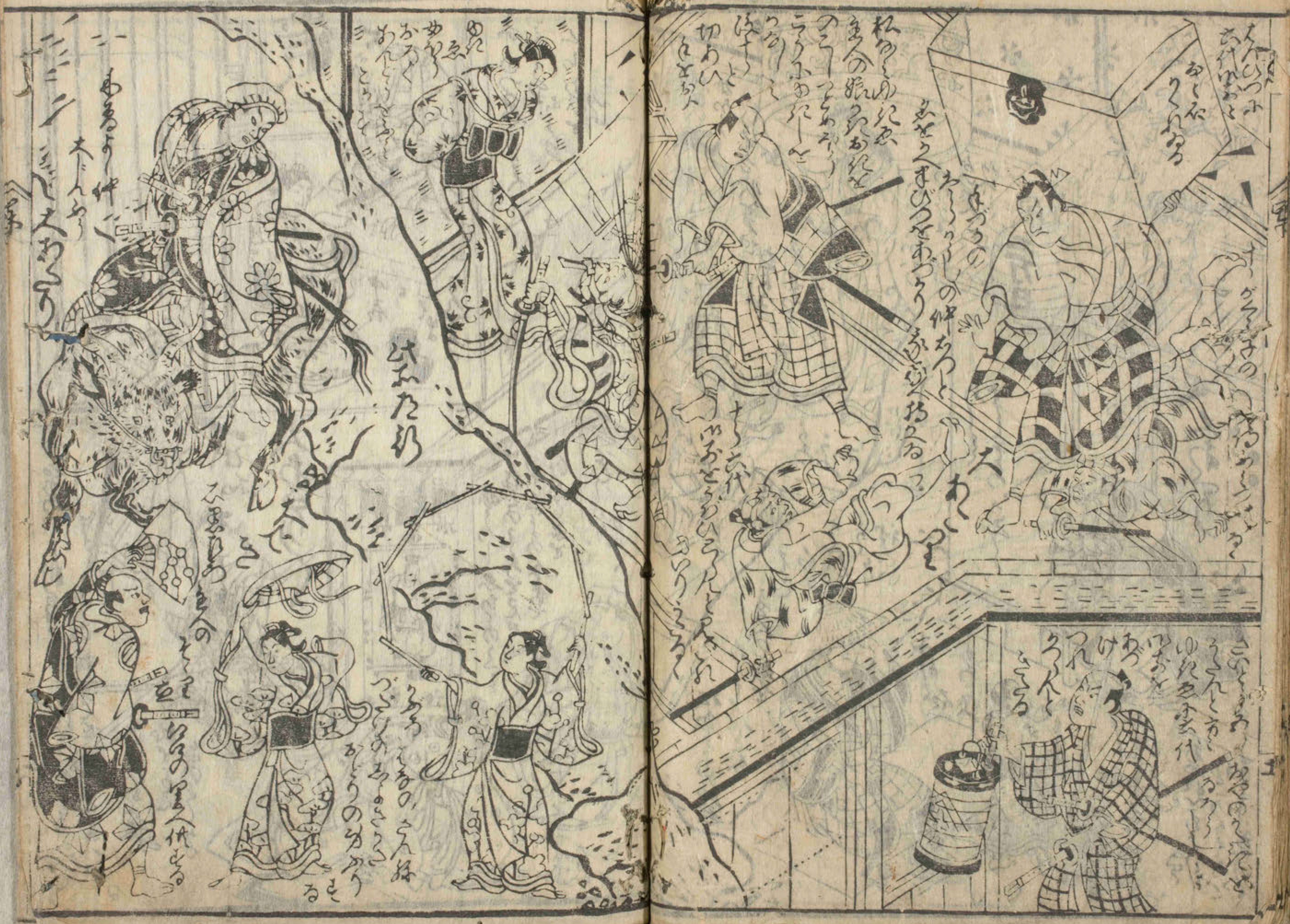
序　延宝三丑年二月十三日

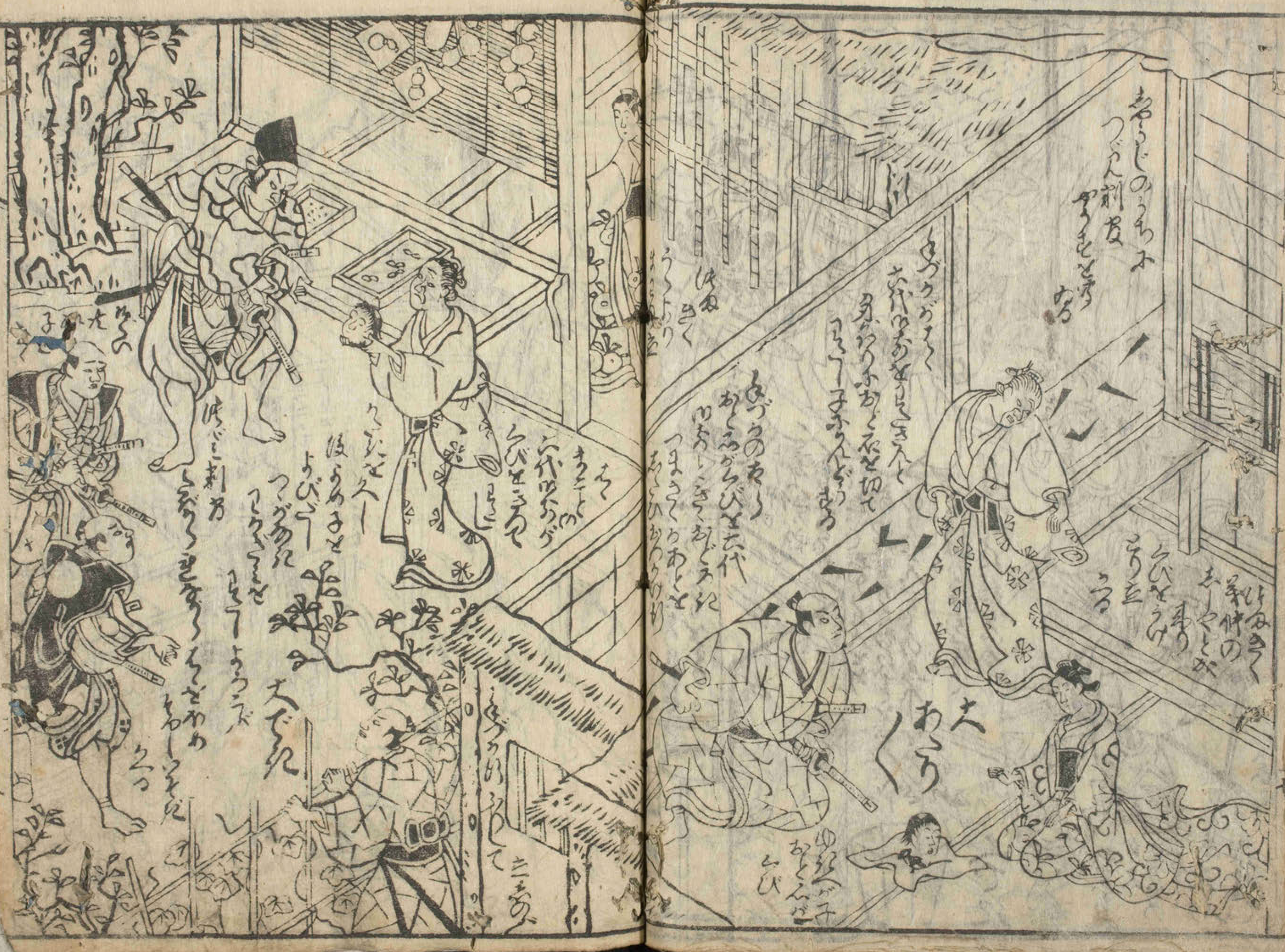
加賀の國ハ篠原合戦是ハ浄瑠理ハ木曽義仲
まん実盛の物語となをし嫉妬をこらへ
盛衰記ハ木曽義仲の軍記の後を語る前後
の名ニ残る富士の西行と新浄瑠理ハ木曽義仲
太夫の名を新組芝居を堺屋お目度と治ハ中ハ
の中の字有る瑞相軍配目の出ぬ事
戸口ハ悪いとちらし　太夫　かるハ出　のちらし

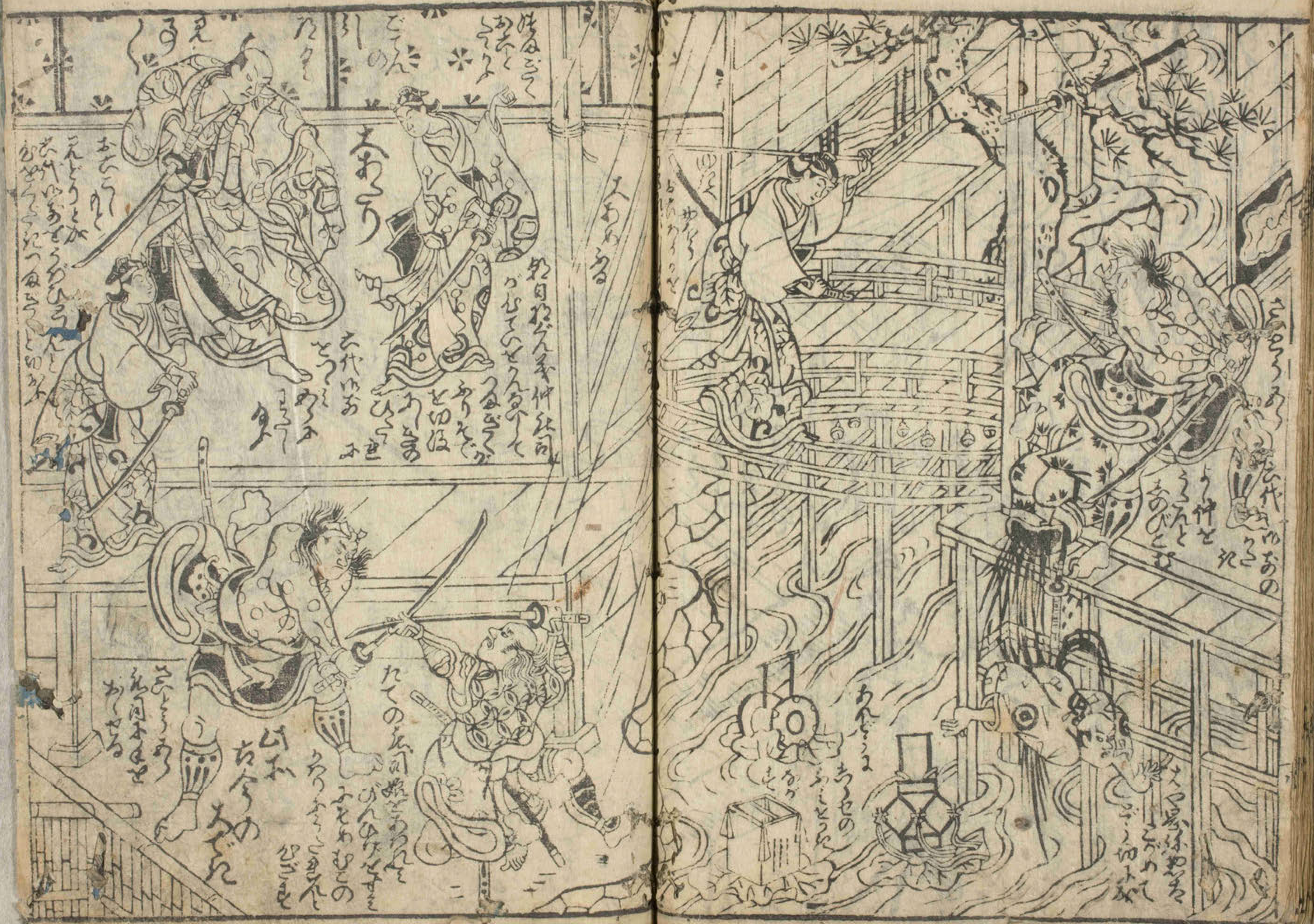
むかしハちらし今ハ前ニ人五文字と
三郎ハ子より江戸ニ出し家来
並ニ
子ハ奥ねりより縁もと此
句と続こ絵かこら記ある縁の記

行年　式太夫
行年　甚五太夫
行年　松五太夫
行年　夏五太夫
行年　紀五太夫
行年　錦五太夫
行年　綿五太夫
行年　政五太夫
行年　和五太夫
行年　紀五太夫
行年　甚五太夫
行年　錦五太夫
行年　七太夫
行年　夏五太夫
行年　紀五太夫
行年　鶴五太夫
行年　文五太夫
行年　夏五太夫









京二条通寺町西江入
正本屋山本九兵衛板

三絃

鶴澤三五郎
鶴澤市之助
鶴澤重三郎
竹澤伊和右